学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHC12S034S	専門教育科目 健康教育学領域 健康管理分野	運動生理学 Exercise Physiology	２単位	必　修	講　義	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	運動生理学は、20 世紀前半はスポーツ活動に科学的根拠を与えるものとして重要であったが、20 世紀後半には健康の維持・増進を考える基礎となる役割を果たしてきた。そこで、運動生理学の基礎となる生理学を分類し運動生理学の位置付けを理解すると共に、運動によって体にどのよう変化が生じるのか、その現象のしくみを理解することを目的とする。
キーワード	運動 スポーツ 身体 生理機能 代謝
学修教育目標	運動不足が体力に及ぼす影響について理解することができる。そして運動に対するヒトの生理的適応能力について理解し、目的に応じた適切な運動処方を作成するための能力を身につけることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

運動やスポーツ活動中における身体の生理的変化について生理・生化学的知識を解説する。授業の前半、後半に授業内容の理解度を確認するための小テストを実施し、最終段階で運動やスポーツ活動と生理機能との関連についての課題として、レポートをまとめる。このため、復習では授業毎のワークシートを整理し教科書の内容の振り返りを行い、理解が難しいことは授業やオフィスアワーを活用して積極的に質問し、知識の理解に努めることが望ましい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「機能解剖学」や「生理生化学」と関連し、「スポーツ医学概論」や「スポーツ栄養学」、「衛生・公衆衛生学」、「スポーツトレーニング概論」を中心に多くの関連する科目の学修内容を理解するための基礎となる。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：生体のしくみ標準テキスト　第３版 著者名：高松　研 出版社：医学映像教育センター

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	運動と身体機能との関係として、臓器や運動器の代謝調節系を中心とした生理メカニズムを理解する。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	ペアワークやグループワーク課題において、他者に働きかけながら課題解決に取り組むことができる。	○
	③　実行力	学修課題を設定し、計画的に予習と復習に取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	授業内容を分析し、学修課題を抽出し課題の解決に取り組むことができる	○
	②　計画力	授業の予習を計画的に進め、授業内容や小テストの課題について復習と振り返りを実行できる	○
	③　創造力	他の科目との関連性を見出し、生理学的な知識の理解を深めることができる	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	身体の生理機能を理解し、運動やスポーツ実施時の生理的負担度や知識の応用を考えることができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50	20	15				15	100
評価の指標	知識に関する評価	50	10						60
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価		10	10					20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価			5				15	20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
運動やスポーツ活動を支持する身体機能の生理学的な基礎知識を十分に理解している。 運動やスポーツ活動における身体機能の変化について、代謝調節系を中心とした生理メカニズムを十分に理解している。 各項目の理解度が 80%以上を満たしている。	運動やスポーツ活動を支持する身体機能の生理学的な基礎知識を理解している。 運動やスポーツ活動における身体機能の変化について、代謝調節系を中心とした生理メカニズム理解している。 各項目の理解度が 60%～80%である。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	筋収縮とエネルギー供給系 - 筋の種類と構造、エネルギー源、ATP の産生ルート - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート作成 質疑応答	復習：筋収縮とエネルギー供給系について、ATP 産生が持つ意味を復習する。 予習：筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構の特徴とその概略について予習する。	90 60
第２回 ／	筋収縮とエネルギー供給系 - 筋線維の種類、筋線維組成、トレーニングによる筋線維組成の変化 - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート作成 質疑応答	復習：筋線維の種類と構造、筋の収縮特性とトレーニングに対するネルギー供給機能との関係について復習する。 予習：筋線維組成とトレーニングに対する筋線維の適応変化の機序について予習する。	90 60
第３回 ／	筋の収縮様式と筋力 - 筋の収縮様式と各収縮様式の特徴、トレーニングによる筋力の変化、筋線維数の変化、筋線維の肥大 - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート作成 質疑応答	復習：筋の収縮様式と筋力発揮の仕組みについて、筋線維の肥大の機序を中心に復習する。 予習：骨格筋の仕組みと形態的な特徴による分類、性質を予習する。	90 60
第４回 ／	骨格筋系と運動① - 骨格筋のしくみと分類、骨格筋の一般的な性質 - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート作成 質疑応答	復習：骨格筋の仕組みと分類を整理し、運動における一般的な性質について復習する。 予習：さまざまな運動の種類と骨格筋との関係について予習する。	90 60
第５回 ／	骨格筋系と運動② - さまざまな運動と骨格筋との関係 - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート作成 質疑応答	復習：骨格筋と運動との関係について、種々の運動時における骨格筋線維の動員様式と代謝の特性について復習する。 予習：運動時における循環器系の役割について予習する。	90 60
第６回 ／	循環器系と運動 - 心臓の機能と構造、血液成分、運動時における心臓の働き、トレーニングによる循環器の変化 - 小テスト・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 小テスト 講義 質疑応答	復習：循環器系の機能として、心能と構造、血液成分の分類、トレーニングによる心筋機能の変化について復習する。 予習：運動時の呼吸器系の役割として酸素摂取量と無酸素性作業閾値について予習する。	90 60
第７回 ／	呼吸器系と運動 - 呼吸とは、肺換気、ガス交換、呼吸商、酸素摂取量、酸素負債量、無酸素性作業閾値 - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート作成 質疑応答	復習：運動における呼吸器系の仕組みと呼吸機能の構成要素について復習する。 予習：運動や動作発揮における神経系の役割について予習する。	90 60
第８回 ／	神経系と運動 - 中枢神経系と末梢神経系の構造と役割、運動の調節のしくみ - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート作成 質疑応答	復習：運動における中枢神経系と末梢神経系との関わりや運動発現の仕組みについて復習する。 予習：神経系の構造と機能、運動単位の動員の仕組みについて予習する。	90 60
第９回 ／	神経系と運動 - 神経情報の伝導・伝達における変化、運動単位と動員パターン - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート作成 質疑応答	復習：運動時の神経系の情報伝達の機序、運動強度や筋収縮特性に応じた運動単位の動員パターンについて復習する。 予習：運動における内分泌系の役割と仕組みについて予習する。	90 60
第10回 ／	内分泌系と運動 - ホルモンの種類、ホルモンの受容体、ホルモンが作用するメカニズム、身体活動に関与するホルモンの作用、運動時の代謝調節 - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート作成 質疑応答	復習：運動時の内分泌系や代謝調節系の制御に関わるホルモンの種類や作用について復習する。 予習：運動時のエネルギー代謝の特徴について予習する。	90 60
第11回 ／	運動中の基質・エネルギー代謝 - 運動の継続時間とエネルギー供給システム - 小テスト・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 小テスト 講義 質疑応答	復習：運動の強度や時間に対するエネルギー基質とエネルギー供給機構との関係について復習する。 予習：高温環境下での運動における代謝特性や体温調節の仕組みについて予習する。	90 60
第12回 ／	高温環境と運動 - 熱の移動、体温調節のしくみ、運動時の体温調節、熱中症の発生と予防 - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート作成 質疑応答	復習：高温環境下での運動時の体温調節の仕組み、熱中症の仕組みと予防方法について復習する。 予習：水中環境のもつ特性と水中運動時に身体にかかる負荷について予習する。	90 60
第13回 ／	水中環境と運動 - 水中環境（浮力・水の粘性と抵抗・水圧・水温）、水中運動療法 - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート作成 質疑応答	復習：水中環境での運動によるエネルギー代謝特性と水の特性を利用した水中運動療法のしくみについて復習する。 予習：歩行動作を中心に陸上での運動の特徴や身体への負荷について予習する。	90 60
第14回 ／	陸上での運動・動作各論（歩行）、運動処方 - 陸上での運動と動作について、運動処方とは、運動処方の実際 - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート作成 質疑応答	復習：陸上での各種運動におけるエネルギー代謝特性と運動処方としての陸上運動の効果や役割について復習する。 予習：種々の運動における身体の生理的変化の特徴や仕組みについて予習する。	90 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHC12F035S	専門教育科目 健康教育学領域 健康管理分野	生理生化学 Physiologic Biochemistry	２単位	必　修	講　義	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	細菌からヒトに至る多種多様な生物に見られる生命活動の普遍的・特異的な様態を知り、その生命現象を生理的かつ生化学的見地から学ぶ。 遺伝・発生を含めた細胞の構造を理解し、生物の中で行われる分子レベルでの振る舞いとその意味を理解することを目的とする。
キーワード	ヒト 生命 生命現象 生命科学
学修教育目標	生物のうち、ヒトを中心とした生命現象のしくみ、生命科学の基本的な知識を理解することや、私たち自身に直接かかわるさまざまな生命科学に関連した出来事についてより正確に把握し説明できるようになることを目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

近年、ヒトの生命科学に関連した新たな出来事が多く起こっており、それらを大学生として理解しておく必要がある。そのためにも、まず生命とは何か、生命の最小機能単位・細胞、多細胞動物の体、生命体を構成している物質、体内における物質代謝、生命の設計図・遺伝子の複製と発現、ホメオスタシス（恒常性）、生体の防御・免疫系と疾患、ヒトに関する数値などの基本的知識について学修する。学修上の助言としては、まずヒトの生命現象、生命科学に興味・関心を持つようにして下さい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

ヒトに関わる運動生理学、機能解剖学などの科目と関連があるので、十分理解しておく必要がある。履修に必要な予備知識としては、高校までに習った生物学や理科の知識があれば、よりふさわしい。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：解剖生理や生化学をまなぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理 著者名：岡田　隆夫 出版社：羊土社	書　名：解剖生理を面白く学ぶ(新訂版) 著者名：増田敦子 出版社：サイオ出版

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	ヒトの生命現象、生命科学に関する基本的な知識を正しく理解できる。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。	◎
	②　働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	○
	③　実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。	○
	②　計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	○
	③　創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。	△
	②　傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。	△
	③　柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。	△
	④　情況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。	△
	⑤　規律性	チームでの規律を尊重することができる。	△
	⑥　ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。	△
4. 倫理観	①　倫理性	生命の尊厳を理解し、個人情報を含め人格を尊重することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50	10	30				10	100
評価の指標	知識に関する評価	30	5	20				4	59
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	10	5	5				3	23
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価			5					5
	関心・意欲に関する評価	10						3	13

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
ヒトの生命現象、生命科学に関する基本的な知識を正しく理解し、他の科目の学修内容と関連づけて説明することができる。	ヒトの生命現象、生命科学に関する基本的な知識を正しく理解できる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション、生理生化学とは 授業の出席、受講態度を評価	講義 面接授業	復習：生理学・生化学の意味について復習する。 予習：元素・原子・イオンなどの意味について予習する。	30
第２回 ／	第１章　世界を構成する物質 授業の出席、受講態度を評価	講義 面接授業	復習：元素・原子・イオンなどの意味、物質の濃度の計算について復習する。 予習：有機物・無機物、三大栄養素について予習する。	30
第３回 ／	第２章　生体物質 授業の出席、受講態度を評価	講義 面接授業	復習：有機物・無機物、三大栄養素、体液の組成について復習する。 予習：大気圧・血圧・分圧について予習する。	30
第４回 ／	第３章　身体内外の圧力（１） 授業の出席、受講態度を評価	講義 面接授業	復習：大気圧・血圧・分圧について復習する。 予習：浸透圧、人体の細胞の種類、細胞の基本構造について予習する。	30
第５回 ／	第３章　身体内外の圧力（２） 第４章　細胞（１） 授業の出席、受講態度を評価	講義 面接授業	復習：浸透圧、人体の細胞の種類、細胞の基本構造について復習する。 小テストへの準備 予習：細胞膜・核・細胞小器官の働きについて予習する。	60
第６回 ／	第４章　細胞（２） 第５章　電気 授業の出席、受講態度と小テストを評価	講義 小テスト 面接授業	復習：細胞膜・核・細胞小器官の働き、活動電位、興奮の伝達について復習する。 予習：遺伝子・DNA・染色体の意味について予習する。	30
第７回 ／	第６章　遺伝情報（１） 授業の出席、受講態度を評価	講義 面接授業	復習：遺伝子、DNA、染色の意味、タンパク質合成、遺伝のメカニズムについて復習する。 予習：遺伝病について予習する。	60
第８回 ／	第６章　遺伝情報（２） 授業の出席、受講態度を評価	講義 面接授業	復習：遺伝病、DNA の複製のメカニズムについて復習する。 予習：体細胞分裂、減数分裂について予習する。	30
第９回 ／	第７章　細胞分裂 授業の出席、受講態度を評価	講義 面接授業	復習：細胞周期、幹細胞、減数分裂について復習する。 予習：細胞・組織、・器官・器官系の意味を予習する。	30
第 10 回 ／	第８章　人体の階層構造 授業の出席、受講態度を評価	講義 面接授業	復習：組織の分類、器官・器官系の種類や分類を復習する。 小テストへの準備 予習：ホメオスタシスの意味を予習する。	60
第 11 回 ／	第９章　ホメオスタシス（恒常性）（１） 授業の出席、受講態度と小テストを評価	講義 小テスト 面接授業	復習：ホメオスタシスの仕組み、体温、血圧の維持のメカニズムについて復習する。 予習：血糖値、浸透圧、酸塩基平衡の意味を予習する。	30
第 12 回 ／	第９章　ホメオスタシス(恒常性)　（２） 授業の出席、受講態度を評価	講義 面接授業	復習：血糖値、浸透圧、酸塩基平衡のメカニズムについて復習する。 予習：生体防御機構に関わる細胞について予習する。	30
第 13 回 ／	第 10 章　生体防御機構と免疫 授業の出席、受講態度を評価	講義 面接授業	復習：生体防御機構の分類とメカニズムについて復習する。 予習：ヒトの誕生から成長、老化していくまでの変化について予習する。	30
第 14 回 ／	第 11 章　成長と老化 総まとめ 授業の出席、受講態度とレポート課題を評価	講義 レポート課題 面接授業	復習：ヒトの誕生から成長、老化していくまでの身体機能の変化について復習する。 学期末試験への準備	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHC13S036S	専門教育科目 健康教育学領域 健康管理分野	機能解剖学 Functional Anatomy	２単位	必　修	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	近年、健康志向が高まる中、様々なトレーニング方法が日々進歩をとげているが、私達の身体の基本構造は変化していない。裏を返せば、身体の構造を正しく理解することが、正しいトレーニングや健康の保持増進の近道といえる。もちろんトレーニングや健康の保持増進に近道などはないが、身体の基本構造を正しく理解することで、スムーズな身体の動きが理解できたり、また、障害の発生を抑えたり予防にもつながり、強いては、健康の保持増進につながっていくと考えられる。以上のことから、身体の構造や動きを正しく理解することを目的とする。

キーワード	人体 構造 機能 運動	学修教育目標	人体の正常な構造と機能について理解し説明できる。 運動機能のメカニズムについて理解し説明できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

運動器の構造と機能を中心に解剖学的基礎知識を解説する。授業の前半、後半に授業内容の理解度を確認するための小テストを実施し、最終段階でスポーツ活動と関連した課題についてレポートをまとめる。このため、復習では授業毎のワークシートを整理し教科書の内容の振り返りを行い、理解が難しいことは授業やオフィスアワーを活用して積極的に質問し、知識の理解に努めることが望ましい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「運動生理学」や「スポーツバイオメカニクス」と関連し、「スポーツ傷害論」や「スポーツトレーニング概論」を理解するための基礎となる。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：機能解剖・バイオメカニクス 著者名：北川　薫 出版社：文光堂	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	人体の構造と機能との関係について、運動器の解剖や運動機能のメカニズムを理解する。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	ペアワークやグループワーク課題において、他者に働きかけながら課題解決に取り組むことができる。	○
	③　実行力	学修課題を設定し、計画的に予習と復習に取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	授業内容を分析し、学修課題を抽出し課題の解決に取り組むことができる	○
	②　計画力	授業の予習を計画的に進め、授業内容や小テストの課題について復習と振り返りを実行できる	○
	③　創造力	他の科目との関連性を見出し、解剖学的な知識の理解を深めることができる	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50	20	15				15	100
評価の指標	知識に関する評価	50	20						70
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価			10					10
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価			5				15	20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
人体の運動器の基本構造と機能の知識を十分に理解している。 運動やスポーツ活動を支持する身体の運動機能や運動発現のメカニズムを十分に理解している。 各項目の理解度が 80%以上を満たしている。	人体の運動器の基本構造と機能の知識を理解している。 運動やスポーツ活動を支持する身体の運動機能や運動発現のメカニズムを理解している。 各項目の理解度が 60%～80%である。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修 学修課題（予習・復習）	時間(分)
第１回 ／	機能解剖学総論 機能解剖学とは、機能解剖学の基本的知識 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：機能解剖学の基本的な用語と学問分野について復習する。 予習：人体を構成する組織のうち、運動器を構成する筋・腱および骨・関節組織の役割について予習する。	90 60
第２回 ／	人体の構造と機能 人体の方向や位置、人体の器官系 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：人体の方向や位置、各構成器官のうち運動器を中心に骨・関節の種類、関節運動の仕組みを復習する。 予習：骨格の構造と動きについて、体幹や体肢の仕組みを予習する。	90 60
第３回 ／	骨格の構造と働き 骨の形態と構造、体幹骨（体軸骨格）、体肢骨（上肢骨と下肢骨） 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：骨の形態と構造を整理し、体幹や上肢、下肢を構成する骨の基本構造と働きを復習する。 予習：関節の名称と関節運動の種類を予習する。	90 60
第４回 ／	関節の構造と働き 関節の種類（肩関節、肘関節、股関節、膝関節、足関節）、各関節の作用、関節運動の名称（屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋など） 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：関節の作用を整理し、関節運動の種類と動きの特徴を復習する。 予習：筋の構造と機能について、筋の種類を中心に予習する。	90 60
第５回 ／	筋の構造と機能（1） 筋の種類、骨格筋の一般構造、付属装置など 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：筋の種類と構造、筋組織の構成要素について復習する。 予習：筋の構造と機能として、筋組織の働きと形態、神経支配について予習する。	90 60
第６回 ／	筋の構造と機能（2） 骨格筋各部位と働きと形態、神経支配 授業の出席、受講態度、小テストを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	小テスト 講義と質疑応答 面接授業	復習：骨格筋の各構成部位の名称と働き、形態の特徴を整理し、筋の神経支配の仕組みについて復習する。 予習：身体の動きの仕組みとして、体幹の機能解剖と運動について予習する。	90 60
第７回 ／	動きの基本 体幹の機能解剖と運動 骨、脊柱、靭帯、椎間板、筋、脊髄・馬尾神経、骨盤との連結 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：体幹を構成する骨・関節、筋組織の名称と配置について復習する。 予習：体幹の機能として、脊髄、神経系組織の名称と役割について予習する。	90 60
第８回 ／	動きの基本 体幹の機能解剖と運動 骨、脊柱、靭帯、椎間板、筋、脊髄・馬尾神経、骨盤との連結 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：脊髄、馬尾神経の役割と骨盤との連結の仕組み、体幹の運動の特徴について復習する。 予習：下肢の基本的な機能解剖と運動の仕組みについて予習する。	90 60
第９回 ／	動きの基本 下肢の機能解剖と運動 下肢の骨格、下肢の関節、下肢の運動と筋の機能、下肢の神経と血管 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：下肢の骨・関節の基本構造と筋機能、さらに下肢の運動に関わる神経と血管系の構造を復習する。 予習：身体の動きの仕組みとして、全身の動きの種類、基本的な姿勢について予習する。	90 60
第10回 ／	全身の動き（1） 立つ　姿勢とその制御、構えの姿勢、　良い姿勢 座る　座る動作、座位姿勢、正しい座位姿勢 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：全身の動きとして、姿勢制御・座位姿勢制御の仕組みと骨・関節、筋、神経系との関わりを復習する。 予習：物を持ち上げる動作の特徴とその仕組みについて予習する。	90 60
第11回 ／	全身の動き（2） 持ち上げる　持ち上げる動作の力学的意味、持ち上げる動作の一般原理 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：物を持ち上げる際の特徴的な動作とその一般原理、力学的意味について復習する。 予習：歩行や走動作の特徴について予習する。	90 60
第12回 ／	全身の動き（3） 歩く・走る　歩行の特性、歩行の機械的・エネルギー的特性、走行の特性 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：歩行や走動作の特徴と仕組み、機械的な負荷やエネルギー代謝特性について復習する。 予習：身体の運動制御の関わる神経系の仕組みについて予習する。	90 60
第13回 ／	運動の制御にかかわる神経機構 脊髄と運動ニューロン、種々の下行路と脊髄、大脳皮質、小脳皮質、大脳基底核、運動と姿勢の協調的制御 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：運動の制御機構として、運動ニューロンの仕組みと脳、神経を構成する組織の種類、役割を復習する。 予習：中高齢者の動きの特性について予習する。	90 60
第14回 ／	中高齢者の動きの特性 機能解剖からの視点　老化の研究法、体力、３つの研究法 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	レポート 講義と質疑応答 面接授業	復習：中高齢者の加齢に伴う身体機能の変化とその動作特性、骨・関節、筋組織の構造や組成変化について復習する。	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHC13F037S	専門教育科目 健康教育学領域 健康管理分野	スポーツバイオメカニクス Sports Biomechanics	２単位	必　修	講　義	３年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	スポーツバイオメカニクスとは，人の動きはどのようになっているのか，なぜそのような動きをするのか，どんな筋力や外力が働いているのか，どのようにしたらうまくできるのか，どのようにしたら改善できるのか，動くときに身体内部にどのような変化が起こるのかなどを力学・生理学・解剖学などの基礎知識を活用して，身体運動のしくみをより良く理解するための応用学である。 この講義では，スポーツにおける人の動作や運動，用具などのふるまいという力学的観点と，運動によって身体内部におこる変化という運動生理学を含む生理学的観点から，身体運動のしくみを理解していく。バイオメカニクスの基礎として，筋の種類や構造と筋収縮，エネルギー供給，神経系の構造と調節機能，関節運動に関与する骨格系や筋系の構造，運動と力学の法則を理解すると共に，バイオメカニクスの実際として，立・歩・走・跳・投などの基本的な身体運動のしくみを理解し，スポーツを科学的に捉え考察することの有効性を理解することをねらいとする。
キーワード	人体　運動　力学　生理学
学修教育目標	力学的観点と運動生理学的観点から身体運動の仕組みを理解できる。 スポーツを科学的に捉え考察することができ，その有効性を理解できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

筋肉の働き、エネルギー供給のメカニズムなどの身体の仕組み、さらには基本的な身体運動の仕組みから、スポーツにおける基本動作のメカニズムを学修する。
関連する科目で学修した内容を充分復習しておくことが望ましい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「運動生理学」「機能解剖学」「スポーツトレーニング概論」「スポーツ傷害論」と関連する。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：スポーツ・バイオメカニクス入門　第３版　絵で見る講義ノート 著者名：金子　公宥 出版社：杏林書院	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	身体運動の仕組みを理解し、スポーツを科学的に捉え考察することができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	授業内容を分析し、学修課題を抽出し課題の解決に取り組むことができる。	◎
	②　計画力	授業の予習を計画的に進め、授業内容や小テストの課題について復習と振り返りを実行できる。	◎
	③　創造力	他の科目との関連性を見出し、解剖学的な知識の理解を深めることができる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の考えを正しく伝えることができる。	○
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力	状況を考えながら行動することができる。	○
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50	30	10				10	100
評価の指標	知識に関する評価	30	30	5				5	70
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	20		5					25
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価							5	5
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
身体運動の仕組みを理解し、様々なスポーツを科学的に捉え効果的に運動能力を向上させる方法について考察することができる。 （授業内容に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。）	身体運動の仕組みを理解し、様々なスポーツを科学的に捉え考察することができる。 （授業内容に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断される。）

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ①授業の進め方 ②スポーツバイオメカニクスとは	講義 面接授業	復習：バイオメカニクスの成り立ちや、構成する学問について復習する。 予習：筋の種類と骨格筋の構造について予習する。	30
第 2 回 ／	筋の種類と構造 ①筋の種類 ②骨格筋の構造	講義 面接授業	復習：筋の種類と骨格筋の構造に関して復習する。 予習：筋の収縮様式や収縮発生のメカニズムについて予習する。	30
第 3 回 ／	筋収縮による力の発生 ①筋収縮の様式 ②筋収縮発生の過程	講義 面接授業	復習：コ筋の収縮様式や収縮発生のメカニズムについて復習する。 予習：力を発揮する、あるいは伝達することに関し、筋収縮や関節の構造がどのように関与しているかについて予習する。	30
第 4 回 ／	筋収縮による力の発生 ・筋力とその伝達	講義 面接授業	復習：力を発揮する、あるいは伝達することに関し、筋収縮や関節の構造がどのように関与しているかについて復習する。 予習：エネルギーの供給について予習する。	30
第 5 回 ／	エネルギー供給 ①エネルギー供給のメカニズム ②エネルギー供給の限界	講義 面接授業	復習：エネルギーの供給について復習する。 予習：神経系の構成および、随意・不随意運動について予習する。	30
第 6 回 ／	運動の指令と調節機構 ①神経系の構成　②反射による調節 ③意志による調節と反射化	講義 面接授業	復習：神経系の構成および、随意・不随意運動について復習する。 予習：骨格系の構造とともに、主要 5 関節の運動について予習する。	30
第 7 回 ／	身体の構造と運動 ①骨格系の構造 ②関節運動（肩関節，肘関節，股関節，膝関節，足関節）	講義 面接授業	復習：骨格系の構造とともに、主要 5 関節の運動に復習する。 予習：体軸と四肢の運動について予習する。	30
第 8 回 ／	身体の構造と運動 ①筋系 ②身体の軸と肢運動	講義 面接授業	復習：体軸と四肢の運動について復習する。 予習：ニュートンの運動の 3 法則および、力と速度の概念について予習する。	30
第 9 回 ／	運動と力学的法則 ①運動の３法則 ②力と速度	講義 面接授業	復習：ニュートンの運動の 3 法則および、力と速度の概念について復習する。 予習：力学的エネルギーの発生と仕事について予習する。	30
第 10 回 ／	運動と力学的法則 ・力学的エネルギーと仕事	講義 面接授業	復習：力学的エネルギーの発生と仕事について復習する。 予習：立位姿勢の維持と歩行動作のメカニズムについて予習する。	30
第 11 回 ／	身体運動における基本動作のメカニズム（1） ①立つ（立位姿勢，調整，安定性と重心） ②歩く（歩行サイクル，重心移動，力学的エネルギー，筋活動とエネルギー消費）	講義 面接授業	復習：立位姿勢の維持と歩行動作のメカニズムについて復習する。 予習：走動作・跳動作のメカニズムについて予習する。	30
第 12 回 ／	身体運動における基本動作のメカニズム（2） ①走る（スピードとストライド及びピッチ，キック力と力学的エネルギー，関節トルクとパワー） ②跳ぶ（高く跳ぶ，走り高跳び，遠くへ跳ぶ，走り幅跳び）	講義 面接授業	復習：走動作・跳動作のメカニズムについて復習する。 予習：投動作・打動作のメカニズムについて予習する。	30
第 13 回 ／	身体運動における基本動作のメカニズム（3） ①投げる（砲丸投げの力学，ボール投げ，相手を投げる） ②打つ（竹刀で打つ，ボールを打つ，ボールの回転と偏向）	講義 面接授業	復習：投動作・打動作のメカニズムについて復習する。 予習：泳ぐ・滑るといった動作に加え、回転運動に関する基礎知見について予習する。	30
第 14 回 ／	身体運動における基本動作のメカニズム（4） ①泳ぐ（浮く，水抵抗，水泳スピード，推進力の発生） ②滑る（滑りのメカニズム，推進力，空気抵抗，雪の抵抗，スケート滑走） ③回転運動（回転力，慣性モーメント）	講義 面接授業	復習：泳ぐ・滑るといった動作に加え、回転運動に関する基礎知見について復習する。 予習：最終回のレポート課題に対する学修として、これまでの学修を今一度振り返る。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHC31S038S	専門教育科目 健康教育学領域 健康管理分野	健康スポーツ実習（キャンプ実習） Healthy Sports Training （Practice for Camping）	１単位	選　択	実　技	１年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	自然環境の中でさまざまな野外活動や自然体験活動を通して、心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資する指導法を体得する。 また、社会的に責任のある組織、団体が教育的意図、目的を掲げ、その目的が効果的に達成できるように十分な計画と準備を行い、計画から実施に至る、組織キャンプのプロセスを体験しながら、学習することを目的とする。
キーワード	野外活動 組織キャンプ 課題解決学習 リーダーシップ
学修教育目標	キャンプインストラクターとしての基礎的知識を体得し、組織キャンプの立案・運営を行うことができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

事前学習、キャンプ実習（3 日間）、事後学習、試験より構成され、組織キャンプにおける集団活動や課題解決型学習プログラムを体験学習することがメインとなる。近年、学校やスポーツ団体等において多様に利用されている「チームビルディング」の手法を体験的に学ぶことができるので、キャンプインストラクターの資格取得を目指す人はもちろん、教員やスポーツ指導者を目指す学生にもぜひ受講をおすすめする。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：キャンプ指導者入門 著者名：(社)日本キャンプ協会 出版社：(有) サンエイプレス	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	キャンプの企画・指導・運営・管理法を理解する。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	野外活動の技術を身につける。	○
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	組織キャンプにおける集団活動や、課題解決型学習プログラムにおける仲間とのグループ活動において、リーダーシップやコミュニケーションスキルを発揮する。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	集団での実習活動において、自身の役割を理解し、適切に振る舞うことができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	組織キャンプにおける集団活動や、課題解決型学習プログラムにおける仲間とのグループ活動において、仲間と協力し課題解決に取り組むことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	実習活動において、自分がやるべきことを見極め、自発的に取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	実習活動において、リーダーシップを発揮し周囲の人を動かして成果をあげることができる。	◎
	③　実行力	実習活動において、目標達成に向かって粘り強く取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	実習活動において、現状を把握し、課題を抽出することができる。	○
	②　計画力	実習活動において、課題解決に向けた準備をすることができる。	○
	③　創造力	実習活動において、課題解決に向けて新しい方法を考え出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	他者との話し合いの場面において、自分の意見を整理し、相手に的確に伝えることができる。	◎
	②　傾聴力	他者との話し合いの場面において、相手が話しやすい環境を作り、意見を引き出すことができる。	◎
	③　柔軟性	実習活動において、意見の違いや立場の違いを理解して行動することができる。	◎
	④　情況把握力	実習活動において、自分の置かれている状況を把握し、適切な行動をとることができる。	◎
	⑤　規律性	実習活動において、ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	実習活動において生じるストレスに対し、適切な対処方法をとることができる。	◎
4. 倫理観	①　倫理性	実習活動において、周囲の人々に対し道徳的に行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50			30			20	100
評価の指標	知識に関する評価	30							30
	技能に関する評価	10			30				40
	応用力に関する評価	10							10
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価							10	10
	関心・意欲に関する評価							10	10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
・キャンプ活動および野外活動技術について十分に理解し、その技能を十分に発揮することができる。 ・実習活動において自分の役割を理解し、仲間と協力して課題に対して積極的に取り組み、十分に解決することができる。	・キャンプ活動および野外活動技術について理解し、その技能を発揮することができる。 ・実習活動において自分の役割を理解し、仲間と協力して課題に取り組むことができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション 野外活動・自然体験活動の意義 フィールドの理解 キャンプの立案と運営 野外活動や自然体験活動の基礎技術 コメントシート	講義 面接授業	社会人基礎力事前評価シートの記入	30
第２回 ／	【キャンプ実習】　吉野宮滝野外学校（2 泊 3 日） 開講式・直前指導 集団行動のルールとマナー 野外学校オリエンテーション 実習内容	実習 面接授業	予習：活動項目の範囲（教科書）	30
第３回 ／	アウトドアクッキング 野外での昼食作り 実習内容	実習 面接授業	予習：活動項目の範囲（教科書）	30
第４回 ／	人間関係づくりのアクティビティ HRT アクティビティ チームビルディングプログラム グループ旗作成 実習内容	実習 面接授業	予習：活動項目の範囲（教科書）	30
第５回 ／	コミュニケーション促進のプログラム アウトドアクッキング（夕食） 実習内容	実習 面接授業	予習：活動項目の範囲（教科書） 社会人基礎力中間評価シートの記入	30
第６回 ／	チームビルディングプログラム ナイトハイキング 実習内容	実習 面接授業	予習：活動項目の範囲（教科書）	30
第７回 ／	チームビルディング・アクティビティ コンパスウォークラリー①　準備 簡単野外クッキング（朝食・昼食の弁当づくり） 実習内容	実習 面接授業	予習：活動項目の範囲（教科書）	30
第８回 ／	チームビルディング・アクティビティ コンパスウォークラリー②　活動 実習内容	実習 面接授業	予習：活動項目の範囲（教科書）	30
第９回 ／	チームビルディングプログラム テント設営 実習内容	実習 面接授業	予習：活動項目の範囲（教科書）	30
第 10 回 ／	コミュニケーション促進のプログラム アウトドアクッキング（バーベキュー） 実習内容	実習 面接授業	予習：活動項目の範囲（教科書） 社会人基礎力中間評価シートの記入	30
第 11 回 ／	コミュニケーション促進のプログラム スタンツファイヤー実習 実習内容	実習 面接授業	予習：活動項目の範囲（教科書）	30
第 12 回 ／	人間関係づくりのアクティビティ エレメントを使った HRT 実習内容	実習 面接授業	社会人基礎力事後評価シートの記入	30
第 13 回 ／	実習の振り返り キャンプ理論に照らした評価、検証 コメントシート	実習 面接授業	復習：活動内容のまとめ	30
第 14 回 ／	キャンプインストラクターについて キャンプインストラクターの役割 キャンプインストラクター資格制度について コメントシート	講義 面接授業	復習：活動内容のまとめ	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHC33S039S	専門教育科目 健康教育学領域 健康管理分野	健康体操指導法 Teaching Method for Health Improvement and Physical Exercises	１単位	選　択	実　技	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	体つくり運動を通してスポーツ・身体活動を行うにあたり（日常生活において健康保持・増進について説明）柔軟性が何故必要なのかを運動生理学的な側面をもって理解し、トレーニングの手段と実際、ウォーミングアップのしかたやストレッチングに対して、からだをどのように反応させるのか、また、からだになにが起こるのかを学習する。
キーワード	体つくり運動 ウォーミングアップ ストレッチング 体操
学修教育目標	実習にあたり体つくり運動の基礎となる身体各部位のストレッチング・テクニックを学び、自分のワークアウトにストレッチング・プログラムを組み入れる方法について理解することができる。 年齢がどのように柔軟性に影響するのかについて理解することができる。 また、目的に応じた体操を実践し、健康との関係を理解することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

・毎授業開始時に呼称し、客観的に健康把握し、本時のねらいを説明する。
・レポート・課題の提出もおこなう。
・受講の際、遅刻のないように留意すること。
・現代という時点から、「生活」と「スポーツ・レクリエーション」の関係を考察し、運動の必要性を理解すること。
・個人の特性を理解し、自主的にかつ積極的に参加すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
追って指示する。	必要に応じてプリント配布。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	ウォーミングアップの効果について答えることができる。	△
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	トレーニングやストレッチの各種目を模範し指導することができる。	○
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	ウォーミングアップを指導することができる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	ウォーミングアップを指導することができる。	△
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	ウォーミングアップを計画し、それぞれの意味を説明することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。	◎
	②　働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	◎
	③　実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。	◎
	②　計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	◎
	③　創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。	◎
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。	◎
	⑤　規律性	チームでの規律を尊重することができる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合				30	50			20	100
評価の指標	知識に関する評価			5					5
	技能に関する評価			10	50				60
	応用力に関する評価			5					5
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価			10					10
	関心・意欲に関する評価							20	20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
①対象に合わせたウォーミングアップの作成方法について充分に理解している。 ②トレーニング及びストレッチの模範が適切である。 ③トレーニング及びストレッチが適切に指導できる。	①ウォーミングアップの作成方法について概ね理解している。 ②トレーニング及びストレッチの模範が概ねできる。 ③トレーニング及びストレッチの指導が概ねできる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	現代生活の特徴　授業についての留意点 ①健康体操指導法とは ②体つくり運動について ③体育、運動、スポーツから見た現代生活の特徴を踏まえ、健康体操の重要性を理解し実演する	面接授業 実技	今回の復習	30
第２回 ／	目的に応じた体操の重要性と方法 ①準備体操や整理体操, ②健康づくり体操等 ③目的に応じた体操の重要性と方法を理解し実演する	面接授業 実技	前回・今回の復習	30
第３回 ／	ウォームミングアップとクリーンダウン ①ウォーミングアップの必要性 生理学から見た運動の特性・運動と筋肉の働きを理解し実践する	面接授業 実技	前回・今回の復習	30
第４回 ／	ストレッチングと柔軟体操（1） ①体つくり運動の基礎となるストレッチングと柔軟体操の必要性と効果	面接授業 実技	前回・今回の復習	30
第５回 ／	ストレッチングと柔軟体操（2） ①ストレッチングと柔軟体操の実際	面接授業 実技	前回・今回の復習	30
第６回 ／	ラジオ体操（1） ①ラジオ体操第１の特徴を理解し，正確な動きを覚え実演	面接授業 実技	前回・今回の復習	30
第７回 ／	ラジオ体操（2） ①ラジオ体操第２の特徴を理解し，正確な動きを覚え実演	面接授業 実技	前回・今回の復習	30
第８回 ／	みんなの体操（1） ①みんなの体操の特徴を理解し実演	面接授業 実技	前回・今回の復習	30
第９回 ／	みんなの体操（2） ①みんなの体操の音楽に合わせて体操を創作し実演①基礎技能	面接授業 実技	前回・今回の復習	30
第10回 ／	みんなの体操（3） ①みんなの体操の音楽に合わせて体操を創作し実演②個別指導	面接授業 実技	前回・今回の復習	30
第11回 ／	ウォーキング（1） ①運動効果と特性，基本的なフォーム，歩き方のチェック	面接授業 実技	前回・今回の復習	30
第12回 ／	ウォーキング（2） ①運動強度の設定 ②最高心拍数から目標心拍数を設定 ③運動強度を上げる方法	面接授業 実技	前回・今回の復習	30
第13回 ／	レジスタンストレーニング ①体つくり運動のためのレジスタンストレーニングの目的，運動効果や安全性を理解し，自体重，パートナーによる抵抗，チューブ等を使ったトレーニングを実践する	面接授業 実技	前回・今回の復習	30
第14回 ／	介護予防と運動 ①筋力向上，柔軟性，有酸素性，バランスの要素を取り入れ，自立機能の低下の程度に応じた運動指導について理解し，機能改善や転倒防止の為のトレーニングを実践する	面接授業 実技	前回・今回の復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHC12S040S	専門教育科目 健康教育学領域 健康管理分野	スポーツトレーニング概論 Theory of Physical Training Method	２単位	必　修	講　義	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	健康の保持増進、競技力を向上させるうえで、体力は重要な役割を果たしている。体力は、適切な手順や方法に基づくトレーニングによって高めることができる。それを間違えると、健康を損ねたり、障害をまねいたりする。実施にあたっては、自分のレベルに応じた合理的な方法で行わなくてはならない。 トレーニング概論では、体力は何故必要なのか、健康の保持増進にとって、なぜ運動やトレーニングが必要なのかを運動学的観点から理解し、自己の体力について認識し、それぞれのスポーツ種目の特性についてその運動方法を理解し、適切なトレーニングを行うための原理・原則について理解する。
キーワード	トレーニング 体力 性差 加齢 疾患
学修教育目標	体力がなぜ必要なのか、健康の保持・増進においてトレーニングの重要性を運動学的観点から理解することができる。 トレーニングの原理・原則に沿って、それぞれのスポーツ種目、個々に合わせた運動方法について理解することができる。 運動能力の向上のみならず、個々に合わせたトレーニングの方法について運動方法学的観点から理解することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

体力の定義を理解し、トレーニングの意義と基本的な理論を学ぶ。
前回までの授業内容を踏まえて進行していくため、専用のノートを準備し、毎時、予習・復習をして授業に臨むこと。特に、資格取得を目指す学生は、各テキストの該当箇所を予習しておくことが望ましい。
また、授業を欠席した学生は、次回授業までに講義ノートを書き写すなどし、内容を理解しておくこと。
出席確認は毎時、呼称にて確認する。欠席・遅刻がないようにすること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツトレーニング実習」「運動生理学」「スポーツバイオメカニクス」の内容理解につながる。
必要に応じてレポート課題の提出をもとめる。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：健康運動実践指導者　養成用テキスト 著者名：公益財団法人　健康・体力づくり事業財団 出版社：南江堂 書　名：健康運動指導士　養成講習会テキスト（上）（下） 著者名：公益財団法人　健康・体力づくり事業財団 出版社：南江堂 書　名：トレーニング指導者　理論編・改訂版 著者名：NPO 法人日本トレーニング指導者協会 出版社：大修館書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	体力の定義、トレーニングの意義や基本的な理論を理解することができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	自分の意見をわかりやすく発信することや他者の意見を丁寧に聞くことができる。	△
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	様々な対象者に合わせたトレーニングプログラムを作成することができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	積極的に授業に参加し、主体性を持って取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	対象者や事象に対し、アプローチすべき点を把握することができる。	◎
	②　計画力	目的に合ったトレーニングを計画することができる。	△
	③　創造力	様々な対象者へトレーニングを計画することができる。	△
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性	集団の中でルールを守り、授業に参加することができる。	○
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	トレーニングの目的や方法を理解し、それぞれの対象者に合わせたトレーニングのあり方について考えることができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50		20				30	100
評価の指標	知識に関する評価	40		10					50
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	10		10					20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価							30	30

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
体力の定義を理解している。 トレーニング方法やトレーニングの基礎理論を理解している。 目的に合ったトレーニングを計画することができる。 様々な対象者に合わせたトレーニングを計画することができる。	体力の定義を理解している。 トレーニング方法やトレーニングの基礎理論を理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	トレーニングとは ①体力トレーニングの目的 ②トレーニングの三大原理、五大原則 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・トレーニングや体力に関する用語の意味を学修しておく。 ・トレーニングの原理原則について具体的な例を挙げ、説明できるようにする。	90
第２回 ／	筋力トレーニング（1） ①動的トレーニングと静的トレーニングの基本処方と効果 ②筋量増強のためのトレーニング コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・静的トレーニングの強度設定について学修しておく。	30
第３回 ／	筋力トレーニング（2） ①筋パワーのためのトレーニング ②筋持久力のためのトレーニング ③筋力トレーニングの基本処方と効果 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・レジスタンス運動の強度設定について学修しておく。	30
第４回 ／	異なる条件での身体への反応 ①トレーニングの特異性 ②トレーニングによる生体反応 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・レジスタンス運動の負荷強度と反復回数の関係について学修しておく。	30
第５回 ／	有酸素性トレーニング ①エネルギー供給機構と運動時間 ②有酸素性トレーニングの強度設定 ③有酸素性トレーニングの基本処方と効果 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・ATP の再合成について学修しておく。	30
第６回 ／	青少年期の運動・トレーニング ①暦年齢と生理学的年齢 ②各類型の発育発達 ③筋力、持久性機能の発達 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・児童期から青年期の発育発達の特徴を学修しておく。	30
第７回 ／	トレーニング計画 ①トレーニング計画とは？ ②ピリオダイゼーションの目的 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・トレーニング計画について学修しておく。	30
第８回 ／	女性の体力・運動能力 ①女性の身体的特徴 ②性差がもたらす体力の特徴 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・性差と体力の特徴について学修しておく。	30
第９回 ／	中高年者の体力・運動能力 ①加齢に伴う体力、運動能力の変化 ②加齢に伴う身体的変化 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・加齢に伴う生理学的指標、健康関連の指標の変化について学修しておく。	30
第10回 ／	障がい者における運動の意義 ①障がい者への運動指導の流れ ②運動処方における注意点 ③アダプテッドスポーツとは？ コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・アダプテッドスポーツに関する用語を理解しておく。	30
第11回 ／	内科的な慢性スポーツ障害 ①貧血とは？ ②オーバートレーニング症候群とは？ ③早期発見のためのコンディショニングチェック コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・内科的疾患について学修しておく。	30
第12回 ／	服薬者の運動プログラム作成上の注意 - 服薬者における運動プログラム作成の基本 - ・生活習慣病などの疾患を有する対象者への運動指導、実施上の注意 コメントシート・受講態度を評価	面接授業 講義 コメントシート 質疑応答	・生活習慣病の復習と運動指導上の注意について学修しておく。	30
第13回 ／	トレーニング処方（1） ①運動プログラム作成の基本原則 ②筋力トレーニングで用いられる抵抗の種類 ③無酸素性運動のトレーニング処方 ④トレーニング効果の測定と評価の実際 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・無酸素性運動の種類や計測について学修しておく。	30
第14回 ／	トレーニング処方（2） ①有酸素運動の種類と強度指標 ②有酸素性運動のトレーニング処方 ③トレーニング効果の測定と評価の実際 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・有酸素運動の種類や計測について学修しておく。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHC32F041S	専門教育科目 健康教育学領域 健康管理分野	スポーツトレーニング実習 Practice of Physical Training Method	１単位	選　択	実　習	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	健康を保持増進や競技力を向上させるうえで、体力は重要な役割を果たしている。体力は、適切な手順や方法に基づくトレーニングによって高めることができる。それを間違えると健康を損ねたり、障害をまねいたりする。実施にあたっては、自分のレベルに応じた合理的な方法で行わなくてはならない。 スポーツトレーニング実習においては、トレーニングの計画性、トレーニングの科学性をもたせ、さらにはトレーニングの備えるべき条件と、トレーニングの原則とその手順について運動方法学の観点から実践し理解する。スポーツ種目の特性を理解し、健康の保持増進、スポーツ種目の競技力向上をさせるためのトレーニングついて理解する。
キーワード	トレーニング 運動方法 体力向上 運動指導
学修教育目標	トレーニングの原理・原則に従い、適切な強度のトレーニングについて運動学観点から実践することができる。 競技力向上のみならず、それぞれの対象者に合わせたトレーニングを運動方法学の観点から実践し、理解することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

体力の保持・向上を目指したトレーニングの実践と運動方法を学ぶ。
資格取得を目指す学生は、各テキストの該当箇所を予習しておくことが望ましい。
また、授業を欠席した学生は、次回授業までに配布資料等、内容を理解しておくこと。
出席確認は毎時、呼称にて確認する。欠席・遅刻がないようにすること。
安全上の自己管理の対策として、履修者はスポーツウエア、トレーニングシューズの着用を義務付ける。
特に、安全管理のために授業にて必要としないもの（金属製品等）を身につけないよう注意すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツトレーニング概論」の内容理解につながる。
必要に応じてレポート課題の提出をもとめる。
授業以外の時間に、グループでの発表準備を進めておくこと。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：トレーニング指導者テキスト　実践編・改訂版 著者名：NPO 法人日本トレーニング指導者協会 出版社：大修館書店 書　名：トレーニング指導者テキスト　実技編 著者名：NPO 法人日本トレーニング指導者協会 出版社：大修館書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	体力の定義、トレーニングの意義や基本的な理論を理解することができる。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	様々なトレーニングの実技実践能力を身につけることができる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	自分の意見を分かりやすく発信することや他者の意見を丁寧に聞くことができる。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	ルールや約束を守り、良識ある行動にて授業に参加することができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	様々な対象者に合わせたトレーニングプログラムを作成することができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	積極的に授業に参加し、主体性を持って取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	集団の中でリーダーシップを発揮し、目標達成の働きかけを行うことができる。	◎
	③　実行力	計画したプログラムを確実に実行することができる。模範となる運動方法を提示することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	誤った運動方法を明確にすることができる。	○
	②　計画力	環境・状況に応じたプログラムを計画することができる。	○
	③　創造力	他者の意見を取り入れ、新たなプログラムを作成することができる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見をわかりやすく説明することができる。	△
	②　傾聴力	他者の意見を丁寧に聞いて、理解することができる。	△
	③　柔軟性	自分の意見だけでなく、他者の意見を受け入れることができる。	△
	④　情況把握力	状況に応じ、臨機応変に対応することができる。	△
	⑤　規律性	集団の中でルールを守り、授業に参加することができる。	○
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	適切な知識と行動でトレーニングを指導することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（コメントシート等）	合　計
総合評価割合		30			50			20	100
評価の指標	知識に関する評価	30			5				35
	技能に関する評価				15				15
	応用力に関する評価				5				5
	チームワーク力に関する評価				15				15
	関心・意欲に関する評価				10			20	30

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
模範となる運動方法を提示することができる。 自分の意見だけでなく、他者の意見も取り入れ、課題を完成することができる。 環境・状況に応じたプログラムを作成することができる。 指導の場面において指導者として適切な行動がとれる。 妥当性の高いトレーニング種目を選択することができる。	模範となる運動方法を提示することができる。 自分の意見だけでなく、他者の意見も取り入れ、課題を完成することができる。 集団の中でルールを守り、授業に参加することができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	ウォーミングアップとクリーンダウンの理論と実際 ①実習の進め方と実技の際の留意事項連絡 ②ウォーミングアップ・クリーンダウンの必要性について グループワーク	面接授業 講義 グループワーク	・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンのプログラムを作成しておく。	30
第２回 ／	スピード向上のためのトレーニング（1） ①基礎体力養成の仕方 ②ウォーミングアップ，クリーンダウンは毎時実施 ③ＳＡＱトレーニング ・ラダートレーニング基礎　・ミニハードル 実技 グループ課題 コメントシート	面接授業 （多目的グラウンドまたは体育館） グループ課題 コメントシート	・グループにてウォーミングアッププログラム、クーリングダウンプログラムを見直し、修正が必要な場合は修正しておく。	30
第３回 ／	スピード向上のためのトレーニング（2） －ＳＡＱトレーニング－ ・ラダートレーニング応用 実技 グループ課題 コメントシート	面接授業 （SAQ トレーニング） グループ課題 コメントシート	・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。	30
第４回 ／	無酸素性運動（1） ・アジリティーの測定 実技 グループ課題 コメントシート	面接授業 （フィールドテスト） グループ課題 コメントシート	・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。	30
第５回 ／	無酸素性運動（2） ①３０m走 ②４０秒間走 実技 グループ課題 コメントシート	面接授業 （フィールドテスト） グループ課題 コメントシート	・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。	30
第６回 ／	レジスタンストレーニング（1） －静的収縮のレジスタンストレーニング－ 実技 グループ課題 コメントシート	面接授業 （スタビライゼーショントレーニング） グループ課題 コメントシート	・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。 ・授業内容をまとめておく。	60
第７回 ／	レジスタンストレーニング（2） －動的収縮のレジスタンストレーニング－ ①自重負荷 ②ペアエクササイズ 実技 グループ課題 コメントシート	面接授業 （各種レジスタンストレーニング） グループ課題 コメントシート	・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。 ・授業内容をまとめておく。	60
第８回 ／	レジスタンストレーニング（3） －動的収縮のレジスタンストレーニング－ ①筋肥大・筋持久力向上を目的としたトレーニング ②身近な負荷を用いたトレーニング) 実技 グループ課題 コメントシート	面接授業 （各種レジスタンストレーニング） グループ課題 コメントシート	・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。 ・授業内容をまとめておく。	60
第９回 ／	競技力向上のためのパワートレーニング －プライオメトリクス－ ①下肢・上肢のプライオメトリクス ②メディシンボールを利用したトレーニング 実技 グループ課題 コメントシート	面接授業 （各種レジスタンストレーニング） グループ課題 コメントシート	・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。 ・授業内容をまとめておく。	60
第 10 回 ／	ストレッチング ①動的と静的 ②セルフストレッチとペアストレッチ 実技 グループ課題 コメントシート	面接授業 （ストレッチングの説明と実施） グループ課題 コメントシート	・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。 ・授業内容をまとめておく。	60
第 11 回 ／	有酸素性運動 ①１２分間走 ②最大酸素摂取量を求める 実技 グループ課題 コメントシート	面接授業 （グループ分け後、実施） グループ課題 コメントシート	・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。 ・計測結果を記しておく。	60
第 12 回 ／	高齢者へのトレーニング指導 －介護予防のためのトレーニング－ ・転倒を防止するためのトレーニング 実技 グループ課題 コメントシート	面接授業 （高齢者の身体的特徴の説明後、自重負荷トレーニング） グループ課題 コメントシート	・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。 ・授業内容をまとめておく。	60
第 13 回 ／	生活習慣病に対する運動療法（1） －高血圧症を有する対象者へのプログラム作成－ ①レジスタンストレーニングを用いる場合 ②服薬者を対象とした場合の注意 －変形性関節症を有する対象者へのプログラム作成－ ③変形性膝関節症の場合 ④変形性股関節症の場合 実技 グループ課題 コメントシート	面接授業 （疾患の説明後、実技） グループ課題 コメントシート	・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。 ・授業内容をまとめておく。	60

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 14 回 ／	生活習慣病に対する運動療法（2） －腰痛症を有する対象者へのプログラム作成－ ①体幹のトレーニングとストレッチ ②神経症状を有する対象者への禁忌事項 実技 グループ課題 コメントシート	面接授業 （疾患の説明後、実技） グループ課題 コメントシート	・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。 ・授業内容をまとめておく。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHC13S042S	専門教育科目 健康教育学領域 健康管理分野	体育測定評価法 Evaluating Method of Physical Fitness	２単位	必　修	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	生涯にわたり日常生活に必要な体力と健康増進および、運動に親しむ基盤としての体力向上･健康維持を教科目として次の達成目標について、実施目標をたてる。
キーワード	健康や体力の維持増進 体力・運動能力の測定方法 体力づくり
学修教育目標	健康や体力の維持増進について学ぶことができる。 体力・運動能力の測定方法（筋力の測定、持久力の測定、瞬発力の測定、スピード・敏捷性の測定、柔軟性、形態の測定）について学ぶことができる。 運動学の理論と実践をテーマとし、競技力・健康・体力の重要性について学ぶことができる。 日常生活に必要な健康維持・体力づくりおよび競技力向上のための体力づくりについて学ぶことができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

授業は講義にて行い、必要に応じ関連する資料の投影をおこなう。
健康・体力・トレーニングに関する書籍を読んでおくこと。
特に、資格取得を目指す学生は、各テキストの該当箇所を予習しておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「体育測定評価法実習」と関連する。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	各体力要素と測定項目の関連性について答えることができる。 各測定項目のプロトコールを答えることができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、自ら進んで取り組むことができる。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力	自分に必要な目的を理解し目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。	○
	②　計画力		
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	他者の事を考えながら授業を受けることができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50	50						100
評価の指標	知識に関する評価	40	50						90
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	10							10
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
①各体力要素と測定項目の関連性について充分に理解している。 ②各測定項目のプロトコールを充分に答えることができる。 ③クライアントにより測定の可否について判断することができる。 ④測定結果を評価することができる。	①各体力要素と測定項目の関連性について概ね理解している。 ②各測定項目のプロトコールを概ね答えることができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	測定の意義 ①体力・運動能力が果たす役割 ②各年代別の健康と体力特性	面接授業	今回の復習	30
第２回 ／	『新体力テスト』実施の手順 ①実施計画 ②測定値の信頼性と測定方法の見直し	面接授業	前回・今回の復習	30
第３回 ／	測定結果の活用法（1） ①　運動処方に活用するまでの一般的な手順 ②　絶対的基準の相対的基準 小テスト	面接授業	前回・今回の復習	30
第４回 ／	測定結果の活用法（2） ①　相対値と実測値 ②　測定結果の評価 小テスト	面接授業	前回・今回の復習	30
第５回 ／	柔軟性の見方 ①柔軟性の定義，構成要素 ②関節不安定性と関節弛緩性 小テスト	面接授業	前回・今回の復習	30
第６回 ／	身体組成の見方 ①身体組成の定義 ②体脂肪率の算出方法 小テスト	面接授業	前回・今回の復習	30
第７回 ／	筋力の見方 ①筋力測定の方法 ②徒手筋力テストと周径囲測定 小テスト	面接授業	前回・今回の復習	30
第８回 ／	フィールドテストの紹介 アスリートに対するフィールドテスト 小テスト	面接授業	前回・今回の復習	30
第９回 ／	有酸素性能力の測定方法と運動強度設定 ①最大酸素摂取量の評価 ②乳酸性作業閾値の評価 ③主観的運動強度 小テスト	面接授業	前回・今回の復習	30
第10回 ／	健康に関連した体力の測定と評価（1） ①　高齢者の体力の特徴 ②　高齢者における体力測定の意義と役割，留意点 小テスト	面接授業	前回・今回の復習	30
第11回 ／	健康に関連した体力の測定と評価（2） ①介護予防における体力測定の意義と役割 ②評価方法 小テスト	面接授業	前回・今回の復習	30
第12回 ／	測定値を活用した運動処方 ①推奨される運動様式と運動強度 ②運動強度の指標（心拍数，自覚的運動強度，各身体活動の消費エネルギー） 小テスト	面接授業	前回・今回の復習	30
第13回 ／	年代における測定と評価の配慮事項 ①新体力テストの特徴と構成 ②各年代における測定方法（測定者と被測定者） 小テスト	面接授業	前回・今回の復習	30
第14回 ／	各測定に関する安全管理 ①測定者，補助員の注意事項 ②測定実施後の注意事項 小テスト	面接授業	前回・今回の復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHC33F043S	専門教育科目 健康教育学領域 健康管理分野	体育測定評価法実習 Measurement and Assessment of Physical Fitness	１単位	選　択	実　習	３年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的

体力要素は運動に関する要素のみではなく、健康に関連する要素も含まれる。日常生活を行う上で、仕事を含めた日常生活を営むのに十分な体力があるかどうかを、「生活を良好な状態で送るのに有利な体力」と「病気を予防するのに有利な体力」の両面から体力の測定および評価を行う。
運動方法学の観点から、筋力の測定、持久力の測定、瞬発力の測定、敏捷性の測定、柔軟性の測定、形態の測定を行い、測定方法や留意事項について学ぶ。
測定後には、体力・運動能力を客観的に分析し、運動処方（健康・体力・競技力の向上）に役立てることを目標とする。

キーワード

体力測定
測定方法
運動処方

学修教育目標

筋力の測定、持久力の測定、瞬発力の測定、敏捷性の測定、柔軟性の測定、形態の測定を行い、測定方法や留意事項について説明することができる。
客観的に体力を分析することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

体力測定の意義を理解し、具体的な実施方法、評価を学ぶ。
前回までの授業内容を踏まえて進行していくため、専用のノートを準備し、毎時、予習・復習をして授業に臨むこと。特に、資格取得を目指す学生は、各テキストの該当箇所を予習しておくことが望ましい。また、授業を欠席した学生は、次回授業までに講義ノートを書き写すなどし、内容を理解しておくこと。
測定（実技）と評価を交互に繰り返すような方法で実施する。安全上の自己管理の対策として、履修者はスポーツウエア、トレーニングシューズの着用を義務付ける。特に、安全管理のために授業にて必要としないもの（金属製品等）を身につけないよう注意すること。
出席確認は毎時、呼称にて確認する。欠席・遅刻がないようにすること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「体育測定評価法」の内容理解につながる。
必要に応じてレポート課題の提出をもとめる。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	各体力要素や測定方法を説明することができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	測定者として、安全かつ正確な測定を実施することができる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	測定が円滑に進むよう協力し合い、測定を実施することができる。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	ルールや約束を守り、良識ある行動にて授業に参加することができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	測定結果を客観的に評価し、安全で効率的な運動を処方することができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	積極的に授業に参加し、主体性を持って取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力		
	③　実行力	安全な測定を実施することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	誤った測定方法を明確にすることができる。	○
	②　計画力	計画性を持って測定を実施することができる。	○
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	測定結果や運動処方を文章にて、わかりやすく発信することができる。	○
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力	様々な対象者がいることを理解し、それぞれに応じた測定方法・運動処方を理解することができる。	△
	⑤　規律性	集団の中でルールを守り、授業に参加することができる。	○
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	決められた測定手法にもとづき、安全で正確な測定をすることができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50		50					100
評価の指標	知識に関する評価	40		30					70
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	10		10					20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価			10					10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
それぞれの測定方法を説明することができる。 安全かつ正確な手法で測定を実施することができる。 測定結果にもとづき、安全で効率的な運動を処方することができる。 様々な対象者に合わせた運動を処方することができる。	それぞれの測定方法を説明することができる。 安全かつ正確な手法で測定を実施することができる。 測定結果を客観的に評価することができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ①体力，運動能力測定の意義と方法 ②メディカルチェックの重要性 小テスト	面接授業	・新体力テスト（測定項目）の実施方法について学修しておく。	30
第 2 回 ／	体力・運動能力テスト（1） －新体力テストの実施（20～64 歳対象）－ ・基礎体力 実技	面接授業	・新体力テスト（測定項目）の実施方法について学修しておく。 ・体調を管理しておく	30
第 3 回 ／	体力・運動能力テスト（2） －新体力テストの実施（20～64 歳対象）－ ・その他の体力 実技	面接授業	・新体力テスト（測定項目）の実施方法について学修しておく。 ・体調を管理しておく。	30
第 4 回 ／	体力，運動能力テストの評価 ①新体力テストの結果を診断 ②全国平均，学内の結果を基に，自身の体力を客観的に評価 レポート課題	面接授業	・新体力テストの評価システムについて学修しておく。 ・レポート課題を期限内に提出する。	90
第 5 回 ／	柔軟性の測定 ①柔軟性に影響を及ぼす因子 ②関節可動域の測定 実技 コメントシート	面接授業	・関節可動域の測定方法について学修しておく。 ・関節弛緩テストについて学修しておく。	30
第 6 回 ／	柔軟性の評価 ①性差による評価 ②競技種目による評価 レポート課題	面接授業	・柔軟性に影響を与える因子について学修しておく。 ・レポート課題を期限内に提出する。	30
第 7 回 ／	身体組成の測定 ①体格指数の算出 ②周径囲測定 ③皮下脂肪厚測定 実技 コメントシート	面接授業	・体格指数の算出方法、様々な体脂肪量の計測について学修しておく。 ・皮下脂肪量の計測方法について学修しておく。	90
第 8 回 ／	身体組成の評価 ・体格，筋量，皮下脂肪量の評価 レポート課題	面接授業	・体脂肪量の算出方法について学修しておく。 ・レポート課題を期限内に提出する。	30
第 9 回 ／	筋力・パワーの測定 ・握力と下肢筋力と短距離走能力の測定 実技 コメントシート	面接授業	・筋力とパワーについて理解しておく。 ・運動時に働く筋について学修しておく。	30
第 10 回 ／	筋力・パワーの評価 ・筋力の相関関係の検討とパワーとパフォーマンスとの関係 レポート課題	面接授業	・相関関係の検討について学修しておく ・レポート課題を期限内に提出する。	90
第 11 回 ／	運動強度の設定（1） ①リラックスした状態で，ジョギングを実施 ②自覚的運動強度に基づき，ジョギングスピードをコントロールする 実技	面接授業	・自覚的運動強度（RPE）について学修しておく。	30
第 12 回 ／	運動強度の設定（2） ①運動時（ジョギング）の心拍数を随時計測 ②自覚的運動強度と心拍数の関係 ③運動強度設定の評価 実技 コメントシート	面接授業	・運動強度設定について学修しておく。	30
第 13 回 ／	高齢者に対する体力測定と評価（1） ①高齢者の体力的特徴 ②中高年者，高齢者の測定種目の実施とＡＤＬテスト 実技	面接授業	・高齢者の身体的な特徴を理解しておく。 ・65～79 歳対象（新体力テスト）の実施方法について学修しておく。	30
第 14 回 ／	高齢者に対する体力測定と評価（2） ①介護予防のための体力テスト ②実施内容と注意事項 実技 コメントシート	面接授業	・下肢筋力テスト、全身持久力テストの実施方法を学修しておく。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHC13S044S	専門教育科目 健康教育学領域 健康管理分野	救急処置（含実習） First Aid and CPR Training (including Practice)	２単位	必　修	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	救急処置の指導内容として、基礎学において事故防止、安全に対する意識を高めさせ「いのちの大切さ」と「なぜ救急法を学ぶのか」について理解する。救急法の基礎知識（心肺蘇生法・止血・意識障害等）、救急処置の実際、災害時への備えと心構えなどを学ぶ。スポーツ傷害防止のためのテーピング実習もとりいれ、傷害防止としてのテーピングの技術を修得する。

キーワード	応急処置 心肺蘇生法 テーピング	学修教育目標	スポーツ現場で発生する傷害に対し、応急処置ができる。 救急法の基礎知識を理解し、実践することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

救急法の基礎知識や救急処置の実際等を学ぶ。
前回までの授業内容を踏まえて進行していくため、専用のノートを準備し、毎時、予習・復習をして授業に臨むこと。特に、資格取得を目指す学生は、各テキストの該当箇所を予習しておくことが望ましい。また、授業を欠席した学生は、次回授業までに講義ノートを書き写すなどし、内容を理解しておくこと。
理論と実技・評価を交互に繰り返すような方法で実施する。お互いが、処置者と疾病者として分かれて実習を行う。
出席確認は毎時、呼称にて確認する。欠席・遅刻がないようにすること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツ医学概論」「スポーツ傷害論」の理解につながる。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：アスレティックトレーナー専門科目テキスト　予防とコンディショニング 著者名：公益財団法人　日本スポーツ協会 出版社：文光堂 書　名：アスレティックトレーナー専門科目テキスト　救急処置 著者名：公益財団法人　日本スポーツ協会 出版社：文光堂

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	救急法の基礎知識を理解し、具体的な処置の手順を説明することができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	救急法の基礎知識を理解し、効果的な処置を的確に素早くできる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	他者と協力し、適切な処置が実施できる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	ルールや約束を守り、良識ある行動にて授業に参加することができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	傷病者が発生した際、対応できるための実践力を修得することができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	集団の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って行動することができる。	◎
	②　働きかけ力	集団の中でリーダーシップを発揮し、他者を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。	◎
	③　実行力	何事にもチャレンジ精神で行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	自分を客観的に観察し、現状を把握する中で課題を抽出し問題を解決することができる。	○
	②　計画力	進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正することができる。	○
	③　創造力	成功イメージを常に意識しながら、解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見を分かりやすく伝えることができる。	○
	②　傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、相手の意見を引き出すことができる。	○
	③　柔軟性	他者の意見やアドバイスを受け入れ、自己向上に活かせる。	◎
	④　情況把握力	状況を把握し、自分の役割を果たすことができる。	◎
	⑤　規律性	集団におけるルールを守り、授業に参加することができる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスは自己成長を促す機会とポジティブに捉えることができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	傷病者が発生した際、適切な行動をとることができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合		50			30			20	100
評価の指標	知識に関する評価	50			5				55
	技能に関する評価				10				10
	応用力に関する評価				5				5
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				5				5
	関心・意欲に関する評価				5			20	25

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
スポーツ現場で傷害が発生した際の初期行動を説明することができる。 ガイドラインに従い、救急処置を実践できる。 他者評価を受け入れ、自己スキルの向上に役立てることができる。	スポーツ現場で傷害が発生した際の初期行動を説明することができる。 ガイドラインに従い、救急処置を実践できる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	なぜ救急法を学ぶのか　- 事故・急病者に対する対応策 - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート	・救急処置の重要性、スポーツの現場での傷害の評価方法を学修しておく。	30
第２回 ／	多い事故と障害 ①学校の事故と傷害 ②家庭の事故と傷害 ③職場の事故と傷害 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート	・熱中症について学修しておく。	30
第３回 ／	外傷に対する救急処置 - 頭部外傷・胸部外傷・胸部外傷・四肢の外傷等の処置方法 - コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート	・外傷後の救急処置について学修しておく。	30
第４回 ／	テーピングの理論 ・テーピングの目的について（予防，再発防止，応急処置） コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート	・テーピングの適応と目的について学修しておく。	30
第５回 ／	テーピング実習（1） ①可動域を制限したテーピングの技術 ②テーピングの基本「アンカー」と「サポート」 実技・コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 実習（グループにて実習）	・実技テストに向け、練習しておく。	60
第６回 ／	テーピング実習（2） ・足部，足関節　基礎 実技・コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 実習（グループにて実習）	・実技テストに向け、練習しておく。	60
第７回 ／	テーピング実習（3） ・足部，足関節　応用 実技テスト・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 実習（グループにて実習） 実技テスト	・実技テストに向け、練習しておく。	60
第８回 ／	蘇生法の基礎知識と実際 ①蘇生法の基礎知識 ②意識不明，呼吸停止，心肺停止の処置方法 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義形式 コメントシート	・心肺蘇生法基礎知識を学修しておく	60
第９回 ／	蘇生法の実習（1） - 大人と子供の処置方法　実際にモデル(人形)を使っての実習 - 実技、心肺蘇生法効果確認シート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 実習（グループにて実習） 心肺蘇生法効果確認シート	・心肺蘇生法実技に向けた学修をしておく	60
第10回 ／	蘇生法の実習（2） - 大人と子供の処置方法　実際にモデル(人形)を使っての実習 - 実技、心肺蘇生法効果確認シート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 実習（グループにて実習） 心肺蘇生法効果確認シート	・実技での課題を発見し解決策を考える	60
第11回 ／	蘇生法の実習（3） - 大人と子供の処置方法　実際にモデル(人形)を使っての実習 - 実技、心肺蘇生法効果確認シート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 実習（グループにて実習） 心肺蘇生法効果確認シート 実技テスト	・止血法について学修しておく	60
第12回 ／	蘇生法と止血処置方法 ・直接圧迫止血法，間接圧迫止血法，止血帯を利用した止血法 講義、実技、コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義形式 実習（三角巾） コメントシート	・三角巾の使い方を学修しておく	60
第13回 ／	蘇生法と包帯 ・部位の外傷，および止血等の実習 講義、実技、コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義形式 実習（三角巾） コメントシート	・搬送法を学修しておく	60
第14回 ／	蘇生法と搬送方法 ・場面に応じた処置と包帯，実際を想定した搬送方法 講義、実技、コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義形式 実習（三角巾、搬送法） コメントシート	・救急処置の必要性を関上げる	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHC13F045S	専門教育科目 健康教育学領域 健康管理分野	スポーツ傷害論 Sport Injury Theory	２単位	必　修	講　義	３年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	スポーツ傷害は、スポーツ種目によって発生に特徴がある。また成長期において発生する傷害は、その後のスポーツ活動や発育・発達において支障をきたすことから、注意が必要である。 ここでは生涯に亘って行われているスポーツからスポーツ傷害を考察し、防止・修復について学ぶ。スポーツ活動全般に亘るメディカル・チェックについて、外傷・障害・スポーツ復帰に関する基礎的な考えかたを理解する。

キーワード	スポーツ外傷・障害 応急処置	学修教育目標	スポーツ指導の場面で発生する傷害に対して、必要な知識を持って対応することができる。 スポーツ傷害から回復する場面で、必要な知識と技能を持って支援することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

スポーツではケガ（外傷・障害）が発生しやすい。そのため、ケガへの対応の仕方や発生機序を理解する必要がある。この授業では、機能解剖（特に運動器）を学びながら、それぞれの外傷や障害がどのように発生するのか、また発生した際、どのように対応するべきかを学ぶ。
前回までの授業内容を踏まえて進行していくため、専用のノートを準備し、毎時、予習・復習をして授業に臨むこと。
また、授業を欠席した学生は、次回授業までに講義ノートを書き写すなどし、内容を理解しておくこと。
出席確認は毎時、呼称にて確認する。欠席・遅刻がないようにすること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「救急処置」「スポーツ医学概論」「機能解剖学」の内容理解につながる。
必要に応じてレポート課題の提出をもとめる。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：アスレティックトレーナー専門科目テキスト　運動器の解剖と機能 著者名：公益財団法人　日本スポーツ協会 出版社：文光堂 書　名：アスレティックトレーナー専門科目テキスト　スポーツ外傷・障害の基礎知識 著者名：公益財団法人　日本スポーツ協会 出版社：文光堂 書　名：アスレティックトレーナー専門科目テキスト　アスレティックリハビリテーション 著者名：公益財団法人　日本スポーツ協会 出版社：文光堂

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	「スポーツ外傷・障害・傷害」の定義を説明することができる。身体各部位に発生しやすいスポーツ外傷・障害を説明することができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	自分の意見を分かりやすく発信することや他者の意見を丁寧に聞くことができる。	△
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	得た知識を活用し、スポーツ傷害の予防啓発に活かすことができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	積極的に授業に参加し、主体性を持って取り組むことができる。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	傷害発生の観点から、スポーツ活動の練習環境や身体動作の問題点を挙げることができる。	◎
	②　計画力	競技復帰に向けたプログラムを作成することができる。	△
	③　創造力	他者にスポーツ傷害を予防する方法を伝えることができる。	△
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見や質問に対する回答を口頭や文章で分かりやすく説明することができる。	○
	②　傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞き、理解することができる。	○
	③　柔軟性		
	④　情況把握力	スポーツ現場で傷害が発生した際の初期行動を理解することができる。	△
	⑤　規律性	集団の中でルールを守り、授業に参加することができる。	○
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	スポーツ現場で発生する様々な傷害の特徴を理解し、傷害が発生した際に適切な行動をとることができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50		20				30	100
評価の指標	知識に関する評価	30		5				15	50
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	20		5					25
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心･意欲に関する評価			10				15	25

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
「スポーツ外傷・障害・傷害」の定義を説明することができる。 スポーツ種目ごとで頻発するスポーツ傷害の概略を説明することができる。 競技復帰に向けたプログラムを作成することができる。	「スポーツ外傷・障害・傷害」の定義を説明することができる。 主なスポーツ傷害の概略を説明することができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	スポーツ活動とけがについて ・からだの構造とけがの発生 ・リハビリテーションの考え方 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・関節運動の用語と機能解剖（運動器）を学修しておく。	30
第 2 回 ／	スポーツ活動中に多いけが（1） ・骨折 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・関節運動の用語と機能解剖（運動器）を学修しておく。	30
第 3 回 ／	スポーツ活動中に多いけが（2） ・脱臼、捻挫 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・関節運動の用語と機能解剖（運動器）を学修しておく。	30
第 4 回 ／	スポーツ活動中に多いけが（3） ・脳振盪 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・脳振盪の注意点について学修しておく。	30
第 5 回 ／	スポーツ活動中に多いけが（4） ・筋挫傷、肉離れ コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・筋の構造と修復の仕方を学修しておく。	30
第 6 回 ／	スポーツ活動中に多いけが（5） ・下腿部の傷害 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・足部、足関節の構造と機能を学修しておく	30
第 7 回 ／	スポーツ活動中に多いけが（6） ・膝関節の外傷（ACL 損傷） コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・膝関節の構造と機能を学修しておく。	30
第 8 回 ／	スポーツ活動中に多いけが（7） ・膝関節の外傷（PCL 損傷） コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・膝関節の構造と機能を学修しておく。	30
第 9 回 ／	スポーツ活動中に多いけが（8） ・膝関節の外傷（MCL、LCL 損傷） コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・膝関節の構造と機能を学修しておく。	30
第 10 回 ／	スポーツ活動中に多いけが（9） ・肩関節の傷害 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・肩関節の構造と機能を学修しておく。	30
第 11 回 ／	スポーツ活動中に多いけが（10） ・肘関節の傷害 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・肘関節の構造と機能を学修しておく。	30
第 12 回 ／	スポーツ活動中に多いけが（11） ・児童期から青年期 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・スキャモンの発育発達曲線を学修しておく。	30
第 13 回 ／	アスリートの内科的疾患と対策 コメントシート・受講態度を評価	面接授業（ただし、状況により変更の可能性あり） 講義 コメントシート 質疑応答	・内科的疾患とその対処方法について学修しておく。	30
第 14 回 ／	スポーツ傷害に関するレポート レポート内容・受講態度を評価	課題研究（ただし、状況により変更の可能性あり）	・スポーツにおける傷害発生の現状を把握しておく。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHP31F046S	専門教育科目 健康教育学領域 健康カウンセリング分野	健康心理学 Health Psychology	２単位	選　択	講　義	１年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	「健康心理学」においては、健康の維持と増進、疾病の予防など健康に関わる知識を、心理学を基礎にさまざまな視点から学ぶ。また、ストレスについて学び、生活習慣病になりやすい行動パターン等についても理解し、運動実践への動機づくりや各自の健康リスク行動を含めた生活習慣の見直しをはじめとして、健康な生活を送っていくために健康心理学の知見を活用する。
キーワード	健康概念　ストレス対処　健康行動
学修教育目標	・本科目は、健康心理士の資格取得を目指すための健康心理学専門必修科目の一つである。本科目を含めて、履修の手引きに示されている資格取得要件を満たすことによって、「健康心理士」の資格を取得することができる。 ・本科目は、「健康運動実践指導者」受験資格要件科目の一つである。履修の手引きに示されている要件を満たすことによって、人びとの健康づくりのための運動指導者に与えられる「健康運動実践指導者」の資格を取得することができる。 ・健康心理学への理解を深め、心身の健康に向けて各自の生活習慣を見直し、改善していくための知識を身につけることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

実際生活に関わる新しい学問領域であることを理解して、健康概念の変遷やストレス研究の最新知識を真摯に学ぶことが求められる。
加えて、自他の健康行動と健康生活に留意する態度が求められる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連
　健康心理カウンセリング・健康心理カウンセリング実習・健康心理アセスメント・健康心理アセスメント実習
履修に必要な予備知識や技能
　健康カウンセリング関連科目の履修が望ましい。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
書　名：健康心理学概論 著者名：日本健康心理学会編 出版社：実務教育出版	書　名：健康心理学がとってもよくわかる本 著者名：野口　京子 出版社：東京書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	学術的、専門的な情報に基づいた知識の習得と健康生活を心がける。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	心理学の健康的側面について議論する。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	ストレス・マネジメントおよびコーピングの技能を身に着ける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	教科書の予習、授業準備につとめること。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力		
	②　計画力	広範な知識体系を持つ領域であるので、着実な学習と理解を進めること。	○
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力	ストレス研究が中心的な概念であるので、アセスメント演習などに力を入れる。	◎
4. 倫理観	①　倫理性	授業中に得た他者の個人情報の秘密保持に努める。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（コメントシート等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50		30				20	100
評価の指標	知識に関する評価	10		20				10	40
	技能に関する評価	10						10	20
	応用力に関する評価	10		5					15
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価	10							10
	関心・意欲に関する評価	10		5					15

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
テキストに沿った理論や情報を確実に理解し、参考書籍やネット検索情報なども整合させて理解を深めること。また、試験やレポートには、誤りなく論述できること。	左の内容について、誤字脱字や、字数制限を大きく逸脱しない程度を標準的な達成レベルとする。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション　　ー健康心理学を学ぶにあたってー 心の健康論	面接授業	次時授業の予習	30
第 2 回 ／	健康心理学とは 健康の概念および健康心理学成立への経緯	課題研究による授業	次時授業の予習	30
第 3 回 ／	健康心理学の基礎理論(1) 健康心理学の理解を深めるための心理学の基礎理論	面接授業	次時授業の予習	30
第 4 回 ／	健康心理学の基礎理論(2) 健康心理学の理解を深めるための心理学の学説史	課題研究による授業	次時授業の予習	30
第 5 回 ／	健康心理学の基礎理論(3) 健康心理学の理解を深めるための心理学の現状	面接授業	次時授業の予習 レポート作成	60
第 6 回 ／	健康維持の生理学的側面 神経系、免疫系、内分泌系等の働きと健康・維持との関連 レポート提出	課題研究による授業	次時授業の予習	30
第 7 回 ／	ストレスと健康 ストレスとは何か、ストレス対処、ストレス理論およびストレスの心身に及ぼす影響について	面接授業	次時授業の予習	30
第 8 回 ／	健康とパーソナリティ パーソナリティと疾病との関連、および行動や性格の特徴をふまえて健康を考える	課題研究による授業	次時授業の予習	30
第 9 回 ／	健康行動と健康習慣 健康行動への理解を深める	面接授業	次時授業の予習	30
第 10 回 ／	健康行動と疾病予防 健康増進や疾病予防に影響を及ぼす睡眠や喫煙、食生活等について、運動の心理的効果	課題研究による授業	次時授業の予習	30
第 11 回 ／	生活習慣と健康との関連 生活習慣病およびその予防について	面接授業	次時授業の予習 レポート作成	60
第 12 回 ／	ソーシャルサポートとヘルスケアシステム ソーシャルサポートとヘルスケアシステム レポート提出	課題研究による授業	次時授業の予習	30
第 13 回 ／	健康心理アセスメントの方法 健康心理学におけるアセスメントの概要	面接授業	次時授業の予習	30
第 14 回 ／	健康心理カウンセリングの基本 人びとの健康に関する問題への援助活動を行うために健康心理カウンセリングの基本を学ぶ	課題研究による授業	テストの予習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHP32S047S	専門教育科目 健康教育学領域 健康カウンセリング分野	健康心理カウンセリング Health Psychology Counseling	２単位	選　択	講　義	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	健康心理カウンセリングでは、「健康増進、健康維持、健康回復に必要な生活習慣を形成することを主目的として、心理学的立場から、個人あるいはグループを対象として行われる実践的援助活動であること」を学び、身につけることを目指す。 古くからいわれているように、「大欲を抱かず、健全な身体に健全な精神が宿る」ように、日々生活し努力する、そして「自分のからだを知ろう」という意欲を持ち続けることを目指す。

キーワード	カウンセリングのプロセス 認知行動療法的アプローチ 自己効力感 ストレスマネジメント	学修教育目標	健康心理カウンセリングの基本的考え方や技法、適用法を理解し、隣接領域である臨床心理学における心理療法との、類似点、相違点についても明確にできる。

授業科目の概要及び学修上の助言

カウンセリングは、現在幅広くあらゆる学問領域において学習の基幹とされている。特に心理学、そして健康心理学においても重要であり、カウンセリングは学習する取り組みにおいて、指導する側と指導される側が、相互にどういう状況にあり何が伝えられることにより成果が上がるか、健康心理カウンセリングは「健康増進、健康維持、健康回復に必要な生活習慣を形成することを目的とし」、受講生は「何をどこまで知り得て何を知ることが望ましいか」を検討しながら授業が進めれるので、受講生はどこまで理解しどこが理解できないか、その都度授業の中で自己反芻していくことが望ましい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「健康スポーツ」「生理生化学」の理解につながる。
予習課題を教科書の中から、または追加資料を用意して提出するので、教室を離れても学習することを身につける。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：健康心理学基礎シリーズ③　「健康心理カウンセリング概論」 著者名：日本健康心理学会（編） 出版社：実践教育出版	授業の中で適宜紹介する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	年齢や目的に応じてスポーツや生活を意識的に取り組むことができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	率先して「健康増進、健康維持、健康回復の生活習慣」を形成することができる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	学修成果がどこまで進んでいるか確認しコミュニケーション力を鍛えることができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	「健康増進、健康維持、健康回復の生活習慣」の形成を率先して実践する。	◎
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	例えば、飲酒行動は受講生やクライエントの状況により多様であることを理解する。	○
	②　計画力		
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	行動変容ステージモデルの五段階から、個々人の異なるステージを理解する。	○
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	他受講生の行動変容への理解と自己の生活習慣への取り組みの強化。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50	30	20					100
評価の指標	知識に関する評価	20	10	10					40
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	20	10	5					35
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価	10	10	5					25

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
「健康増進、健康維持、健康回復に必要な生活習慣を形成すること」を充分に理解し実践できるようになる。さらに個人またはグループを対象として「実践的な援助活動」ができるようになる。	「健康増進、健康維持、健康回復と生活習慣」を理解できる。 率先して理解したことを実践していけるまでには充分でない。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第１回 ／	健康心理カウンセリング ①　臨床心理学におけるカウンセリング ②　健康心理カウンセリングの意義と役割 臨床心理学におけるカウンセリングをどの程度理解しているか	講義 受講アンケート調査 面接授業	教科書の予習（プロセスについて）（教科書　第３章）	30
第２回 ／	健康心理カウンセリング ①　健康心理カウンセリングの進め方（教科書第３章） プロセスについて、の理解	講義 課題レポートの作成と提出（プロセスについて） 面接授業	予習結果のまとめ（プロセスについて） 教科書の予習（三項随伴性）	30 30
第３回 ／	健康心理カウンセリングで用いる技法（1） ①　カウンセリング技法－認知行動療法 悪循環、三項随伴性、の理解	レポート返却 講義 課題レポートの作成と提出（三項随伴性について） 面接授業	予習結果のまとめ（三項随伴性） 教科書の予習（交流分析）	30 30
第４回 ／	健康心理カウンセリングで用いる技法（2） ①　カウンセリング技法－交流分析 TEG(テグ)の理解	レポート返却 講義 視聴覚教材（交流分析） 聴解テスト（小テスト） 面接授業	予習結果のまとめ（交流分析） 教科書の予習（自律訓練法）	30 30
第５回 ／	健康心理カウンセリングで用いる技法（2） ①　カウンセリング技法－自律訓練法	聴解テスト（小テスト）返却 講義 視聴覚教材（自律訓練法） 聴解テスト（小テスト） 面接授業	予習結果のまとめ（自律訓練法） 教科書の予習（理性感情行動療法）	30 30
第６回 ／	健康心理カウンセリングで用いる技法（2） ①　カウンセリング技法－理性感情行動療法	聴解テスト（小テスト）返却 講義 面接授業	予習結果のまとめ（理性感情行動療法） 教科書の予習（喫煙行動のカウンセリング）	30 30
第７回 ／	喫煙行動の害 １．禁煙カウンセリングについて	講義 面接授業	予習結果のまとめ（喫煙行動のカウンセリング） 教科書の予習（飲酒行動のカウンセリング）	30 30
第８回 ／	飲酒問題のカウンセリング ①　飲酒問題におけるカウンセリングについて	講義 面接授業	予習結果のまとめ（飲酒行動のカウンセリング） 教科書の予習（食行動のカウンセリング）	30 30
第９回 ／	食行動のカウンセリング 食行動の変容を目指すカウンセリングについて	講義 小テスト（食行動） 面接授業	予習結果のまとめ（食行動のカウンセリング） 教科書の予習（エイズ患者へのカウンセリング）	30 30
第10回 ／	身体疾患におけるカウンセリング ①　身体疾患にともなう心理的問題	小テスト返却 講義 面接授業	予習結果のまとめ（エイズ患者へのカウンセリング） 教科書の予習（ステージモデル）	30 30
第11回 ／	プロチャスカのステージモデル （健康行動の変容） ステージモデルの活用の理解を評価する	講義 課題レポート作成と提出 面接授業	予習結果のまとめ（ステージモデル） 教科書の予習（タイプＡ行動のカウンセリング）	30 30
第12回 ／	健康を害しやすい性格とカウンセリング ①　タイプＡ行動パターン	講義 課題レポートの返却 課題レポートの作成と提出（タイプＡ行動について） 面接授業	予習結果のまとめ（タイプＡ行動のカウンセリング） 教科書の予習（ストレスマネジメント）	30 30
第13回 ／	ストレスマネジメント ①　ストレスマネジメントにおけるカウンセラーの教育的役割	講義 面接授業	予習結果のまとめ（ストレスマネジメント） 教科書の予習（健康心理カウンセリングとヘルスケアシステム）	30 30
第14回 ／	健康心理カウンセリングとヘルスケアシステム ①　組織の中での健康心理カウンセラーの役割について	講義 面接授業	予習結果のまとめ（健康心理カウンセリングとヘルスケアシステム） 教科書の予習（ヘルスケア行動）	30 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHP32F048S	専門教育科目 健康教育学領域 健康カウンセリング分野	健康心理カウンセリング実習 Health Psychology Counseling Practice	１単位	選　択	演　習	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的

健康心理カウンセリングの基礎を踏まえ、各種の心理検査、実際のカウンセリングの進め方や、クライエントとの会話の仕方、各種のカウンセリング技法について、認知行動療法の理論と実践を学習し、特にロールプレイなどの実践を実習形式で学ぶ。

キーワード

健康心理カウンセリング
カウンセリング技法
認知行動療法
ロールプレイ

学修教育目標

健康心理カウンセリングの基礎を踏まえ、認知行動療法のカウンセリングの進め方や、クライエントとの会話の仕方、各種のカウンセリング技法について基本から学び、対人関係や社会に向き合ったときに学習結果を活用出来るようになる。

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要
　本科目では健康心理カウンセリングで学んだ内容を実習する。特に行動療法，認知行動療法を中心とした健康心理カウンセリングの基礎を実習する。
学修上の助言
　本科目は健康心理士資格関連科目である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連
　健康心理学・健康心理カウンセリング・健康心理アセスメント・健康心理アセスメント実習・生涯発達と健康教育
履修に必要な予備知識や技能
　心理カウンセリング関連科目の履修が望ましい。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：健康心理学基礎シリーズ②　健康心理アセスメント概論 著者名：日本健康心理学会（編） 出版社：実践教育出版	授業の中で適宜紹介する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	年齢や目的に応じてスポーツや生活を意識的に取り組むことができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	率先して「健康増進、健康維持、健康回復の生活習慣」を形成することができる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	学修成果がどこまで進んでいるか確認しコミュニケーション力を鍛えることができる。	◎

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	質問に積極的に答えることができる。	◎
	②　働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③　実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	レポートのテーマを，情報伝達内容を意識して決定することができる。	○
	②　計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③　創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分で調べたことがらについて、十分に説明できる。	○
	②　傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③　柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	○
	④　情況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	○
	⑤　規律性	授業に遅れずに出席できる。	○
	⑥　ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	他者のことを考えながら意見を述べることができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50	30	20					100
評価の指標	知識に関する評価	20	10	10					40
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	20	10	5					35
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価	10	10	5					25

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
「健康増進、健康維持、健康回復に必要な生活習慣を形成すること」を充分に理解し実践できるようになる。さらに、個人またはグループを対象として「実践的な援助活動」ができるようになる。	「健康増進、健康維持、健康回復と生活習慣」を理解できる。 率先して理解したことを実践していけるまでには充分でない。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	心理学概論等で学習した「カウンセリング」の内容の確認 既に学習したことをどこまで活用できたか評価する。	講義 受講アンケート調査 面接授業	行動主義（教科書「はじめて出会う心理学」）の予習	90
第２回 ／	カウンセリングの基本「傾聴」すること、「傾聴」されること、を理解する。 行動理論のカウンセリングへの寄与の理解を評価する。	受講アンケート調査結果のまとめ 講義 面接授業	教科書の予習（セルフ・エフィカシー）	90
第３回 ／	ポムス（気分プロフィール検査）の実習 ポムスのレポート評価	実習 検査結果の集計とレポート作成 面接授業	ポムスの活用実態の理解	90
第４回 ／	セルフ・エフィカシーと行動変容 セルフ・エフィカシー（自己効力感）の理解を評価する。	レポート返却 講義 課題レポート作成と提出 （セルフ・エフィカシー） 面接授業	教科書の予習（RET）	90
第５回 ／	合理情動療法（RET） 合理情動療法（RET）の理解度を評価する。	講義 課題レポート作成と提出 （RET） 面接授業	資料について予習（社会的学習理論と認知行動療法の発展）	90
第６回 ／	社会的学習理論と認知行動療法の発展 社会人基礎力に臨床場面の活用をどこまで考えるかを評価する。	講義 小テスト 面接授業	教科書の予習（認知とは何か）	90
第７回 ／	内田クレペリン精神検査の実習 クレペリン検査のレポート評価	実習 検査結果の集計とレポート作成 面接授業	クレペリン検査の活用の理解	90
第８回 ／	セルフコントロールとセルフモニタリング 行動の二側面をどこまで理解したかを評価する。	小テスト 面接授業	資料について予習	90
第９回 ／	友人関係の影響 　バンデューラ、モデリング 具体的な場面をどの程度理解できるか評価する。	講義 課題レポート作成と提出 面接授業	教科書の予習（神経性食欲不振症）	90
第10回 ／	認知行動療法　　事例研究 事例をどの程度理解できるか評価する。	講義 レポート返却 面接授業	教科書の予習（ストレスと認知）	90
第11回 ／	スタイ（STAI 状態・特性不安検査）の実習 スタイのレポート評価	実習 検査結果の集計とレポート作成 面接授業	資料について予習（ロールプレイ）	90
第12回 ／	ロールプレイ 治療がどう進むかの理解度を評価する。	レポート返却 講義 Video、video の聴解テスト（小テスト） 面接授業	教科書の予習（認知的反応検査）	90
第13回 ／	社会不安障害（SAD）に対する認知行動モデル 社会に向き合ったとき、どう学習を活用するかの理解度を評価する。	小テスト返却 講義 面接授業	教科書の予習（行動的技法と認知的技法）	90
第14回 ／	社会不安障害（SAD）に対する認知行動療法（CBT） 社会に向き合ったとき、どう実践していくかの理解度を評価する。	講義 面接授業	教科書の予習（行動的裏付けの必要性）	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHP33S049S	専門教育科目 健康教育学領域 健康カウンセリング分野	健康心理アセスメント Health Psychology Assessment	２単位	選　択	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的

アセスメント（査定）は、「対象（者）のさまざまな特徴を総合的に評価すること」である。本授業では健康心理学領域におけるアセスメントの方法や役割について学び活用するための知識を獲得する。心理学が扱う変化は、言語として人間の外側へ出て来るものを評価するので、言葉が持つ役目を理解し、活用できるようになる。

キーワード

アセスメント
ストレス
心理的健康

学修教育目標

アセスメントはカウンセリングを進めていく上での羅針盤ともなるべき重要なものであるので、アセスメントの方法をカウンセリングとの関連も踏まえて理解し説明できるようになる。

授業科目の概要及び学修上の助言

健康心理にかかわるアセスメントの方法や一般的な留意点について述べ、後半はアセスメントの種類と活用について、具体的なアセスメントの種類等を挙げて授業を進める。アセスメントシートなどを実際に記入して、自己理解にも役立ててほしい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「健康心理学」「臨床心理学Ⅰ」などの理解につながります。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：健康心理学基礎シリーズ②　「健康心理アセスメント概論」 著者名：日本健康心理学会（編） 出版社：実践教育出版	授業の中で適宜紹介する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	健康をアセスメントの視点から理解することの有用性や限界について理解できる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	授業準備、課題などに主体的に取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	日常の生活習慣など健康を維持する観点から見直す。	○
	②　計画力		
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の考え、感想を文章や口頭で説明することができる。	○
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスの発生源やその程度、日常生活における影響を評価することができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50	15	15				20	100
評価の指標	知識に関する評価	50	15	10					75
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価							10	10
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価			5				10	15

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
健康アセスメントの視点から、日常生活を見直し、生活に生かすことができる。また、積極的に健康を増進することができるように、行動を起こす。	健康アセスメントの視点から、日常生活を見直し、生活に生かすことができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第１回 ／	アセスメントの意義と役割 ①　アセスメント（査定）とは何か？ ②　アセスメントを実施する意義とその役割について コメントシート、小テストなど	面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	10
第２回 ／	アセスメントのターゲット 「誰」の「何」を対象にアセスメントするか コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第３回 ／	アセスメントの方法 アセスメントにおける様々な方法を紹介 コメントシート、小テストなど	オンデマンドによる遠隔授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第４回 ／	アセスメントへの必要条件 アセスメントが成り立つための必要条件について コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第５回 ／	アセスメントの留意点 実施上の留意点について コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第６回 ／	「パーソナリティ」のアセスメント（1） 様々なパーソナリティの測定法 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第７回 ／	「パーソナリティ」のアセスメント（2） 健康心理領域での活用法について コメントシート、小テストなど	オンデマンドによる遠隔授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第８回 ／	「ストレス」のアセスメント ①ストレスの要因 ②ストレスの程度 ①　ストレス対処法のアセスメントについて コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第９回 ／	「情動」のアセスメント 不安、抑うつなどのアセスメントについて コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第10回 ／	「生活態度・習慣」のアセスメント ライフスタイル・行動パターンなどのアセスメントについて コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第11回 ／	「社会関係」のアセスメント 親子関係やその他の人間関係も含めた「社会関係」のアセスメントについて コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第12回 ／	「知能・発達」のアセスメント 知的能力や子どもの発達のアセスメントについて コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第13回 ／	アセスメントにおける倫理 アセスメントにおける倫理的諸問題について コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第14回 ／	アセスメント結果の活用 カウンセリングや治療の中での、アセスメント結果の活用 コメントシート、小テストなど	面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	10

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SHP33F050S	専門教育科目 健康教育学領域 健康カウンセリング分野	健康心理アセスメント実習 Health Psychology Assessment Practice	１単位	選　択	実　習	３年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	健康心理アセスメントの基礎を踏まえ、各種の心理検査を中心としたアセスメントを実習形式で学んでいく。実習において、検査の実施法だけではなく、採点や簡単な解釈ができ、さらには検査所見の書き方についても習得することを目的とする。
キーワード	アセスメント ストレス 健康 実習形式
学修教育目標	実習においては検査の実施法だけではなく、採点や簡単な解釈、さらには検査所見の書き方についても習得できる。また、パーソナリティテストやストレスコーピングなどのアセスメントを自分自身で実施し、自己の特徴を知ることもできる。

授業科目の概要及び学修上の助言

毎回の授業で、前半は健康心理に関わるテーマについて講義し、後半はアセスメントを実習形式で行う。日頃から、健康への気付きを大切にして、レポートやコメント等にもまとめて記載してほしい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「健康心理学」「臨床心理学Ⅰ」などの理解につながります。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：健康心理学基礎シリーズ②　「健康心理アセスメント概論」 著者名：日本健康心理学会（編） 出版社：実践教育出版	授業の中で適宜紹介する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	健康をアセスメントの視点から理解し、適切な方法で数種のアセスメントができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	授業準備、課題などに主体的に取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	日常の生活習慣など健康を維持する視点からアセスメントする。	○
	②　計画力		
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の考え、感想を文章や口調で説明することができる。	○
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスの程度や受け止め方をアセスメントし、対処することができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50	15	15				20	100
評価の指標	知識に関する評価	50	15	10					75
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価							10	10
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価			5				10	15

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
健康心理アセスメントの視点を参照しながら、日常生活を自分でアセスメントして、ストレスに対処できる。また、積極的に健康を増進することができる。	健康心理アセスメントの視点を参照しながら、ストレスやストレスに対する自らの脆弱性に気付くことができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	健康心理アセスメントの基本的事項 「健康心理アセスメント」で学修した内容の確認 コメントシート、小テストなど	面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	10
第２回 ／	面接によるアセスメント 面接によるアセスメントをロールプレイで学ぶ （実習） コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第３回 ／	行動観察によるアセスメント ビデオから行動観察について学ぶ コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第４回 ／	質問紙を用いたパーソナリティのアセスメント（1） 「エゴグラム」 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第５回 ／	質問紙を用いたパーソナリティのアセスメント（2） 「考え方のくせ」と認知行動療法 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第６回 ／	投影法を用いたパーソナリティのアセスメント 「ＰＦスタディ」 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第７回 ／	投影法を用いたパーソナリティのアセスメント 「ＴＡＴ」 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第８回 ／	ストレスの測定 ①測定実習：ストレッサー ②測定実習：ストレス反応 ③測定実習：コーピング コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第９回 ／	ストレスと性格 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第10回 ／	情動の測定 測定実習：不安・抑うつなどの情動 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第11回 ／	社会関係の測定 人間関係の測定 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第12回 ／	知能と発達の測定（1） 「知能検査」「発達検査」の基本的な実施方法 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第13回 ／	知能と発達の測定（2） 「知能検査」「発達検査」の評価の仕方 コメントシート、小テストなど	面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
第14回 ／	アセスメント結果の報告と治療計画（1） ①さまざまな査定結果からの仮説の導出 ②査定結果に基づく報告書の作成 コメントシート、小テストなど	面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	10

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SLC13S051S	専門教育科目 健康教育学領域 健康医療保健分野	学校保健 Introduction of School Health	２単位	必　修	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的

21 世紀に、入って子どもや学校を取り巻く社会の健康問題は、生活習慣病、感染症、少子化、養育問題、環境問題など、その対策が急務な課題が山積している。学校における保健活動は、次世代を担う子ども達に明るい未来の夢を託して、大いなる努力が必要である。特に、近年は感染症や環境問題が、将来を担う子ども達の健康問題として注目されている。そこで、社会の実態や変化に対応した学校保健の充実・発展を担う学校保健関係者の使命は重要である。

本講義の目的は、子どもの健康実態、健康科学の進歩、社会情勢の変化などに即して学校保健に携わる教員の養成及び学校現場での保健管理・保健教育の専門性や独創性を生かした学校保健の実現とより良い学校保健の在り方について的確に判断できる能力の修得である。

キーワード

健康教育・安全教育・感染症対策
発育発達・生活習慣・環境問題

学修教育目標

教員の立場で現代の子ども達を取り巻く健康問題を理解するとともに、効果的な保健学習や保健指導法についての知識や行動様式が指導できる。

学校が家庭や地域社会とどのような連携を保ちながら子供たちの安全を確保することについて説明できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

現行の学校体育や運動指導は、年齢や身長増加に基づく発育段階との関係で働きかける体力要素をもとに立案されている。しかし、近年の子ども達の発育様式は多様化し、子ども達の生活環境も大きく変化し、体力・運動能力も低下傾向にある。一方、子ども達の悪しき生活習慣から、将来的な健康生活の確立に解決すべき課題も山積している。健康指導の学習効果を高めるには、自己のこれまでの経験則に頼ることなく、最新の情報を基盤した科学的なエビデンスを知識として活用することで、子ども達の健康増進や安全かつ健全な発育・発達に寄与できる指導ができる知識や能力を積極的に学修することが大切である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学校保健領域における健康教育は、発育発達期の子ども達の健康増進と体力・運動能力向上に必要な知識として位置づけられており、発育発達学や小児スポーツ医学をはじめ、運動生理学や病理学、精神衛生学、公衆衛生学、環境学など広範な知識が根底にあり、それぞれの基礎的知識を事前に有することで、より学習内容が理解できる。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
学校保健必携より基本事項を抜粋し、毎時プリントを配布します。	書　名：学校保健・学校安全法令必携〈第８次改訂〉 著者名：学校健康教育法令研究会 出版社：㈱ぎょうせい

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	事故防止や障害予防の観点から、安全かつ効果的な安全教育に関する知識を有する。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	個々人の発育発達段階の特性を理解し、適切な働きかけができる能力を獲得する。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	発達障害児も含めた子ども達の行動特性を理解し、適切なアドバイスができるようになる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	医科学問題や環境問題に関心が高まり、思慮ある言動や行動に留意するようになる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	発達段階のそれぞれの時期の課題を見つけ、応じた適切な健康教育の指導力が高まる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	健康の維持増進を目指した安全かつ効果的な身体活動を指導することができる。	○
	②　働きかけ力	健康の重要性を理解させる健康教育を推進することができる。	◎
	③　実行力	具体的な健康増進プログラムや栄養メニューを作成し、健全な発育発達を促す保健指導ができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	個々の生活習慣を見直せる保健指導を通して、適切な健康評価や健康アドバイスができる。	◎
	②　計画力	スポーツ事故の予知・回避・予防できる計画性のある保健指導計画が作成できる。	◎
	③　創造力	健康を科学的見地から考察し、医療システムとスポーツ科学システムが有効に活用できる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	最新の健康情報やスポーツ医・科学の知見を活かした健康指導をすることができる。	◎
	②　傾聴力	過去の経験則にとらわれることなく、数多くの知識や技術を互いに獲得することができる。	○
	③　柔軟性	個々人のレベルに応じた健康教育を共有することで、高い満足感を得ることができる。	◎
	④　情況把握力	自己のライフスタイルを健康なものに改善し、質の高い生活実践をすすめることができる。	◎
	⑤　規律性	知識や価値および規範を学習し、社会生活における行動様式を改革、発展させることができる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	個々人がセルフレギュレーションを確立し、自らの行動をコントロールすることで達成できる。	△
4. 倫理観	①　倫理性	利益相反のない円満な対人関係を通して、自らを律し、何事も前向きに捉えることができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50	30	10				10	100
評価の指標	知識に関する評価	30	15	5					50
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	10	10					10	30
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心･意欲に関する評価	10	5	5					20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
・健康体をゼロとすると、病気や障害でマイナス領域にある子ども達の心と身体を支援し、プラス領域にある健康で体力・運動能力の高い子ども達をさらに高くする。 ・適切なライフスタイルの構築を目指した安全かつ有効な健康プログラムを推進することができる。 ・将来の自然災害時や環境問題に適切な行動ができるようになる。	・日々の健康観察や身体変化を評価できる知識や能力を獲得し、健全な発育発達を促進させるとともに、健全な発育発達に寄与できる適切な健康指導ができる。 ・感染症対策や環境問題に積極的に取り組むことができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	学校保健の目的とその意義 ①健康の考え方、学校保健の目的とその根拠 ②学校保健の歴史と行政、制度の変遷 小テスト	法令を含めた健康教育の変遷について、配布資料を通読して、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	健康教育の歴史と制度の変遷（復習）	20
第２回 ／	保健学習の課題とその評価 ①学習指導要領に基づく保健学習 ②保健学習担当教員としての力量形成 小テスト	健康教育の変遷を通して、健康増進の必要性について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	健康増進の意義とその重要性（復習）	20
第３回 ／	学校における保健指導の位置づけ ①学校における保健指導の様々な機会 ②特別活動における保健指導 小テスト	課外活動を含めた健康指導の問題点について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	運動指導や課外活動における健康指導（復習） 性に関する諸問題（予習）	20 30
第４回 ／	児童・生徒の発育発達 ①発育発達の実態と体力の現状と課題 ②健康つくりと体力つくりの課題 小テスト	臨床的側面から子ども達の発育発達に関する諸問題を理解できるよう講義を展開する。 面接授業	肥満・痩せの現状と体型認識（復習） 健康づくりと体力づくりの実際（復習） 青少年の喫煙、飲酒、薬物乱用問題（予習）	20 30
第５回 ／	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の必要性 ①健康への影響と防止対策 小テスト	青少年の危険行動の現状を通して具体的な防止教育についてディスカッションを展開する。 面接授業	青少年の薬物乱用問題の健康への影響（復習） レポートⅠ提出準備	20 30
第６回 ／	児童・生徒の健康把握とその評価 ①健康観察や健康診断の目的とその意義 ②健康評価と健康情報の活用 小テスト・レポート提出Ⅰ	子ども達の健康問題を配布資料やP.P を通して講義を展開する。 面接授業	現在の子ども達の生活習慣の現状（復習） 子ども達の体力の現状（予習）	20 30
第７回 ／	保健学習における性教育の必要性 ①性教育の実践の在り方として共通理解を図るために 小テスト	性に関する諸問題を共通認識し、性教育に関するディスカッションを含めた講義を展開する。 面接授業	性教育の現状と課題（復習） 感染症の現状と問題点（予習）	20 30
第８回 ／	健康障害や感染症の種類とその予防対策 ①児童・生徒にみられる疾病異常 ②学校における感染症の予防とその対応 小テスト	環境問題を含めた様々な健康問題を通して、予防教育の必要性が理解できるようP.P や板書により講義を展開する。 面接授業	最近の感染症の現状とその予防（復習）	20
第９回 ／	精神的健康に関わる諸問題とその対応 ①不登校・いじめの実態とその対応 ②精神的健康を維持するための基本的姿勢 小テスト	非行や行動異常を含めた学校現場における精神的健康に関する諸問題を理解できるようP.P や板書による講義を展開する。 面接授業	精神面の健康障害者への指導と対応（復習）	20
第10回 ／	特別支援教育の現状と新しい概念 ①発達障害の種類と健康上の支援 小テスト	発達障害児を含めた特別支援教育の必要性が認識できるよう、配布資料、P.P、板書により講義を展開する。 面接授業	発達障害児の健康増進とその対応（復習） レポートⅡ提出準備	20 30
第11回 ／	学校環境衛生の重要性とその課題 ①学校環境の考え方と環境衛生管理の実際 ②学校保健安全法と学校環境衛生基準 小テスト	公衆衛生学的な視点から、環境問題について理解できるよう、P.P や板書により講義を展開する。 面接授業	環境衛生基準の理解と留意点（復習） 学校管理下の事故やスポーツ障害の実態（予習）	20 30
第12回 ／	学校管理下の事故・災害・犯罪の発生要因とその防止 ①事故・災害・犯罪被害の発生機序とその防止対策 ②急病の種類と応急手当の方法、心肺蘇生法 小テスト・レポート提出Ⅱ	安全教育の重要性を理解し、事故発生に対応できる資質が向上するよう、配布資料やP.P により講義を展開する。 面接授業	安全教育の必要性と留意点（復習） 身体活動時の応急処置の理解と実践（復習）	20 20
第13回 ／	学校給食と食育の推進 ①児童・生徒の食をめぐる現代的課題 ②学校における食育 小テスト	スポーツ栄養学的側面から栄養指導の必要性が理解できるよう、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	栄養指導の必要性と健全な食習慣の推進（復習）	20
第14回 ／	健康教育の推進と保健学習の実践 ①研究課題の設定と独創的な健康教育の推進に向けて 小テスト	21 世紀型の子ども達の基本的生活習慣の構築を視座にした健康教育の役割が理解できるよう本講義を総括する。 面接授業	将来を見据えた健康教育と環境問題との関連（復習） 資料整理および定期考査準備（予習）	20 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SLC11F052S	専門教育科目 健康教育学領域 健康医療保健分野	栄養と健康 Nutrition and Health	２単位	必　修	講　義	１年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的

健康な生活を送るための基本としての食生活の意義や栄養に関する基礎知識を学び、実践のための基礎づくりを目指す。日々の食べ物や食生活の変化から生じる栄養状態は健康に大きな影響を及ぼしている。生活習慣病は，食生活を含めた生活習慣の乱れに起因するところが大きい。また、市場に氾濫する健康食品やサプリメントの不適切な使用は食生活のバランスを崩し、健康上の問題にもなっている。適切な食物の摂取は、健康の保持・増進だけでなく、疾病予防のためにも重要である。栄養と健康に関して正しい知識を身につけ，個々の食生活に活かすことが望まれる。健康の保持・増進、生活習慣病などの予防のための食生活について理解を深め、自らおよび人の健康づくりに役立てる知識を習得する。

キーワード

栄養、健康、健康保持・増進、疾病予防、食生活

学修教育目標

健康と栄養との関係を正しく理解して、健康保持・増進や生活習慣病予防のための食生活の実践に役立てることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

人は食物を摂取することにより、生命を維持し、生活・活動を営んでいる。しかし、食物や食生活の変化が様々な病気を発症し、健康を損なう原因となっている。適切な食物の摂取は健康の保持・増進だけでなく疾病の予防のためにも重要である。健康と栄養には深い関係があり、健康で長生きするためには正しい知識・情報が必要である。本科目では、栄養・食品について基礎知識を学び、健康と栄養の関係ついて理解を深める。さらに、健康の保持・増進や疾病予防のための食生活のあり方について学修する。また、健康や食生活に関する課題に取り組み・発表の体験を通して、人の健康の保持・増進や疾病の予防の活用に役立てる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他科目との関連　:「スポーツ栄養学」

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
・(公社) 日本フードスペシャリスト協会　編:「三訂　栄養と健康〔第２版〕」建帛社 ・随時、資料を配布する。	参考書　・栢下　淳、上西一弘　編：「栄養科学イラストレイテッド　応用栄養学　改訂第２版」羊土社 ・小林修平　編著：「健康づくりの栄養学　第３版」建帛社 ・久保田　紀久枝、森光康次郎　編：「食品学（新スタンダード栄養・食物シリーズ 5）第 2 版」東京化学同人

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	栄養の基本と健康との関係を理解できる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	課題研究に取り組み、内容を表現することで、コミュニケーションスキルが身につく。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	栄養と健康に関連した課題に取り組み、成果を情報発信することができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力		
	③　実行力	授業内容を理解することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。	△
	②　計画力		
	③　創造力	他の科目の学修内容を関連づけることができる。	△
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	解りやすい情報発信の仕方や話すポイントを整理することができる。	○
	②　傾聴力	相手の意見を正しく理解し、さらに自分の意見を述べることができる。	○
	③　柔軟性		
	④　情況把握力	適切な行動をとることができる。	○
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	相手の事を考えて行動することができる。	△

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50	20	10	20				100
評価の指標	知識に関する評価	25	20	5	5				55
	技能に関する評価				5				5
	応用力に関する評価	15							15
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				5				5
	関心･意欲に関する評価	10		5	5				20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
栄養と健康との関係を理解し、健康の保持・増進や疾病を予防するための食生活を実践し、人の健康づくりに役立つことができる。	栄養と健康との関係を理解し、健康的な食生活を実践するために必要な知識を身につける。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 栄養と健康に関する概説	講義形式 面接授業	次回の予習 課題研究のテーマの検討	30
第 2 回 ／	食品の基礎知識 １．食品の成分と機能 ２．食品の種類と分類	講義形式 面接授業	前回の復習、次回の予習	60
第 3 回 ／	栄養の基礎知識① からだの仕組み、栄養素の消化と吸収、代謝	講義形式 面接授業	前回の復習、次回の予習 課題研究のテーマの決定	60
第 4 回 ／	栄養の基礎知識② 炭水化物、脂質	講義形式 面接授業	前回の復習、次回の予習	60
第 5 回 ／	栄養の基礎知識③ たんぱく質、アミノ酸	講義形式 面接授業	前回の復習、次回の予習 課題研究の情報収集	60
第 6 回 ／	栄養の基礎知識④ ビタミン、ミネラル、水の働き	講義形式 面接授業	前回の復習、次回の予習	60
第 7 回 ／	食事と健康① 栄養状態の評価（栄養アセスメント）	講義形式 面接授業	前回の復習、次回の予習	60
第 8 回 ／	食事と健康② 「日本人の食事摂取基準（2021 年版）」	講義形式 面接授業	前回の復習、次回の復習	60
第 9 回 ／	食事と健康③ 健康づくりのための政策・指針	講義形式 面接授業	前回の復習	30
第 10 回 ／	【演習】栄養・食生活、健康に関する課題研究（発表）	演習 面接授業	前回の復習、次回の予習 課題研究のまとめ	60
第 11 回 ／	ライフステージの栄養① 成長期の栄養と健康　：学童期・思春期の栄養と食生活、健康問題 （肥満、やせ、貧血、食物アレルギー など）	講義形式 面接授業	次回の予習	30
第 12 回 ／	ライフステージの栄養② 成人期の栄養と健康　：メタボリックシンドローム、骨粗鬆症、 生活習慣病、ストレスと栄養	講義形式 面接授業	前回の復習、次回の予習	60
第 13 回 ／	ライフステージの栄養③ 高齢期の栄養と健康　：高齢期に起きやすい健康上の問題と対応	講義形式 面接授業	前回の復習	60
第 14 回 ／	栄養と健康の関わりについてのまとめ	講義形式 面接授業		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SLC12F053S	専門教育科目 健康教育学領域 健康医療保健分野	スポーツ栄養学 Sports Nutrition	２単位	必　修	講　義	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	食事の役割と重要性を理解し、栄養学の基本とスポーツとの関係について正しい知識を身につけ、栄養の摂取方法について的確な判断ができるようになる。
キーワード	スポーツ　栄養　競技力
学修教育目標	競技スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法について説明できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

食事の役割を理解し、エネルギー摂取と運動の関係を解説し、競技スポーツにおける効果的な栄養摂取、食事の実践方法について学修する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「栄養と健康」の内容を充分理解しておくこと。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
スポーツと栄養（公益財団法人日本体育協会）	食品成分表

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	競技スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を理解し、適切な食事の実践方法を説明できる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	競技スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を理解し、実践の場で実行し指導につなげることができる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力		
	②　計画力		
	③　創造力	他の科目の学修内容を関連づけることができる。	△
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力	相手の話を正しく理解することができる。	○
	③　柔軟性		
	④　情況把握力	適切な行動を取ることができる。	○
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	相手の事を考えて行動することができる。	△

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		55	10	35					100
評価の指標	知識に関する評価	25	10	10					45
	技能に関する評価			10					10
	応用力に関する評価	15		5					20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心･意欲に関する評価	15		10					25

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
競技スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を理解し、スポーツ選手の健康上の課題を踏まえて適切な食事の実践方法を説明できる。	競技スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を理解し、適切な食事の実践方法を説明できる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション　授業の進め方・受講についての留意点 五大栄養素について（炭水化物・タンパク質・脂質）	講義形式（面接授業）	次回の予習	10
第２回 ／	基本の食事・栄養の役割、食事摂取基準	オンライン形式（オンデマンドによる遠隔授業）	前回の復習	20
第３回 ／	エネルギー摂取と消費（運動） アスリートの身体組成	講義形式（面接授業）	前回の復習	20
第４回 ／	ウエイトコントロール、からだづくりと栄養	講義形式（面接授業）	前回の復習	20
第５回 ／	栄養アセスメント、	オンライン形式（オンデマンドによる遠隔授業）	前回の復習	20
第６回 ／	スポーツと栄養摂取のタイミング・スポーツ中の水分と栄養摂取	オンライン形式（オンデマンドによる遠隔授業）	前回の復習	20
第７回 ／	トレーニング期、遠征時、合宿時の食事	オンライン形式（オンデマンドによる遠隔授業）	前回の復習	20
第８回 ／	試合期の食事、食品衛生について	オンライン形式（オンデマンドによる遠隔授業）	前回の復習	20
第９回 ／	栄養教育の意義、食品構成について、献立への展開	講義形式（面接授業）	前回の復習	20
第10回 ／	骨づくり、骨障害の予防と栄養	講義形式（面接授業）	前回の復習	20
第11回 ／	女性・ジュニア・アスリートにおける栄養・食事摂取の留意点	オンライン形式（オンデマンドによる遠隔授業）	前回の復習	20
第12回 ／	スポーツ性貧血、月経障害の防止と栄養	講義形式（面接授業）	前回の復習	20
第13回 ／	スポーツ選手のサプリメントとエルゴジェニックエイド ドーピング問題	講義形式（面接授業）	前回の復習	20
第14回 ／	特定保健食品、栄養素の過剰摂取	講義形式（面接授業）	前回の復習	20

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SLC12F054S	専門教育科目 健康教育学領域 健康医療保健分野	衛生・公衆衛生学 Hygiene and Public Health	２単位	必　修	講　義	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	公衆衛生学は、組織された地域社会の努力を通して、人々を疾病から守り、健康を保持・増進させるため、医学を含めた自然科学および関連する社会科学諸分野の手法を駆使して、人間社会の健康上の諸問題を解決する知識を身につける。 本講義では、衛生・公衆衛生学の概念と方法論を学ぶ。「健康」とは何か、「予防」とは何か。そしてその指標は何か。人間を取り巻く自然・環境の様々な要因が集団や個人の健康に及ぼす影響などについて、疾病予防やヘルスプロモーションへのアプローチの方法等を踏まえ習得する。また、日本国内だけでなく世界にも目を向け、広く保健・医療・福祉のシステムを理解する。 また、「集団の健康」について考え、それをよりよくするための課題を整理し、解決方向を見出す能力を修得し、判断できるようになる。

キーワード	衛生 公衆衛生 健康 疾病予防	学修教育目標	公衆衛生学の基本的な概念が説明できる。 「健康」と「予防」の意味とその指標が説明できる。 ヘルスプロモーションの概念とアプローチの方法が説明できる。 公衆衛生の諸分野の概要が説明できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

衛生・公衆衛生の概念と方法論として、集団の健康や疾病予防について人間を取り巻く環境系を含めた公衆衛生学の基本的な知識を解説する。授業の前半、後半に授業内容の理解度を確認するための小テストを実施し、最終段階で集団の健康の保持・増進に関する課題として、疾病予防のあり方についてレポートをまとめる。このため、授業毎で内容を整理して振り返りを行い、理解が難しいことは授業やオフィスアワーを活用して積極的に質問し、知識の理解に努めることが望ましい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツ医学概論」や「学校保健」、「運動生理学」と関連し、健康教育学領域における科目の学修内容を理解するための基礎となる。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：シンプル衛生公衆衛生学　2021 著者名：鈴木　庄亮,　辻　一郎,　小山　洋 出版社：南江堂	書　名：国民衛生の動向 著者名： 出版社：厚生統計協会

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	集団の健康の保持・増進の考え方として、公衆衛生における疫学や疾病予防の方法論、ヘルスプロモーションの概念を理解する。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	授業内容を分析し、学修課題を抽出し課題の解決に取り組むことができる。	○
	②　計画力		
	③　創造力	他の科目との関連性を見出し、衛生・公衆衛生学に関する知識の理解を深めることができる。	△
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力	ペアワークやグループワーク課題において、他者に意見を傾聴し、意見の受容や尊重することできる。	○
	③　柔軟性		
	④　情況把握力	学修課題を設定し、計画的に予習と復習に取り組むことができる。	○
	⑤　規律性	ペアワークやグループワークを実施する際、ルールや約束を守り適切な態度で取り組むことができる。	△
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	衛生・公衆衛生の基本的な知識を理解し、他者や集団の健康のあり方について考えることができる。	△

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		55	20	10				15	100
評価の指標	知識に関する評価	35	10	5					50
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	20	10	5					35
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心･意欲に関する評価							15	15

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
衛生・公衆衛生学を構成する疫学や疾病予防の方法論、集団の健康のあり方やヘルスプロモーションの概念を十分に理解している。 人間を取り巻く環境系や集団と個人の健康との関係を十分に理解している。 各項目の理解度が 80%以上を満たしている。	衛生・公衆衛生学を構成する疫学や疾病予防の方法論、集団の健康のあり方やヘルスプロモーションの概念を理解している。 人間を取り巻く環境系や集団と個人の健康との関係を理解している。 各項目の理解度が 60%～80%である。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修 学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	公衆衛生学概論 ①公衆衛生の概念　・衛生学と公衆衛生学　・健康とは ②公衆衛生の歴史 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：衛生学と公衆衛生学との違い、公衆衛生の概念と歴史を整理し、健康と環境との関係について復習する。 予習：健康の指標や人口に関する統計指標と健康寿命の意味について予習する。	60 90
第２回 ／	健康の指標 ①人口動態統計と人口静態統計 ②健康状態と受療状況 ③生命表と健康寿命 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 オンデマンドによる遠隔授業	復習：人口動態と人口静態との違いを整理し、健康状態と受療状況の現状、健康寿命に関連する新しい指標の意味について復習する。 予習：疫学や予防医学をはじめとした公衆衛生活動の主な内容について予習する。	90 60
第３回 ／	疫学的方法，予防医学 ①疫学 ②健康の多要因と予防医学 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：公衆衛生学の主要な活動として、疫学的研究方法や予防医学の意味と社会における役割について復習する。 予習：　人間を取り巻く環境や環境要因の分類について予習する。	90 60
第４回 ／	環境保健 ①人間の環境 ②環境要因 ③公害と環境問題 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 オンデマンドによる遠隔授業	復習：人間と環境の関連について整理し、環境要因の分類や公害と環境問題について復習する。 予習：近年の感染症の動向とその予防方法について予習する。	90 60
第５回 ／	感染症とその予防 ①感染症とは，感染症の予防 ②感染症法 ③主要な感染症 授業の出席、受講態度、小テストを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	小テスト 講義と質疑応答 面接授業	復習：主要な感染症とその動向を整理し、予防対策に関わる感染症法について復習する。 予習：身の回りの食品の安全性や衛生管理、栄養摂取の現状について予習する。	90 60
第６回 ／	食品保健と栄養 ①食品と健康、食中毒 ②食品の安全性の確保 ③栄養の現状 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 オンデマンドによる遠隔授業	復習：食品の安全と食中毒との関係について食品衛生管理の在り方を復習する。 予習：健康教育の現状と課題として、ヘルスプロモーションの意味について予習する。	90 60
第７回 ／	健康教育とヘルスプロモーション ①健康教育とは ②ヘルスプロモーションとは 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：健康教育の主な内容を整理し、ヘルスプロモーション活動の推進方法について復習する。 予習：健康日本 21 の内容と生活習慣病予防が健康の保持に果たす役割について予習する。	90 60
第８回 ／	生活習慣病 ①生活習慣病の現状 ②健康日本２１と健康増進法 ③健康と栄養　・運動　・休養　・たばこ 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 オンデマンドによる遠隔授業	復習：生活習慣病の主な内容と危険因子、健康増進法等の法令の変遷について復習する。 予習：国内外の医療制度や高齢者の保健、介護の問題について予習する。	90 60
第９回 ／	医療の制度，高齢者医療 ①医療保障と医療保険、公費医療 ②高齢者保健と介護保険 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：医療制度の現状を整理し、高齢者保健と介護保険のもつ意味とその課題について復習する。 予習：地域における保健活動や医療サービスの提供体制について予習する。	90 60
第 10 回 ／	地域保健活動 ①地域保健法と理念　・医療サービスの提供体制 ②地域保健活動 ③救急・災害医療 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 オンデマンドによる遠隔授業	復習：地域保健の主要な活動と体制、地域における救急・災害医療の内容と課題について復習する。 予習：母子保健を構成する統計指標と保健施策について予習する。	90 60
第 11 回 ／	母子保健 ①母子保健の統計 ②母子保健施策 授業の出席、受講態度、小テストを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	小テスト 講義と質疑応答 面接授業	復習：母子保健の施策の内容と変遷、女性の健康支援のための現状と課題について復習する。 予習：学校保健の関係法令、保健管理や感染症予防について予習する。	90 60
第 12 回 ／	学校保健 ①学校保健とそれを支える関係法令 ②学校における保健管理、感染症予防、環境衛生 ③学校給食と食育 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 オンデマンドによる遠隔授業	復習：学校保健を支える養護教諭の役割や保健管理、環境衛生の在り方を整理し、食育の重要性について復習する。 予習：職業病や労働環境、労働衛生管理と健康状態との関係について予習する。	90 60
第 13 回 ／	産業保健 ①労働環境と労働衛生管理 ②作業関連疾患とその予防、対策 ③トータルヘルスプロモーション 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：労働者の作業環境や衛生管理、新たな職業病の名称とその予防対策、職場における取り組の在り方について復習する。 予習：精神医療の歴史や関連する制度、国際的な保健医療の現状と課題について予習する。	90 60
第 14 回 ／	精神保健福祉、国際保健 ①精神医療の歴史 ②精神保健福祉の諸制度と課題 ③国際保健の現状と課題 ④国際保健の担い手 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	レポート 講義と質疑応答 面接授業	復習：精神保健福祉における医療制度の変遷と現状、将来へ向けての課題について復習する。 国際保健の現状や医療制度を整理し、今後の国際保健医療の課題について復習する。	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SLC13S055S	専門教育科目 健康教育学領域 健康医療保健分野	健康増進論 Introduction to Health Care Administration	２単位	必　修	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	健康は、人生における自己実現の基盤であり、その重要性も認識されている。しかし、健康を保持増進するための生活習慣の行動化には壁があり、疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加し、死亡原因でも生活習慣病が約６割を占めている。医療費に占める生活習慣病の割合も国民医療費の約３割となり、社会問題となっている。 本講義では、自身の健康への関心を高めるとともに、人々の健康の保持増進、疾病予防を指導・支援するために必要な健康に関する基本的知識を理解することを目的とする。
キーワード	健康
学修教育目標	健康の概念、疾病構造の変化、健康づくりの取り組み（施策）、保健・医療・介護システムについて理解し、幅広い視点から健康に関連する問題を考察することができる。 現代の健康課題の中心にある生活習慣病について、その発症のメカニズムや予防のための生活習慣を理解し、説明することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

健康の定義、健康を保持増進するための施策や疾病予防、健康体力づくり運動の必要性を学ぶ。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

健康管理概論、健康運動論、健康体操指導法

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	健康の定義を理解できる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	健康を保持増進するための運動の必要性を理解できる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	ペアワークなどで情報を発信し、協力して行動できる。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	ルールや約束を守り授業に参加することができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	健康状態を把握し、身体的・精神的・社会的に健康な状態を保つことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。	○
	②　働きかけ力	リーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。	○
	③　実行力	自分に必要な目的を理解し具体的に設定し、チャレンジ精神で行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。	◎
	②　計画力		
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	○
	②　傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスは自己成長を促す機会とポジティブに捉えることができる。	◎
4. 倫理観	①　倫理性	自分の持てる能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50	20		10			20	100
評価の指標	知識に関する評価	50	20		10				80
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価							20	20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
健康の定義を把握し、健康を保持増進するための施策や疾病予防、健康体力づくり運動の必要性を理解する。	健康の定義から、健康増進の必要性を理解する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	健康の概念 ①WHOの健康観 ②集団における健康度 コメントシート	講義形式 ペアワーク（健康について考える） コメントシート 面接授業	・主要死因から健康づくりがどのように行われているかを考える	60
第２回 ／	医事法規 ・健康づくりの推進体制と法的整備（医療関係法規を含む） コメントシート	講義形式 コメントシート 面接授業	・ヘルスプロモーションについて考える	60
第３回 ／	健康づくり施策 ①アルマ・アタ宣言 ②オタワ憲章 ③第１次国民健康づくり対策 ④第２次国民健康づくり対策（アクティブ 80 ヘルスプラン） コメントシート	講義形式 コメントシート 面接授業	・健康日本 21 の目的について考える	60
第４回 ／	健康日本２１ コメントシート	講義形式 コメントシート 面接授業	・ロコモティブシンドロームについて考える	60
第５回 ／	介護予防論 ・高齢者の介護予防について コメントシート	講義形式 コメントシート 面接授業	・生活習慣病に関わる生活習慣を考える	60
第６回 ／	生活習慣病 ①生活習慣病について ②生活習慣病に対する予防・軽減的効果 コメントシート	講義形式 コメントシート 面接授業	・生活習慣病や高齢者に関わる疾患について考える	60
第７回 ／	肥満症 ①肥満症について ②肥満症の判定、予防 コメントシート	講義形式 コメントシート 面接授業	・生活習慣病や高齢者に関わる疾患について考える	60
第８回 ／	高血圧症 ①高血圧症について ②高血圧症の判定、予防 コメントシート	講義形式 コメントシート 面接授業	・生活習慣病や高齢者に関わる疾患について考える	60
第９回 ／	脂質異常症 ①脂質異常症について ②脂質異常症の判定、予防 コメントシート	講義形式 コメントシート 面接授業	・生活習慣病や高齢者に関わる疾患について考える	60
第 10 回 ／	糖尿病 ①糖尿病について ②糖尿病の判定、予防 コメントシート	講義形式 コメントシート 面接授業	・メタボリックシンドロームについて考える	60
第 11 回 ／	メタボリックシンドローム ①メタボリックシンドロームについて ②メタボリックシンドロームの判定 コメントシート	講義形式 コメントシート 面接授業	・生活習慣病や高齢者に関わる疾患について考える	60
第 12 回 ／	虚血性心疾患 ①虚血性心疾患について ②虚血性心疾患の種類、発生状況 コメントシート	講義形式 コメントシート 面接授業	・生活習慣病や高齢者に関わる疾患について考える	60
第 13 回 ／	骨粗鬆症 ①骨粗鬆症について ②骨粗鬆症の判定、発生状況、合併症、予防 コメントシート	講義形式 コメントシート 面接授業	・生活習慣病や高齢者に関わる疾患について考える	60
第 14 回 ／	関節リウマチと変形性関節症 ①関節リウマチ ②変形性関節症について コメントシート	講義形式 コメントシート 面接授業	・生活習慣病や高齢者に関わる疾患について考える	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SLC32F056S	専門教育科目 健康教育学領域 健康医療保健分野	スポーツ医学概論 Outline of Sports Medicine	２単位	選　択	講　義	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	医学の進歩は、ただ単に生命を延長することだけが目的ではなく、充実した活力ある生活を送ることができるようにすることが含まれる。病気を防ぐ、病気になりやすい条件を改善する。病気になれば早期に治療するといった受動的健康から、積極的に健康状態を作り、自分自身で維持・増進していくという能動的健康へと進歩している。積極的に健康状態を作っていくためには、スポーツの果たす役割は極めて大きい。しかし、全てが健康な人達ばかりではない。健康に問題のある人や、体力のない人、高齢者の人も健康・体力づくりにスポーツを好んで取り入れる時代となり、スポーツにおける障害の発生も増加している。
キーワード	スポーツ医学 運動生理学 スポーツ傷害と傷害予防 スポーツと健康
学修教育目標	「スポーツ医学概論」では、スポーツ医学の役割を理解し、スポーツをおこなうことにより生じる身体の生体反応や生理的適応等の生理学的変化を理解し、スポーツと身体機能の関係や働きと運動処方、また、現場で起こる傷害とその予防・処置等における健康管理等を学修し、スポーツが健康にとってよきパートナーとなるためのスポーツ医学の基礎知識を身につけ、実践できることをねらいとする。

授業科目の概要及び学修上の助言

スポーツ医学の基本となるのは、人体の生理的しくみであるのでこれを理解する。
原則として毎回レポート提出で各回の要点を整理し、また数回のスポーツ医学に関するレポート提出を課すことで理解を促す。
分からないことがあれば、あれば授業内・授業外を問わず質問し、解決しておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツをする上での生理学とのつながりや、内科的・外科的障害等について講義するので、動物としての人間の生理学とスポーツの関係を理解してほしい。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：スポーツ医学入門 著者名：目崎　登 出版社：文光堂	

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	スポーツ医学の要点を理解できる。スポーツ障害を理解し予防できる。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	授業準備、課題、小テストなどに主体的に取り組むことができる。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力	積極的に自分自身で予習して理解することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	分かることを明確にして課題や小テストに取り組める。	○
	②　計画力	計画的に学修内容を理解していける。	○
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて理解できる。	○
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合		55	25	20					100
評価の指標	知識に関する評価	55	25	20					100
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
スポーツ医学の要点を理解できる。スポーツ傷害のしくみを理解し予防することができる。	スポーツ医学の要点を理解できる。スポーツ傷害を理解し予防できる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	スポーツ医学概論とは 医学の進歩は、ただ単に生命を延長することだけが目的ではなく、充実した活力ある生活を送ることができるようにすることが含まれる。健康は自分自身で維持・増進していくという能動的健康への時代へと進歩していることを理解する。	講義 面接授業	予習 20 分	20
第２回 ／	生涯スポーツについて 中高年者の運動機能の特性を把握し、生活習慣病と運動の関係を理解し、予防を考える。	講義・課題 面接授業	予習 20 分	20
第３回 ／	外科的傷害　上肢① 上肢の外科的傷害の要因を学修し、傷害の発生の予防と対策を理解する。	講義 面接授業	予習 20 分	20
第４回 ／	外科的傷害　上肢② 上肢の外科的傷害の要因を学修し、傷害の発生の予防と対策を理解する。	講義 面接授業	予習 20 分	20
第５回 ／	外科的傷害　下肢（膝を含む）① 下肢（膝を含む）の外科的傷害の要因を学修し、傷害の予防と対策を理解する。	講義・小テスト 面接授業	予習 20 分	20
第６回 ／	外科的傷害　下肢（膝を含む）② 下肢（膝を含む）の外科的傷害の要因を学修し、傷害の予防と対策を理解する。	講義 面接授業	予習 20 分	20
第７回 ／	内科的障害と予防① 内科的障害の要因を学修し、障害の発生の予防と対策を理解する。	講義・小テスト 面接授業	予習 20 分	20
第８回 ／	内科的障害と予防② 内科的障害の要因を学修し、障害の発生の予防と対策を理解する。	講義 面接授業	予習 20 分	20
第９回 ／	外科的傷害　脊柱 脊柱の外科的傷害の要因を学修し、傷害の発生の予防と対策を理解する。	講義・小テスト 面接授業	予習 20 分	20
第 10 回 ／	心電図の基礎と記録法（安静時心電図の読み方） 心電図の基礎と記録法、安静時心電図の読み方について学修する。	講義 面接授業	予習 20 分	20
第 11 回 ／	運動負荷試験の実際と実習 運動負荷試験（エアロバイク）の実際について学修する。	講義 面接授業	予習 20 分	20
第 12 回 ／	運動負荷試験実習 運動負荷試験実習（フィールドテスト②）についての実際と実習	講義 面接授業	予習 20 分	20
第 13 回 ／	健診結果の読み方及び効果判定Ⅰ・Ⅱ 健診結果の読み方及び効果判定について学修する。①基礎	講義・小テスト 面接授業	予習 20 分	20
第 14 回 ／	健診結果の読み方及び効果判定について学修する。②判定と指導 スポーツ医学概論まとめ	講義 面接授業	予習 20 分	20

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SLS11F057S	専門教育科目 生涯スポーツ領域 ライフスポーツ分野	スポーツ社会学 Sport　Sociology	２単位	必　修	講　義	１年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	ゆとりのある生活を求める現代社会においてスポーツは重要な位置をしめている。東京オリンピック・パラリンピックに向けてスポーツが多くの人々の関心事となっている今日、東京オリンピック・パラリンピック後も楽しむだけに留まらず社会的事実としてスポーツを認識できるようになる。
キーワード	スポーツ、現代社会、プレイ スポーツマンシップ フェアプレイ
学修教育目標	日本のスポーツは学校を中心として発展してきたが､昨今では欧米並みに地域スポーツクラブの中で活発に行われるようになり、社会の変化とともにスポーツの考え方も変化してきた。 このようなスポーツを通して、日本の文化や伝統・規範を再認識することにより、日本のスポーツのあり方を見つめ、現代社会においてスポーツが重要な位置をしめていることをスポーツ社会学的観点から考えることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

スポーツはいつの時代も社会とのつながりを強く持ってきている。これまでスポーツと社会がどのような関係を結んできたのかを振り返る。特に中盤以降は、スポーツと現代社会との関係をイメージしやすくするために、映像資料も積極的に使用する。スポーツと社会との関係について意識しながら、取り組んでいただきたい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツに関するニュースやドキュメンタリーなどメディアの発信する情報を収集するようにすること。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：よくわかるスポーツ文化論 著者名：井上　俊・菊　幸一 出版社：ミネルヴァ書房 書　名：スポーツ・ファン・マネジメント 著者名：早稲田大学スポーツナレッジ研究会 出版社：創文企画

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	スポーツと社会に関する理論や概念について理解する。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	自分の意見を論理的に表現することができる。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	スポーツマンシップやフェアプレイ精神を理解した行動をとることができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	現在生じているスポーツの諸問題について、社会や文化との関係から分析することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	現在生じているスポーツの諸問題について、積極的に取り組むことができる。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	スポーツの諸問題について、課題を理解することができる。	◎
	②　計画力	スポーツの諸問題について、課題解決に向けた考えを立てることができる。	△
	③　創造力	スポーツの諸問題について、課題解決に向けて新たな観点からアイディアを出すことができる。	△
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の考えを口頭や文章で、論理的に説明することができる。	○
	②　傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。	○
	③　柔軟性	他者の意見やアドバイスを柔軟に受け入れることができる。	○
	④　情況把握力	スポーツを学ぶ人に期待されている役割を理解して、行動することができる。	○
	⑤　規律性	スポーツマンシップ・フェアプレイを理解して、行動することができる。	○
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	スポーツマンシップ・フェアプレイを理解して、行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		45		30				25	100
評価の指標	知識に関する評価	25		10				5	40
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	20		10				5	35
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価			10				15	25

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
講義で取り上げるスポーツの諸問題について、批判的に（客観的に）分析し、自分の意見を論理的に表現することができる。	講義で取り上げるスポーツの諸問題について理解し、自分の意見を表明することができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション 授業を受ける姿勢について、単位を修得するとは？　授業の進め方、評価について、受講時の諸注意事項 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第２回 ／	スポーツ社会学の必要性ーなぜスポーツ社会学を学ぶのか 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第３回 ／	スポーツの社会学的理解（1）　ー人間の行動としてのスポーツ 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第４回 ／	スポーツの社会学的理解（2）　ー社会的行為としてのスポーツ 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第５回 ／	スポーツの文化システムースポーツと文化 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第６回 ／	スポーツの社会システムースポーツ集団、相撲部屋、スポーツ集団の社会システム レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。	60
第７回 ／	スポーツと政治・経済（1）　ースポーツと政治 ・政治目的の達成にスポーツを利用するケース 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第８回 ／	スポーツと政治・経済（2）　ースポーツと経済、スポーツ・スポンサーシップ 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第９回 ／	スポーツと政治・経済（3）　ースポーツとメディア 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること	30
第10回 ／	スポーツと教育（1）　ースポーツと社会化 レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。	60
第11回 ／	スポーツと教育（2）　ーなぜ体育は存在するのか レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。	60
第12回 ／	日本のスポーツを考える（1） ①日本人のスポーツ観 ②日本的スポーツ集団、組織 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第13回 ／	日本のスポーツを考える（２）ーコミュニティスポーツ ・生涯スポーツ レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。	60
第14回 ／	これからのスポーツ ①競技スポーツの社会的問題 ②スポーツの大衆化をめぐる問題 レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SLS32S058S	専門教育科目 生涯スポーツ領域 ライフスポーツ分野	ライフスポーツ概論 Introduction to Life Sports	２単位	必　修	講　義	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	健康や運動能力だけでなく人格形成もスポーツに求められる大きな要素である。 このことを踏まえ、スポーツの本質（スポーツの文化的・社会的価値）を理解し、スポーツが社会に果たす役割（貢献）からスポーツの在り方を考え、スポーツを通して自らのライフワークを高めていく。
キーワード	スポーツマンシップ チャレンジ スポーツのチカラ
学修教育目標	スポーツマンシップからスポーツの在り方を理解するとともに、スポーツが社会に果たす役割からスポーツの価値を理解する。

授業科目の概要及び学修上の助言

スポーツを楽しむだけでなく、勝敗の行方や、感動の場面などだけでスポーツをとらえるのではなく、スポーツを通じて起こる社会的現象を社会的事実として受けとめ、そこから役や課題を考え、スポーツが社会にどのような役割を果たし貢献しているのかを理解し、スポーツの文化的・社会的価値を把握し生活に活かす。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツ社会学、レクリエーション理論、健康スポーツ学概論

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	スポーツの本質を理解することができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	技能を高めるための考え方を理解することができる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	グループワークやペアワークから的確に情報を発信することができる。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	ルールや約束を守り、授業に参加することができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	スポーツの本質を学ぶことでスポーツの在り方を理解しライフワークに活かすことができる	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	リーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。	◎
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し具体的に設定し、チャレンジ精神で行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。	◎
	② 計画力	課題解決のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てることができる。	
	③ 創造力	課題の解決において様々な知識や考え方、技術等を組み合わせて新たな方法を考え出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 情況把握力	全体に及ぼす影響を意識して、考えながら行動することができる。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	自分の持てる能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50		20	10			20	100
評価の指標	知識に関する評価	50		20					70
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				10				10
	関心・意欲に関する評価							20	20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
スポーツの本質を理解しライフワークに活用することができる。	スポーツの本質を理解することができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ①授業の進め方 ②評価について ③なぜライフスポーツ概論を学ぶのか 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	今回の復習	60
第２回 ／	健康からスポーツやライフワークの在り方を考える ①WHO健康の定義 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	前回・今回の復習	60
第３回 ／	社会的健康からスポーツやライフワークの在り方を考える ①自立 ②セルフコントロール 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	前回・今回の復習	60
第４回 ／	スポーツに求められるもの１ ①スポーツマンシップ ②フェアプレー ③ルール 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	前回・今回の復習	60
第５回 ／	スポーツに求められるもの２ ①指導の在り方１（体罰について１） 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	前回・今回の復習	60
第６回 ／	スポーツに求められるもの３ ①指導の在り方２（体罰について２） 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	前回・今回の復習	60
第７回 ／	スポーツに求められるもの４ ①指導の在り方３（褒めて育てる） 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	前回・今回の復習	60
第８回 ／	スポーツの役割１ ①社会との関り（スポーツの隆盛と危機） 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	前回・今回の復習	60
第９回 ／	スポーツの役割 ①社会との繋がり１（チームワーク） 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	前回・今回の復習	60
第10回 ／	スポーツの役割 ①社会との繋がり２（継続力から） 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	前回・今回の復習	60
第11回 ／	スポーツの役割 ①社会との繋がり３（スポーツの力１） 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	前回・今回の復習	60
第12回 ／	スポーツの役割 ①社会との繋がり４（スポーツの力２） 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	前回・今回の復習	60
第13回 ／	スポーツと経済 ①テレビとスポーツ ②インターネットとスポーツ 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	前回・今回の復習	60
第14回 ／	スポーツの祭典 ①オリンピック ②パラリンピック ③スペシャルオリンピックス 小レポート、ペアワーク	面接授業 講義形式 レポート	前回・今回の復習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SLS33S059S	専門教育科目 生涯スポーツ領域 ライフスポーツ分野	アダプテッドスポーツ指導法 Growth Development Theory	２単位	選　択	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	障がい者における運動やスポーツ（アダプテッドスポーツ）は、体力の向上のみならず、社会性の増進・日常生活の質（QOL）の向上等、非常に意義深い。 アダプテッドスポーツの理念と実践方法を理解し、その実践に存する工夫を学ぶとともに指導法を学修する。
キーワード	アダプテッドスポーツ　指導法
学修教育目標	アダプテッドスポーツは特殊なスポーツではなく、工夫によって成立するものであることを理解し、その基本的な考え、構成、ルールを理解することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

障がいの種類や特徴を理解した上で、アダプテッドスポーツの種目と特徴、指導法を学修する。
また、現代社会において、アダプテッドスポーツがどのように取り組まれているかを学修する。
障がい者スポーツの実践に関するニュース等に関心を持っておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「ライフスポーツ概論」と関連する。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：新版　障がい者スポーツ指導教本　初級・中級 著者名：(公財) 日本障がい者スポーツ教科会 出版社：株式会社ぎょうせい　ISBN9784324101070

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	アダプテッドスポーツの種類と特徴を理解する。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	アダプテッドスポーツの指導ができる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	アダプテッドスポーツを通して障がいの特徴や支援について考えることができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	関心を持って積極的に取り組む。	◎
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力		
	②　計画力		
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスに対し、適切に対処する。	○
4. 倫理観	①　倫理性	相手の事を考えて行動する。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50	20	20	10				100
評価の指標	知識に関する評価	30	10	20	5				65
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	20	10						30
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				5				5
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
アダプテッドスポーツの種類と特徴を理解し、その指導を通して各種障がいに対する適切な支援を考察することができる。 （授業内容に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。）	アダプテッドスポーツの種類と特徴を理解し、指導ができる。 （授業内容に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断される。）

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修 学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	障がい者スポーツとは ① 障がい者スポーツの考え方と理解 ② 障がい者スポーツの実際 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：アダプテッドスポーツの考え方と歴史的な背景、アダプテッドスポーツの種目や現状について復習する。 予習：障がいの種類や病態、アダプテッドスポーツの実際について予習する。	90 60
第 2 回 ／	障がいの理解とスポーツ（1） ①知的障がい ②発達障がい 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：知的障がいおよび発達障がいの特徴を整理し、それぞれのスポーツの現状について復習する。 予習：知的障がい者および発達障がい者のスポーツの実践例について予習する。	90 60
第 3 回 ／	アダプテッド・スポーツの実践例（1） ① 知的障がい ② 発達障がい 授業の受講態度、グループワークによるレポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：知的障がい者のスポーツ、発達障がい者のスポーツのルールと競技特性について復習する。 予習：視覚障がいと視覚障がい者スポーツについて予習する。	90 60
第 4 回 ／	視覚障がい（1） ① 障がいの理解とスポーツ 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：視覚障がいの特徴を整理し、スポーツ場面における支援方法を復習する。 予習：視覚障がい者のスポーツ実践例について予習する。	90 60
第 5 回 ／	視覚障がい（2） ①アダプテッド・スポーツの実践例 授業の受講態度、グループワークによるレポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：視覚障がい者のスポーツのルールと競技特性について復習する。 予習：聴覚障がいと聴覚障がい者スポーツについて予習する。	90 60
第 6 回 ／	聴覚障害（1） ① 障がいの理解とスポーツ 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：聴覚障がいの特徴を整理し、基本的な手話やスポーツ場面における支援方法を復習する。 予習：聴覚障がい者のスポーツの実践例について予習する。	90 60
第 7 回 ／	聴覚障がい（2） ① アダプテッド・スポーツの実践例 授業の受講態度、グループワークによるレポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：聴覚障がい者のスポーツのルールと競技特性について復習する。 予習：種々の障がいや慢性疾患とスポーツの実践例について予習する。	90 60
第 8 回 ／	その他身体障がい（1） ① 障がいの理解とスポーツ 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：種々の障がいや慢性疾患について基本的知識を整理し、スポーツの実践例やその役割を復習する。グループワークでのレポート内容をまとめる。 予習：アダプテッドスポーツの実践例について予習する。	90 60
第 9 回 ／	その他身体障がい（2） ① アダプテッド・スポーツの実践例 授業の受講態度、グループワークによるレポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：アダプテッドスポーツの変遷と実践例、各種競技大会の現状について復習する。 予習：既存のスポーツとアダプテッドスポーツのそれぞれの競技特性を予習する。	90 60
第 10 回 ／	既存のスポーツとアダプテッド・スポーツ 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：既存のスポーツとアダプテッドスポーツのそれぞれのルールの違いや競技特性について復習する。 予習：パラリンピックやデフリンピック等の競技スポーツの現状について予習する。	90 60
第 11 回 ／	アダプテッド・スポーツの競技 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：アダプテッドスポーツの競技としての歴史的な流れや現状、ルールの特徴について復習する。 予習：アダプテッドスポーツを支援する団体とその活動について予習する。	90 60
第 12 回 ／	アダプテッドスポーツの取り組み（1） ① 行政・NPO 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：アダプテッドスポーツを支援する団体としての活動や今後の課題について復習する。 予習：アダプテッドスポーツの振興に関わる民間機関について予習する。	90 60
第 13 回 ／	アダプテッドスポーツの取り組み（2） ①民間機関 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：アダプテッドスポーツを支援する民間機関の活動や今後の課題について復習する。 予習：アダプテッドスポーツを取り巻く環境やスポーツ振興に関わる課題について予習する。	90 60
第 14 回 ／	アダプテッドスポーツの将来 授業の受講態度、グループワーク課題の発表を評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義とレポート課題 面接授業	復習：障がいについての理解を深め、アダプテッドスポーツを振興する意義と環境整備おける課題について、グループワークでの課題発表の内容をまとめて復習する。	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSP12S060S	専門教育科目 生涯スポーツ領域 スポーツ心理分野	スポーツ心理学 Sport Psychology	２単位	必　修	講　義	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	各種競技スポーツ種目では、勝利のためには「心・技・体」が必要であると言われている。その中の「心」に着目し、知識を得ることを目的とする。スポーツ活動・各種パフォーマンスを通じで生じる様々な「こころの変化」に対して学習し、メカニズムを理解する。

キーワード	スポーツ心理学 メンタルトレーニング 心理的競技能力	学修教育目標	スポーツをする上で、精神力は必要であると古くから考えられてきている。精神力を科学的に理解し、また、運動選手（パフォーマー）に必要な心理的競技能力について理解し、各能力を伸ばすために必要な手法を理解する。

授業科目の概要及び学修上の助言

「精神力」とは何か？「やる気は数値化できるのか？」など、実力発揮に必要な心の状態を理解する為にスポーツ心理学Ｉを通して学修する。
また、スポーツをする上で「なぜ、心が大切」なのかを理解する。
講義内にて教科書・iPad を使用するため、各自持参すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツとメンタルヘルス」「メンタルトレーニング論」を学修するための基礎科目となる。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：これから学ぶスポーツ心理学 著者名：荒木　雅信 出版社：大修館書店	

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	精神力を調査する方法を理解する。精神力を向上するための手法を理解する。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	「スポーツ心理学」という学術分野について理解できる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	主体性を持って積極的に取り組む。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	自分を客観的に観察し、現状を把握する中で課題を見つけ、解決することができる。	○
	②　計画力		
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスの原因となる事象が生じた時に、適切な対応を取ることができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	共に受講している学生のことを考えて行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50	20	30					100
評価の指標	知識に関する評価	50	20	10					80
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価			10					10
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価			10					10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
「スポーツ心理学」について、充分に理解をしている。 理解度が 80%以上である。	「スポーツ心理学」の基礎的な部分について理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第１回 ／	スポーツ心理学とは、その成り立ち（イントロダクション） コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30
第２回 ／	運動のメカニズム（1） ① 運動の神経学的メカニズム ② スポーツスキルの分類と構成 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30
第３回 ／	運動のメカニズム（2） ③ 情報処理と意思決定 ④ スポーツスキルと知覚の関連 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30
第４回 ／	運動学習の原理 ① 運動学習 ② フィードバック コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30
第５回 ／	効果的な運動指導（1） ① 観察学習 ② 言語的指導 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30
第６回 ／	効果的な運動指導（2） ③ 効果的な練習法 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30
第７回 ／	これまでの復習 小テスト コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30
第８回 ／	スポーツの動機づけ ① 内発的動機づけと外発的動機づけ（自己決定理論） ② 目標設定と動機づけ 小テスト　コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30
第９回 ／	スポーツにおける集団（1） ① スポーツ集団の構造 ② スポーツ集団の心理的プロセス コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30
第10回 ／	スポーツにおける集団（2） ① リーダーシップ ② チームビルディング コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30
第11回 ／	パーソナリティとスポーツ ① パーソナリティの理論 ② パーソナリティとスポーツ コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30
第12回 ／	スポーツ心理学の応用 スポーツ現場における心理的課題の解決方法を探る（1） コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30
第13回 ／	スポーツ現場における心理的課題の解決方法を探る（2） コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30
第14回 ／	まとめ レポート作成 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に提示された課題に取り組む	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSP33S061S	専門教育科目 生涯スポーツ領域 スポーツ心理分野	スポーツとメンタルヘルス Sport and Mental Health	２単位	選　択	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	近年、さまざまなストレス環境にさらされる現代社会において、運動・スポーツ活動は重要な役割を担っている。本授業では、運動・スポーツがメンタルヘルス（こころの健康）におよぼす影響について、科学的視点から理解する。さらに、運動・スポーツにかかわる多種多様な対象者の立場に立ち、メンタルヘルス向上に役立つ運動・スポーツ活動の実践・指導の在り方について考察する。
キーワード	メンタルヘルス 健康スポーツ 高齢者・障がい者スポーツ ジュニアスポーツ スポーツカウンセリング
学修教育目標	運動・スポーツ活動がメンタルヘルス（こころの健康）におよぼす影響について、科学的に理解し、説明することができる。運動・スポーツにかかわる多種多様な対象者の立場に立ち、メンタルヘルス向上に役立つ運動・スポーツ活動の実践・指導の在り方について考え、現場でのよりよい実践に繋げることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

ストレスの発生過程など、心理学の基礎的知識を有していることが望ましい。(※スポーツ心理学の授業内容を復習しておくこと。)
講義内で iPad を使用するため、各自持参すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツ心理学Ⅰ」「メンタルトレーニング論」に関連する科目となる。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：これから学ぶスポーツ心理学 著者名：荒木　雅信 出版社：大修館書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	メンタルヘルス向上における運動・スポーツの役割について理解することができる。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	家族・友人・地域社会に役立てることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	主体性を持って積極的に取り組む。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	自分を客観的に観察し、現状を把握する中で課題を見つけ、解決することができる。	◎
	②　計画力		
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力	話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50	20	30					100
評価の指標	知識に関する評価	50	20	10					80
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価			10					10
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価			10					10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
「スポーツ心理学Ⅰ」で学修した基礎知識をもとに「スポーツとメンタルヘルス」を充分に理解している。スポーツ活動のもたらす効果について充分に理解している。 理解度が80%以上である。	「スポーツとメンタルヘルス」について理解している。スポーツ活動の効果について理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ① 現代社会の健康問題について ① 精神的健康度・気分の測定 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30
第 2 回 ／	運動とメンタルヘルスの関連 ① スポーツと心の健康 ② スポーツの心理的効果 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30
第 3 回 ／	スポーツ活動の実践 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30
第 4 回 ／	運動習慣と精神的健康度の関連性を実感しよう ① 運動習慣と精神的健康度・気分の関連 ② 運動前と運動後の精神的健康度・気分の違い コメントシート	講義形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30
第 5 回 ／	スポーツ活動とストレスについて ① ストレスの発生過程 ② ストレスマネジメントとしての運動・スポーツ コメントシート	講義形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30
第 6 回 ／	運動を始め、習慣化するためには？ ① 運動の参加と継続（学習理論、社会的認知理論） コメントシート	演習形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30
第 7 回 ／	運動を始め、習慣化するためには？ ② 運動の参加と継続（トランスセオレティカルモデル） コメントシート	講義形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30
第 8 回 ／	運動・スポーツをしている＝健康ではない！？ ① 運動・スポーツのネガティブな影響 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30
第 9 回 ／	スポーツ傷害（ケガ）と向き合うために ① スポーツ傷害（ケガ）の心理学 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30
第 10 回 ／	スポーツ傷害（ケガ）と向き合うために ① スポーツ傷害（ケガ）の心理学 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30
第 11 回 ／	バーンアウト ① バーンアウトの心理学 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30
第 12 回 ／	自然の中でのスポーツ活動について ① アウト・ドア・スポーツと心の健康について ② 組織キャンプの役割と効果について コメントシート	講義形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30
第 13 回 ／	アダプテッド・スポーツ ① 障がい者のスポーツ ② 女性スポーツ ③ ジュニア・高齢者のスポーツ コメントシート	講義形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30
第 14 回 ／	まとめ メンタルヘルスの向上を目的とした運動・スポーツの実践・指導 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時指示された課題に取り組む。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSP33F062S	専門教育科目 健康教育学領域 スポーツ心理分野	メンタルトレーニング論 Sport Mental Training	２単位	選　択	講　義	３年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	メンタルトレーニングの基礎となる技法・構成要素・理論的背景を理解する。リラクセーション・イメージトレーニングなどの技法を学び、実際のスポーツ現場に活かせる技法を学修する。
キーワード	メンタルトレーニング 心理的競技能力診断検査
学修教育目標	メンタルトレーニングの基礎となる技法・構成要素・理論的背景を理解し、実際のスポーツ現場に活かせる技法を身につけることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

スポーツを「する・支える」の視点から、最高のパフォーマンスを発揮するためのメンタルトレーニングの技法を身につける。
メンタルトレーニングはスポーツ心理学の知識を応用したものであるため、スポーツ心理学の基礎的知識を有していることが望ましい。
※　スポーツ心理学の授業内容を復習しておくこと。
講義内にて教科書・iPad を使用するため、各自持参すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツ心理学Ⅰ」「スポーツとメンタルヘルス」に関連する科目となる。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：これから学ぶスポーツ心理学 著者名：荒木　雅信 出版社：大修館書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	競技力発揮に必要な知識を理解することができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	適切なメンタルトレーニングを実施することができる。	○
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	スポーツ現場や教育現場、自分自身に役立てることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	主体性を持って積極的に取り組む。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	自分を客観的に観察し、現状を把握する中で課題を見つけ、解決することができる。	◎
	②　計画力		
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見を相手に伝えることができる。	○
	②　傾聴力	話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスの原因となる事象が生じた時に、適切な対応を取ることができる。	◎
4. 倫理観	①　倫理性	共に受講している学生のことを考えて行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50		30				20	100
評価の指標	知識に関する評価	50		10				10	70
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価			10				5	15
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心･意欲に関する評価			10				5	15

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
「メンタルトレーニング」の理論・技法について充分に理解している。 適切なトレーニング方法を理解している。 理解度が 80%以上である。	「メンタルトレーニング」の理論・技法について理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ① スポーツ心理学Ⅰ・Ⅱで学修したことの復習 ② メンタルトレーニングとは コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第２回 ／	メンタルトレーニングの基礎 ① メンタルトレーニングの目的・目標・評価 ② メンタルトレーニングの内容 ③ メンタルトレーニングの展開 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第３回 ／	心理的競技能力を測定してみよう ① 心理的競技能力（DIPCA）の測定 ② 自己分析・シェアリング コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第４回 ／	心理的競技能力の実際 ① 心理的競技能力と競技レベルの関連 ② 心理的競技能力の高め方 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第５回 ／	目標設定 ① 目標設定の効果 ② 目標設定の実践 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第６回 ／	情動のコントロール ① 緊張とパフォーマンス発揮の関連 ② リラクセーション コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第７回 ／	情動のコントロール ① サイキングアップ ② 情動のコントロール方法を考える コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第８回 ／	注意集中技法 ① 注意・集中とパフォーマンスの関連 ② 注意・集中のコントロール方法を考える コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第９回 ／	イメージトレーニング ① イメージの重要性 ―イメージ通りに身体が動く― ② イメージトレーニングの実践 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第10回 ／	セルフモニタリング ① セルフモニタリングとその有用性 ② セルフモニタリングの活用法　―練習日誌― コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第11回 ／	ピークパフォーマンス分析 ① ピークパフォーマンス、フロー、ゾーン ② ピークパフォーマンス分析 ―PP を発揮しやすい環境とは― コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第12回 ／	積極的思考法 ① ポジティブシンキングの真意 ② セルフ・コンパッション　―鬼滅の刃・竈門炭治郎に学ぶ― ③ セルフトークに気づく・ポジティブシンキングに変換する コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第13回 ／	自信 ① 自信の重要性と構成要素 ② 自信の高め方 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第14回 ／	チームワーク ① チームワークの重要性と構成要素 ② チームワークの高め方 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSM12S063S	専門教育科目 生涯スポーツ領域 スポーツマネジメント分野	スポーツ行政の理論と実際 Theory and Practice of Sport Administrator	２単位	必　修	講　義	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的

体育・スポーツの普及や振興に貢献する体育・スポーツ経営学の基礎理論について理解する。
体育・スポーツ経営組織としての体育・スポーツ行政の概念、組織、法規等について理解するとともに、諸外国の事例や我が国の事例をもとに、現代の多様化するスポーツニーズに対する体育・スポーツ行政、政策の課題について認識を深める。

キーワード

スポーツ経営、スポーツ行政
スポーツ政策、スポーツ基本法
スポーツ基本計画

学修教育目標

体育・スポーツ経営の概念を理解し、説明することができる。
スポーツ行政の概念を理解し、説明することができる。
スポーツ政策/施策を検証し、スポーツ行政に関連する問題を考察することができる。
スポーツ行政に関連する事例を分析し、検証することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

スポーツの普及や発展に必要となるスポーツ経営の考え方について学ぶとともに、スポーツ行政が行われる法的根拠やスポーツ行政における制度、組織体制、スポーツ振興施策について学ぶ。
自身が「豊かなスポーツライフ」を形成するとともに、スポーツの価値を広めてこれからのスポーツを支える人材になるというモチベーションをもって受講していただきたい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツマーケティング論

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：よくわかるスポーツマネジメント 著者名：柳沢和雄、清水紀宏、中西純司 編著 出版社：ミネルヴァ書房 書　名：図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント 著者名：山下秋二、中西純司、松岡宏高 編著 出版社：大修館書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	スポーツ経営、スポーツ行政に関する基礎理論や概念について理解する。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	自分の意見を論理的に表現することができる。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	スポーツの普及や発展における経営課題について分析し、解決策を検討することができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	スポーツの普及・発展における経営課題について理解し、その原因を分析することができる。	○
	② 計画力	スポーツの普及・発展に向けた課題の解決に向けて、計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	スポーツの普及・発展に向けた課題の解決に向けて、新たなアイディアを出すことができる。	△
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自分の考えを口頭や文章で、論理的に説明することができる。	○
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 情況把握力		
	⑤ 規律性	スポーツマンシップを理解して、その価値にふさわしい行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	スポーツマンシップを理解して、スポーツを支える人材としてふさわしい行動をとることができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		45		30	10			15	100
評価の指標	知識に関する評価	30		20					50
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	15		10					25
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				5			5	10
	関心・意欲に関する評価				5			10	15

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
スポーツ経営の概念について十分に理解している。 スポーツ行政の概念について十分に理解している。 「スポーツ基本法」や「スポーツ基本計画」などの法制度やスポーツ政策について、課題を検討することができる。	スポーツ経営の概念について理解している。 スポーツ行政の概念について理解している。 「スポーツ基本法」や「スポーツ基本計画」などの法制度やスポーツ政策について理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	体育・スポーツ経営学概論（1） ・体育・スポーツ経営の目的 グループワーク	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第２回 ／	体育・スポーツ経営学概論（2） ・体育・スポーツ事業の進め方① （スポーツ施設・エリアサービスの概念） 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第３回 ／	体育・スポーツ経営学概論（3） ・体育・スポーツ事業の進め方② （プログラムサービスの概念） グループワーク、レポート	グループワークを実施し、相互評価を行う。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること	60
第４回 ／	体育・スポーツ行政の概念 ・スポーツ行政の原理・原則	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第５回 ／	体育・スポーツ行政と関係法令 ・スポーツ行政における法的根拠	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第６回 ／	体育・スポーツ行政の組織・制度	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第７回 ／	戦後体育・スポーツ政策の変遷（1）	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第８回 ／	戦後体育・スポーツ政策の変遷（2） グループワーク、レポート	グループワークを実施し、相互評価を行う。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること	60
第９回 ／	スポーツ基本法をよむ 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第10回 ／	スポーツ基本計画と競技力向上政策（1） グループワーク	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第11回 ／	スポーツ基本計画と競技力向上政策（2） グループワーク	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第12回 ／	スポーツ基本計画と生涯スポーツ振興施策（1） グループワーク	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第13回 ／	スポーツ基本計画と生涯スポーツ振興施策（2） グループワーク	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第14回 ／	スポーツ財政とガバナンス	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSM32F064S	専門教育科目 生涯スポーツ領域 スポーツマネジメント分野	スポーツ経営学 Management for Physical Education	２単位	選　択	講　義	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	教育職員免許法施行規則で定められた「教科に関する科目」の「『体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学』及び運動学（運動方法額を含む。）」に対応する教職課程の選択科目である。 体育・スポーツの普及や振興に貢献する体育・スポーツ経営学の基礎理論について、特に学校における体育・スポーツ経営の理解を目的とする。学校全体の体育及び体育的活動を合理的、効率的に進める実践力の基盤となるよう、学校体育経営組織の構造、教科体育の計画と運営、体育的行事の計画と運営、運動部活動の計画と運営、学校体育経営の評価等、体育経営学の理論と方法について理解する。
キーワード	学校体育 カリキュラム・マネジメント 運動生活
学修教育目標	学校体育経営の基本的な理論と方法を理解し、説明することができる。 学校における体育・スポーツ事業について、経営計画の立案、組織の在り方、経営評価の内容と方法を理解し、説明することができる。 学校体育経営に関する現場での課題解決の方法を検討し、改善・修正案を提示することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

学校体育に関わる現代的課題、学校における体育的活動（授業、体育的行事、運動部活動など）の総合的カリキュラム編成の原則について学ぶ。
保健体育教員を目指す学生には、是非受講していただきたい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツ社会学、スポーツ行政の理論と実際、スポーツマーケティング論

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：学校体育経営ハンドブック 著者名：宇土　正彦 編著 出版社：大修館書店 書　名：テキスト 体育・スポーツ経営学 著者名：柳沢　和雄、木村　和彦、清水　紀宏 編著 出版社：大修館書店 書　名：よくわかるスポーツマネジメント 著者名：柳沢　和雄、清水　紀宏、中西　純司 編著 出版社：ミネルヴァ書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	学校体育経営に関する基礎理論を理解できる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	保健体育教員として必要なリーダーシップを発揮し、論理的にコミュニケーションをとることができる。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	保健体育教員として必要な倫理観、規律性を意識して取り組むことができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	学校体育カリキュラムについて、課題解決に向けて取り組むことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	学校体育に関わっていくために、主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	学校体育に関わっていくために、他者に働きかけていくことができる。	△
	③ 実行力	学校体育に関わっていくために、チャレンジ精神をもって行動することができる。	△
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	学校体育を取り巻く課題について理解し、その原因を分析することができる。	◎
	② 計画力	学校体育を取り巻く課題について、課題解決に向けた計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	学校体育を取り巻く課題について、課題解決に向けてアイディアを出すことができる。	△
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自分の考えを口頭や文章で、論理的に説明することができる。	○
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。	○
	③ 柔軟性	他者の意見やアドバイスを柔軟に受け入れることができる。	△
	④ 情況把握力		
	⑤ 規律性	保健体育教員としての立場を意識して、良識ある行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	保健体育教員としての責任を自覚して、他者のために行動できるよう努力することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合		45		35	10			10	100
評価の指標	知識に関する評価	25		15					40
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	20		15	5				40
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価			5	5				10
	関心･意欲に関する評価							10	10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
学校体育をめぐる今日的な諸課題を十分に理解し、説明することができる。 体育カリキュラムの編成方針、各体育・スポーツ事業の構成方法、経営過程について十分に理解し、検討することができる。	学校体育をめぐる今日的な諸課題を理解し、説明することができる。 体育カリキュラムの編成方針、各体育・スポーツ事業の構成方法、経営過程について理解し、検討することができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション 体育・スポーツ経営の概念、目的の復習 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：「スポーツ行政の理論と実際」の講義ノートを復習しておく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第２回 ／	体育・スポーツ経営の構造と学校体育経営の基本的特性 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第３回 ／	学校における体育経営組織の構造と運営課題 ①体育の経営組織 ②体育主任の役割 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第４回 ／	教科体育の計画と運営（1） ①学校の体育経営方針と体育計画 ②年間計画の立案 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。	30
第５回 ／	教科体育の計画と運営（2） ①選択制授業の意義 ②選択制授業における単元計画の立案と運営組織 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第６回 ／	体育的行事の計画と運営 ①体育的行事の意義と内容 ②体育的行事の計画・運営組織・経営評価クラブサービス 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。	30
第７回 ／	体育施設・設備・用具の整備・拡充 ①施設の基礎量 ②エリアサービス 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。	30
第８回 ／	学校開放事業の運営と課題 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。	30
第９回 ／	運動部活動の計画と運営（1） ①運動部の教育的意義 ②クラブサービス 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。	30
第10回 ／	運動部活動の計画と運営（2） ①運動部活動の年間計画の立て方 ②運動部の運営組織 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。	30
第11回 ／	運動部活動の計画と運営（3） ・顧問の役割、活動の現状と課題 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。	30
第12回 ／	運動部活動の計画と運営（4） ・対外試合への参加と考え方 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。	30
第13回 ／	学校体育と地域スポーツとの関連 ・総合型地域スポーツクラブとの連携 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第14回 ／	学校体育の経営評価 ①経営条件の評価、経営成績の評価 ②運動生活調査 小レポート	板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う 面接授業	予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSM33S065S	専門教育科目 生涯スポーツ領域 スポーツマネジメント分野	スポーツマーケティング論 Sports Marketing	２単位	選　択	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	今日におけるスポーツ事業主体は、代理人（エージェント）・商社・広告代理店等を活用し、事業を拡大している。近年においては放送と通信とも融合し、スポーツマーケティング活動は著しい進化と大規模化を遂げている。そして、この活動が成功すれば、さらに新たな手法が生み出され、戦略・戦術・販売促進はますます大規模化していく。これらのスポーツマーケティング活動を概括し、その実際と手法を知る。
キーワード	１．スポーツマーケティング ２．マーケティングマネジメント
学修教育目標	スポーツマーケティングの基本的な理論について説明できる。 スポーツマーケティングの視点から事例について説明能力を習得する。

授業科目の概要及び学修上の助言

【授業科目の概要】
授業の形式は講義となります。本講義では、①スポーツマーケティングの登場背景、②マーケティングの基礎概念、③マーケティングマネジメント、④マーケティング戦略について主に学習します。

【学修上の助言】
授業内でも様々なマーケティング事例を紹介しますが、各自インターネットや関連図書を活用し、できるだけ多くのマーケティング関連情報に触れておくことが理解を助けます。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

【他の科目との関連】
「スポーツ経営学」、「地域スポーツ経営論」、「スポーツ社会学」

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
教科書は，特に指定しない。適宜資料を用意する。	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	基本的なマーケティング理論や概念について理解する。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	グループワークを通し、積極的に仲間とコミュニケーションをとりながら学習活動ができる。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	マーケティングの視点から、様々な組織の経営課題解決事例についてまとめることができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性		
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	経営組織のマーケティング課題について、発見することができる。	○
	②　計画力	経営組織のマーケティング課題解決に向けて、計画をたてることができる。	△
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の考えや質問に対する回答を口頭や文章で論理的に説明することができる。	◎
	②　傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。	○
	③　柔軟性	自分のルールややり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。	△
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		45		25	20			10	100
評価の指標	知識に関する評価	35		10	5				50
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	10		10	5				25
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				10				10
	関心・意欲に関する評価			5				10	15

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
①マーケティングの基礎概念についてわかりやすく説明できる。 ②マーケティングマネジメントプロセスについて説明できる。 ③授業で学習したマーケティング理論をわかりやすく説明できる。 ④マーケティングの視点から、様々な組織の経営課題解決の事例についてまとめることができる。	①マーケティングの基礎概念について説明できる。 ②マーケティングマネジメントプロセスについて概ね説明できる。 ③授業で学習したマーケティング理論を概ね説明できる。 ④マーケティングの視点から、様々な組織の経営課題解決の事例についてある程度まとめることができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 授業の進め方・内容・受講に際しての留意点について説明	・講義と質疑（面接授業）	・予習：シラバスを読み、全 15 回の講義の内容を理解しておく。 ・復習：講義の内容について復習し、理解する。	30
第 2 回 ／	スポーツマーケティングの登場背景・実践領域	・講義と質疑(面接授業)	・予習：インターネットや関連図書を活用し、スポーツ実践領域でのマーケティング事例の情報にふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。	30
第 3 回 ／	マーケティングの手法と種類	・講義と質疑(面接授業)	・予習：インターネットや関連図書を活用し、マーケティングの手法と種類の情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。	60
第 4 回 ／	スポーツマーケティング・マネジメントの基本枠組	・講義と質疑(面接授業)	・予習：インターネットや関連図書を活用し、マーケティングマネジメントシステムの基本枠組の情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。	60
第 5 回 ／	消費者行動と戦略策定プロセス	・講義と質疑(面接授業) ・演習(面接授業)	・予習：インターネットや関連図書を活用し、消費者行動論の情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。	60
第 6 回 ／	マーケティングミックスの構造	・講義と質疑(面接授業) ・演習(面接授業)	・予習：インターネットや関連図書を活用し、マーケティング戦略策定事例にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。	90
第 7 回 ／	製品・価格の捉え方	・講義と質疑(面接授業)	・予習：インターネットや関連図書を活用し、マーケティングミックスの情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。	60
第 8 回 ／	立地・流通とプロモーションの捉え方	・講義と質疑(面接授業)	・予習：インターネットや関連図書を活用し、マーケティングにおける製品、価格の捉え方の情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。	60
第 9 回 ／	組織間競争構造の理解	・講義と質疑(面接授業)	・予習：インターネットや関連図書を活用し、マーケティングにおける立地、流通、プロモーションの捉え方の情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。	60
第 10 回 ／	グループワーク（第 12 回～第 14 回）に向けて	・講義と質疑(面接授業)	・予習：インターネットや関連図書を活用し、組織間競争構造の情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。	60
第 11 回 ／	グループワーク・発表（1）：スポーツマーケティングの事例研究	・講義と質疑(面接授業) ・グループワーク(面接授業)	・予習：事例発表のテーマを見つけておく ・復習：口頭発表の準備	90
第 12 回 ／	グループワーク・発表（2）：スポーツマーケティングの事例研究	・講義と質疑(面接授業) ・口頭発表(面接授業) ・グループワーク(面接授業)	・予習：口頭発表の準備 ・復習：授業で扱われた事例について確認し、理解する。	90
第 13 回 ／	グループワーク・発表（3）：スポーツマーケティングの事例研究	・講義と質疑(面接授業) ・口頭発表(面接授業) ・グループワーク(面接授業)	・予習：口頭発表の準備 ・復習：授業で扱われた事例について確認し、理解する。	90
第 14 回 ／	グループワーク・発表（4）：スポーツマーケティングの事例研究	・講義と質疑(面接授業) ・口頭発表(面接授業) ・グループワーク(面接授業)	・予習：口頭発表の準備 ・復習：授業で扱われた事例について確認し、理解する。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SJS12S066S	専門教育科目 生涯スポーツ領域 ジュニアスポーツ分野	ジュニアスポーツ概論 Introduction to Junior Sports	２単位	必　修	講　義	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	現代社会におけるジュニアスポーツの意義と問題点について理解する。 スポーツが幼児、児童に与える効果、指導上の注意点を様々な角度から考察し、ジュニアスポーツにおける知識について的確に判断できるようになる。
キーワード	スポーツマンシップ・指導者
学修教育目標	現代社会に生きる幼児、児童の環境に配慮しながら、ジュニアスポーツの意義とその役割について説明できる。 ジュニアスポーツの実践における注意点とその対策について説明できる。 幼児、児童の成長過程に準拠した指導上の注意点について説明できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

講義中心の授業を行うが、屋外での実技指導、指導実践を行う場合もある。
配布資料について復習したうえで授業に臨むこと。授業後には、講義のポイントを確認するとともに、問題点や疑問点を整理しておく。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「ジュニアスポーツ指導者論」「ジュニアスポーツ実践実習」と関連する。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
適宜、教材プリントを配布する。	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	健康・スポーツに関する専門知識を身につけるために授業を受けたのち、自己学修できるようになる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	健康・スポーツに関する実技実践力を身につけるために授業を受けたのち、自己学修できるようになる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	授業内で生じた課題に主体的に対応するとともに、仲間と協力してより良い解答を模索する。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	卒業後に社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができるようになる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	授業内で得られた知見を基礎に、ジュニアスポーツに存する諸問題への対応策を考察できるようになる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力		
	②　計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	○
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。	○
	②　傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。	△
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性	チームでの規律を尊重することができる。	△
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50		30				20	100
評価の指標	知識に関する評価	20		10				20	50
	技能に関する評価	10							10
	応用力に関する評価	20		10					30
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価			10					10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
ジュニアスポーツの意義とその役割について理解し、説明できる。 ジュニアスポーツの実践における注意点とその対策について理解し、説明できる。 幼児、児童の成長過程に準拠した指導上の注意点について理解し、説明できる。 （上記項目に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。）	ジュニアスポーツの意義とその役割について理解し、説明できる。 ジュニアスポーツの実践における注意点とその対策について理解し、説明できる。 幼児、児童の成長過程に準拠した指導上の注意点について理解し、説明できる。 （上記項目に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断される。）

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	スポーツの概念と歴史・スポーツマンシップとは	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：スポーツマンシップとはいかなるものであるかについて復習する。 予習：ジュニアスポーツの意義について予習する。	60
第 2 回 ／	文化としてのスポーツ　- ジュニアスポーツの意義 - とは スポーツマンシップとは	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：ジュニアスポーツの意義について復習する。 予習：幼児・児童を取り巻く社会環境・スポーツ環境について予習する。	60
第 3 回 ／	幼児、児童を取り巻く社会環境・スポーツ環境 スポーツマンシップとは	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：知幼児・児童を取り巻く社会環境・スポーツ環境について復習する。 予習：スポーツ指導者とはいかなるものであるかについて予習する。	60
第 4 回 ／	ジュニアスポーツ指導者の役割（1） ①　スポーツ指導者とは	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：スポーツ指導者とはいかなるものであるかについて復習する。 予習：ジュニアスポーツ指導者としての心構えや指導時にもつべき視点について予習する。	60
第 5 回 ／	ジュニアスポーツ指導者の役割（2） ②　スポーツ指導者の心構え・視点	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：ジュニアスポーツ指導者としての心構えや指導時にもつべき視点について復習する。 予習：ジュニア期の身体的特徴（発育・発達）について予習する。	60
第 6 回 ／	発育・発達（1） ①　ジュニア期の身体的特徴	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：ジュニア期の身体的特徴（発育・発達）について復習する。 予習：ジュニア期の心理的特徴（発育・発達）について予習する。	60
第 7 回 ／	発育・発達（2） ①　ジュニア期の心理的特徴	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：ジュニア期の心理的特徴（発育・発達）について復習する。 予習：ジュニア期におけるスポーツプログラムの作成時の注意点について予習する。	60
第 8 回 ／	発育・発達（3） ①　ジュニア期におけるスポーツプログラム	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：ジュニア期におけるスポーツプログラムの作成時の注意点について復習する。 予習：多様な動き、あるいはその他の運動が神経系に対していかなる刺激を誘発するかについて予習する。	60
第 9 回 ／	ジュニアスポーツ実践（1） ①　多様な動き、神経系への刺激	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：多様な動き、あるいはその他の運動が神経系に対していかなる刺激を誘発するかについて復習する。 予習：ジュニア期におけるスポーツプログラムの作成時の注意点をふまえた、計画立案について予習する。	60
第 10 回 ／	ジュニアスポーツ実践（2） ①　スポーツプログラムの作成	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：ジュニア期におけるスポーツプログラムの作成時の注意点をふまえた、計画立案方法について復習する。 予習：ジュニアスポーツ実践時の安全管理について予習する。	60
第 11 回 ／	ジュニアスポーツ実践（3） ①　安全管理	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：ジュニアスポーツ実践時の安全管理について復習する。 予習：指導者にとって重要なスキル（技術）である、コミュニケーションについて予習する。	60
第 12 回 ／	コミュニケーションスキル	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：指導者に求められるコミュニケーションスキルとはいかなるものであるかについて復習する。 予習：ジュニアスポーツ実践時に発生しやすい怪我や、その対処法について予習する。	60
第 13 回 ／	ジュニアスポーツ活動中に多いケガ、病気、救急処置	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：ジュニアスポーツ実践時に発生しやすい怪我や、その対処法について復習する。 予習：ジュニアスポーツと栄養、地域スポーツ振興について予習する。	60
第 14 回 ／	ジュニアスポーツと栄養 地域におけるスポーツ振興	オンデマンドによる遠隔授業 講義と質疑応答	復習：スポーツ時の怪我、応急処置について復習する。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SJS33S067S	専門教育科目 生涯スポーツ領域 ジュニアスポーツ分野	ジュニアスポーツ指導者論 Junior Sport Leader Theory	２単位	選　択	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	ジュニアスポーツ指導の基本的な知識と能力を獲得するとともに、ジュニアスポーツの指導現場で実際に生起している諸問題についての分析・検討を通して、ジュニアスポーツの指導者やリーダーの重要性について認識するとともに、指導現場に立って活躍するための資質の向上を目指す。
キーワード	発育発達期の心理的・身体的特徴 競技力向上 安全な運動実践
学修教育目標	ジュニアスポーツ指導の基本的な知見として、特に発育発達的視点に立った運動学習過程や才能（タレント）の発掘や開発について、またジュニアスポーツにおける安全管理、ジュニアスポーツやその指導における現状と問題点等を理解することができる。 ジュニアスポーツの指導者としての基礎的な資質と実際の指導現場において十分な成果が期待できる指導力を身につける。

授業科目の概要及び学修上の助言

授業の前半では、ジュニアスポーツの特徴を学ぶとともに、「タレント発掘」・「安全管理」を指導者の視点から学ぶ。一方、授業の後半には、事例研究として、実際に指導現場で生じた課題点・問題点を考察し、より実践的な知識の獲得を目指す。
目的・目標を達成する上で、演習や課題を課すことがある。その際、個人あるいはチームでの活動を通して課題解決能力を養うとともに、指導者として必要なコミュニケーション能力を培ってほしいと考える。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「ジュニアトレーニング実践実習」および「ジュニアトレーニング論」での学習と関連する内容を実施する。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	ジュニアスポーツの特徴や安全な運動実践に関する知識を得る。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	他者と協力し、集団の中で自らの役割を把握し、課題に取り組む。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	提示された課題に対し、自ら考え、解決する。	○
	② 働きかけ力	目的を達成するために、チームの一員として行動する。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	客観的に状況を分析し、課題を明らかにするとともに、その解決法を検討する。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自らの考えを適切な文章で表現する。	○
	② 傾聴力	他者の意見を聞き、理解する。	○
	③ 柔軟性	自らの考えだけではなく、他者の意見を参考に考察する。	○
	④ 情況把握力		
	⑤ 規律性	ルールや約束を守るといった規範意識をもち行動する。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	社会の一員としての自覚をもち、善悪の判断をする。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50		35				15	100
評価の指標	知識に関する評価	40		5					45
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	10		30					40
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価							15	15

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
ジュニアスポーツの特徴を理解する。 安全な運動実践に必要なことを理解している。 指導現場で起こりうる問題を知り、その解決方法を理解する。 各項目の理解度が 80%以上である。	ジュニアスポーツの特徴を理解する。 安全な運動実践に必要なことを理解している。 指導現場で起こり問題を理解し、その解決方法を理解する。 各項目の理解度が 60～79%である。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	ジュニアスポーツの特徴（1） ・ガイダンス、スポーツマンシップとは コメントシート	面接授業 講義	今回の復習	30
第２回 ／	ジュニアスポーツの特徴（2） ・ジュニア期の年齢別カテゴリーの分類 授業の出席、受講態度を評価する。	面接授業 講義	今回の復習	30
第３回 ／	ジュニアスポーツの特徴（3） ・発育・発達段階の特徴について（ゴールデンエイジ） 授業の出席、受講態度を評価する。	面接授業 講義	今回の復習	30
第４回 ／	タレントの発掘・開発（1） ・ジュニア期のスポーツ及びスポーツ指導の問題点について 授業の出席、受講態度を評価する。	面接授業 講義	今回の復習	30
第５回 ／	タレントの発掘・開発（2） ・タレント発掘に関する歴史的問題点の理解 授業の出席、受講態度を評価する。	面接授業 講義	今回の復習	30
第６回 ／	ジュニア期におけるスポーツ活動と安全管理 授業の出席、受講態度を評価する。	面接授業 講義	今回の復習	30
第７回 ／	ジュニアスポーツ指導の心得 ・指導者の心構え・視点 授業の出席、受講態度を評価する。	面接授業 講義	今回の復習	30
第８回 ／	ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（1） ・事例研究 授業の出席、受講態度を評価する。	面接授業 講義	今回の復習	30
第９回 ／	ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（2） ・事例研究 授業の出席、受講態度を評価する。	面接授業 講義	今回の復習	30
第10回 ／	ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（3） ・事例研究 授業の出席、受講態度を評価する。	面接授業 講義	今回の復習	30
第11回 ／	ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（4） ・事例研究 授業の出席、受講態度を評価する。	面接授業 講義	今回の復習	30
第12回 ／	ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（5） ・事例研究 授業の出席、受講態度を評価する。	面接授業 講義	今回の復習	30
第13回 ／	ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（6） ・グループワーク：事例研究をもとにディスカッション 授業の出席、受講態度を評価する。	面接授業 演習（グループワーク）	今回の復習	60
第14回 ／	ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（7） ・指導者に求められる資質 授業の出席、受講態度を評価する。	面接授業 講義	社会人基礎力事前・事後評価シートの記入	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SST11S068S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野	スポーツ実践実習Ａ（集団行動・徒手体操） Sport Practice Training A (Group Behavior・General Gymnastics)	１単位	必　修	実　技	１年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	・ラジオ体操、体つくり運動の基礎技術を習得し、課題や運動の構成方法について理解を深め、示範できる能力を身につける。 ・集団で安全に能率よく動くために、共通の決まりや約束を守る態度を身につける。 ・行進を主にした集団演技を創作・発表する。 ・互いに協力する態度を育てる。

キーワード	ラジオ体操 体つくり運動 集団行動	学修教育目標	・ラジオ体操の基本的な運動を習得し、示範することができる。 ・体つくり運動領域の運動の特性や学校体育での取り扱い方について説明することができる。 ・集団行動の主な行動様式、また安全な行動や規律ある集団行動を指導することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

・ＮＨＫラジオ体操（第１）の習得と実践 …… 正しい体の使い方の習得
・「体つくり運動」の創作と発表 …… グループ学習、バランスのとれた筋力トレーニングの組み合わせを創作
・集団行動演技の創作と発表 …… 規律ある行動と歩行等による演技の創作

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツ指導法Ａ（概論的内容）」

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
授業時にプリントを配布する。	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	人体の骨格や筋肉について知る。ラジオ体操（第１）の習得。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	正しい身体動作による効果的なストレッチング。集団行動の基本行動の習得。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	ブレインストーミングの実践。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	構成員のことを考えた行動。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	創作から発表までの計画的行動。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	◎
	②　働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	◎
	③　実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。	◎
	②　計画力	課題の解決に向けた具体的･実践的な方法を明らかにすることができる。	◎
	③　創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	◎
	②　傾聴力	相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。	◎
	③　柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	◎
	④　情況把握力	自分と周囲の人々や物事との情況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	◎
	⑤　規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。	◎
4. 倫理観	①　倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		40			60				100
評価の指標	知識に関する評価	40							40
	技能に関する評価				30				30
	応用力に関する評価				10				10
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				10				10
	関心・意欲に関する評価				10				10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
・示範のための体操が逆方向でできる。 ・集団行動の演技で規律があり整然と実施できる。	・正しい順序・方法で実施できる。 ・集団行動の演技が失敗なく実施できる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ①授業の進め方・内容について説明 ②受講に際しての留意点 ③体ほぐしの運動	講義（教室） プリントによる説明 実習 面接授業	復習 予習	15 15
第２回 ／	体操（1） ①ラジオ体操第１　練習 集団行動における主な行動様式（1） ①姿勢 ②方向転換 ③集合・整とん・番号・解散	プリント配布 示範と実習 面接授業	復習 予習	15 15
第３回 ／	体操（2） ①ラジオ体操第１　練習 集団行動における主な行動様式（2） ①　列の増減（1）　開列	示範と実習 面接授業	復習 予習	15 15
第４回 ／	体操（3） ①ラジオ体操第１ グループ分け　練習 集団行動における主な行動様式（3） ①列の増減（2）　開列	グループ実習 巡回指導 面接授業	復習 予習	15 15
第５回 ／	体操（4） ①　ラジオ体操第１　テスト　評価	グループ別発表　評価 面接授業	復習 予習	15 15
第６回 ／	体操（5） ①体つくり運動　　グループ分け　色々な体つくり運動の実践（1） 集団行動における主な行動様式（4） ①行進（1）　開始・停止	師範と実習 グループ別実習 面接授業	復習 予習	15 15
第７回 ／	体操（6） ①体つくり運動　色々な体つくり運動の実践（2） 集団行動における主な行動様式（5） ①行進（2）	師範と実習 グループ別実習 面接授業	復習 予習	15 15
第８回 ／	体操（7） ①体つくり運動　作成と練習 集団行動における主な行動様式（6） ①行進（3）	作成用プリント配布 グループ別実習 巡回指導 面接授業	復習 予習	15 15
第９回 ／	体操（8） ①体つくり運動　内容点検・修正と練習 集団行動における主な行動様式（7） ①行進（4）	グループ別実習 巡回指導 面接授業	復習 予習	15 15
第10回 ／	体操（9） ①体つくり運動　テスト	グループ別発表　評価 面接授業	復習 予習	15 15
第11回 ／	集団行動実演(1) ① DVD 鑑賞 ②要領説明	講義（教室） グループ別実習 巡回指導 面接授業	復習 予習	15 15
第12回 ／	集団行動実演（2） ①演技作成とグループ練習	グループ別実習 巡回指導 面接授業	復習 予習	15 15
第13回 ／	集団行動実演（3） ①演技内容点検・修正と練習	グループ別実習 巡回指導 面接授業	復習 予習	15 15
第14回 ／	集団行動実演（4） ①実演（演技発表）	グループ別発表　評価 面接授業	復習	15

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SST21F069S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野	スポーツ実践実習B（器械運動） Sport Practice Training B (Instrument Movement)	１単位	選択必修	実　技	１年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	非日常的な能力・感覚（回転感覚・空間認知力・逆さ感覚・功緻性）について体験しながら理解させ、マット運動、跳び箱運動の基本的な運動の習得を目的とする。 お互いに協力したり補助したりして、運動練習ができる態度を育てることを目的とする。
キーワード	器械運動　スポーツ
学修教育目標	器械運動の特性やルールを正しく理解することができる。 各自で内容にあった目標を設定し、それぞれの種目の運動技能を身につけることができる。 安全な行動や規律ある集団行動の体得、体力の向上などに資する指導法を体得することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

非日常的な運動であり、苦手意識を持つことが多い科目である。
しかし、段階的な導入により、当初習得を不可能と思われる技術も体得が可能であることに気付いて欲しい。
毎回の授業で実践する技を事前にインターネット等の動画等で１時間程度確認し、コツを学んでおく。
技術定着のために毎授業後１時間程度の復習を行うこと。特に三点倒立、倒立静止。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツ医学、スポーツトレーニング等、生理学的な基礎知識を習得していることが望ましい。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	器械運動領域で求められる技術を理解する。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	器械運動領域で求められる技術を実践する。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	チーム内でお互いにサポートをしながら、課題解決に努める。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	スポーツマンとして模範となる態度を身に付ける。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	技術段階を考慮しながら、課題達成に向け適切に活動する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	スポーツマンとしての自覚、意思を明確に持つ。	◎
	②　働きかけ力	自分の役割を認識し、チーム全体で課題達成を目指す。	◎
	③　実行力	達成目標を明確化し、確実に実行する。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	自身の技術段階を認識し、課題を明らかにする。	◎
	②　計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する。	◎
	③　創造力	既存の思考に囚われず、柔軟な発想で課題を解決する。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見をわかりやすく伝える。	◎
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する。	◎
	⑤　規律性	大学生として、マナー、ルールを守り、法令順守を心がける。	◎
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	建設的な社会観をもって、良心に恥じない行いをする。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合		40			60				100
評価の指標	知識に関する評価	40							40
	技能に関する評価				60				60
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心･意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
中・高等学校の保健体育教師として、器械運動を指導する際の示範力や指導するための知識を獲得すること。	器械運動（マット運動，跳び箱運動，鉄棒運動）の技能と知識を習得する。各種目の技の中心は、『学習指導要領解説保健体育編』に記載されている技能である。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ②　受講に際しての留意点、授業の進め方、内容について説明 ①　器械運動の特性 ②　技の系統と予備的な運動（ゆりかご、丸太転がり、背倒立、頭倒立、ブリッジ等）	実技 課題発見 面接授業	器械運動についてまとめる	60
第２回 ／	マット運動（回転系）（1） ①　前転・開脚前転・伸膝前転	実技 課題発見 面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第３回 ／	マット運動（回転系）（2） ①　後転・開脚後転・伸膝後転	実技 課題発見 面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第４回 ／	マット運動（巧技系・回転系）（3） ①　片足平均立ち・片足正面水平立ち・倒立・倒立前転・とび前転・後転倒立・側方倒立回転	実技 課題発見 面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第５回 ／	マット運動（回転系）（4） ①　前方倒立回転跳び、側方倒立回転跳び	実技 課題発見 面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第６回 ／	マット運動（回転系）（5） ①　自由演技の構築	実技 課題発見 面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える 技術ポイントを整理し、実技テストに備える	60
第７回 ／	マット運動　演技構築・発表 ①　自由演技の発表・評価	実技 課題発見 面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第８回 ／	鉄棒運動（支持系、懸垂系）（1） ①　技の系統と予備的な運動（支持系の前方・後方支持回転技群、懸垂技群）	実技 課題発見 面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第９回 ／	鉄棒運動（支持系）（2） ①　支持系の前方・後方支持回転技群 ②　自由演技の構築	実技 課題発見 面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える 技術ポイントを整理し、実技テストに備える	60
第10回 ／	鉄棒運動　演技構築・発表（3） 自由演技の発表・評価	実技 課題発見 面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第11回 ／	跳び箱運動（切り返し系）（1） ①　技の系統と予備的な運動（うさぎ跳び、跳び乗り・跳び下り、横跳び越し等）、開脚跳び・かかえ込み跳び・屈身跳び・開脚伸身跳び	実技 課題発見 面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第12回 ／	跳び箱運動（回転系）（2） ①　台上前転・首はね跳び・頭はね跳び	実技 課題発見 面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第13回 ／	跳び箱運動（回転系）（3） ①　前方屈腕倒立回転跳び・側方倒立回転跳び・前方倒立回転跳び	実技 課題発見 面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える 技術ポイントを整理し、実技テストに備える	60
第14回 ／	跳び箱運動　演技構築・発表 ①　切り返し系の技の発表・評価 ②　回転系の技の発表・評価	実技 課題発見 面接授業	器械運動の必要性をまとめる	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SST21F070S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野	スポーツ実践実習Ｃ（陸上競技） Sports Practice Training C (Track and Field)	１単位	選択必修	実　技	１年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	スポーツの特性やルールを正しく理解する中で、自らが毎時間、内容に合った目標を設定し、自らの力で個人技能の習熟を通して高い水準の技能を身につける。さらに、スポーツに楽しく参加できるよう段階に練習する能力を養い、また、まわりの人とも協力し、的確なアドバイスを送りながら共にスキルやメンタルの向上を目指す能力や態度を養う。 併せて、心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資する指導法を体得し、目標達成のために、常に準備を怠らず創意工夫し、スポーツで培った内容を日常生活においても実践できることをねらいとしている。
キーワード	スポーツ実践 陸上競技 安全・管理
学修教育目標	陸上競技の特性やルールを正しく理解することができる。 各自で内容に合った目標を設定し、それぞれの種目の高い水準の技能を身につけることができる。 安全な行動や規律ある集団行動の体得、体力の向上などに資する指導法を体得することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

陸上競技の実践について学修する。具体的には自ら思考し、積極的な実践を行ない、陸上競技の各種目を計測する。そして計測結果を客観的に理解する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツコーチング法（陸上競技）の理解につながる。
スポーツを行うときの心構えや安全に対する注意が理解されていること。
高等学校の体育実技で学習するレベルの陸上競技スキルが必要。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	陸上競技の知識について理解できる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	陸上競技について理解し実践的に行うことができる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	グループワークを実施することでコミュニケーションスキルを身につけることができる。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	常識・節度ある言動をすることができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	陸上競技のスキルを習得し実践指導につなげることができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自分がやるべきことは何かを見極め自発的に取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、目標達成に向けた働きかけをすることができる。	○
	③　実行力	自分に必要な目的を理解して設定し、チャレンジ精神で行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	課題を明らかにするために他者の意見を積極的に求めている。	◎
	②　計画力	進捗状況や不測の事態に合わせて柔軟に計画を修正できる。	○
	③　創造力	課題解決に向けて、新たな方法や解決策を考え出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	他者との話し合いの場面において、自分の意見を的確に伝えることができる。	○
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力	安全に実践できるための環境をつくることができる。	○
	⑤　規律性	常識・節度ある言動をすることができる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		59		10	21			10	100
評価の指標	知識に関する評価	40		5				10	55
	技能に関する評価	10			11				21
	応用力に関する評価				5				5
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				5				5
	関心・意欲に関する評価	9		5					14

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
陸上競技の基礎技術や戦術を充分習得し活用できる。 陸上競技の知識について充分理解し説明できる。 陸上競技の運営に必要な基本的事項について理解し学修活動で実践できる。	陸上競技の基礎技術や戦術を習得している。 陸上競技の知識についてほぼ理解している。 陸上競技の運営に必要な基本的事項について理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ・授業の進め方説明　・受講に際しての留意点 知識、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40
第２回 ／	短距離走（1） ①ウォーミングアップ、快調走の方法（毎時行う） ②タイムトライアル（スタンディングスタート）（記録会の実施） ③クーリングダウン（毎時行う） 知識、技能、応用力、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40
第３回 ／	短距離走（2） ①走フォーム作り ②変形ダッシュ ③クラウチングスタート技術練習 知識、技能、応用力、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40
第４回 ／	短距離走（3） ①走フォームの基本動作 ②変形ダッシュ ③タイムトライアル（クラウチングスタート）（記録会の実施） 知識、技能、応用力、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40
第５回 ／	ハードル走（1） ①ハードルを用いた柔軟体操 ②ハードル基本動作（その場、歩行、ジョギング） 知識、技能、応用力、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40
第６回 ／	ハードル走（2） ①柔軟体操、基本動作 ②３～５台実践 知識、技能、応用力、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40
第７回 ／	ハードル走（3） ①柔軟体操、基本動作 ②スタートからの１台目、２～３台目実践 知識、技能、応用力、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40
第８回 ／	ハードル走（4） ①計測方法の説明 ②ハードル走のタイムトライアル（記録会の実施） 知識、技能、応用力、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40
第９回 ／	走幅跳（1） ①計測方法の説明 ②ハードル走のタイムトライアル（記録会の実施） 知識、技能、応用力、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40
第10回 ／	走幅跳（2） ①走フォーム、跳躍種目の基本動作 ②助走練習 ③助走～踏み切り練習 知識、技能、応用力、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40
第11回 ／	走幅跳（3） ①走フォームの基本動作 ②計測方法の説明 ③走幅跳の計測（記録会の実施） 知識、技能、応用力、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40
第12回 ／	投擲（1） ①投擲種目に関する諸注意 ②投げる際の保持の仕方 ③各種投げ 知識、技能、応用力、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40
第13回 ／	投擲（2） ①計測方法の説明 ②投擲実践（記録会の実施） 知識、技能、応用力、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40
第14回 ／	長距離走（1） ①　インターバルトレーニング実践 ②　心拍数変化を測定 知識、技能、応用力、関心・意欲	面接授業	実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。	40

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SST22F071S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野	スポーツ実践実習Ｄ（バスケットボール） Sports Practice Training　D (Basketball)	１単位	選択必修	実　技	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	相手との攻防の中でボールを運び、ゴールにシュートして得点を争うゴール型のゲームの特性を理解させ、個人技能としてパス、ドリブル、シュートを身につけ、集団技能としてファーストブレイク、セットオフェンス、マンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンスでの役割を理解し、それらの技能をゲームで生かせる能力を身につける。 バスケットボール特有のマナーや競技規則を守り、公正・協力・責任などの社会的な態度や安全に運動をする態度について理解し、ゴール型スポーツの特性について判断できるようになる。
キーワード	ゴール型スポーツ ファンダメンタル オフェンス ディフェンス
学修教育目標	バスケットボールの特性や競技規則を正しく理解することができる。 各自で内容に合った目標を設定し，それぞれの種目の高い水準の技能を身につけることができる。 安全な行動や規律ある集団行動の体得，体力の向上などに資する指導法を体得することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

バスケットボールのオフェンスについて学修する。チームプレーをスムーズに行うために、ファンダメンタルを理解し実践する。
１ｏｎ１でディフェンスを抜くプレーについて（ドリブルチェンジ・シュートの種類）
２ｏｎ２でディフェンスを抜くプレーについて（スクリーンプレー・ギブアンドゴープレー）
３ｏｎ３でディフェンスを抜くプレーについて（アウェースクリーンプレー・ＵＣＬＡカットプレー）
５ｏｎ５のゲーム
バスケットボールのディフェンスについて、マンツーマン、ゾーンの各ディフェンスを理解し実践する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツ指導法Ｄ（バスケットボール）の理解につながる。
スポーツを行うときの心構えや、安全に対する注意が理解されていること。
高等学校の体育実技で学習するレベルのバスケットボールスキルが必要。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：バスケットボール指導教本 著者名：日本バスケットボール協会編 出版社：大修館書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	バスケットボールの知識について理解できる。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	バスケットボールのファンダメンタルを習得し、対人プレーにおいて活用することができる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	自ら積極的に仲間とコミュニケーションをとりながら学修ができる。	△
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	時間や指示を厳守し、積極的に各自のバスケットボール技術の向上に取り組むことができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	ゲームに必要な基本的事項について理解し、説明できるとともに学修活動で実践できる。バスケットボールの基礎技術や戦術を習得し、ゲームでの活用に取り組むことができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自分がやるべきことは何かを判断して、主体性を持って取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力		
	③　実行力	目標達成に向かって粘り強く取り組むことができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。	○
	②　計画力		
	③　創造力	複数のもの（もの、考え方、技術等）を組み合わせて、新しいものを作り出すことができる。	△
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。	△
	③　柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。	○
	④　情況把握力	自分のできること・他人ができることを的確に判断して、行動することができる。	○
	⑤　規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束事・マナーを理解している。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスの原因を見つけて、自分で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる。	△
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		30			65			5	100
評価の指標	知識に関する評価	20							20
	技能に関する評価	10			35				45
	応用力に関する評価				10				10
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				5				5
	関心・意欲に関する評価				15			5	20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
バスケットボールの基礎技術や戦術を充分習得し、活用できる。 バスケットボールの知識について充分理解し、説明できる。 バスケットボールのゲーム運営に必要な基本的事項について充分理解し、学修活動で実践できる。	バスケットボールの基礎技術や戦術を習得している。 バスケットボールの知識についてほぼ理解している。 バスケットボールのゲーム運営に必要な基本的事項について理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ①授業の進め方　・内容について説明、受講に際しての留意点 知識、関心・意欲	講義と質疑　面接授業	バスケットボールにおける種目の特性、授業運営方法、修得する技能について理解する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 社会人基礎力事前自己評価シートを記入する。	40
第２回 ／	ボールハンドリング・パス・ドリブル ①各種ボールハンドリング ②各種対人パス ③２メンパス ④トライアングルパス ⑤スクエアパス ⑥その場でのドリブル（前後・左右） ⑦各種ドリブルドリル 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第３回 ／	フットワーク、ターン、ピボットフット、リバウンド ①ストップ（ストライド・ジャンプ） ②ターン（フロントターン・バックターン） ③ボール移動ピボット ④各種リバウンド 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第４回 ／	シュート（1） ①レイアップシュート ②ドリブルシュート、 ③レイバックシュート ④リーチバックシュート ⑤フックシュート、 ⑥ギャロップ・ステップ・シュート 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第５回 ／	シュート（2） ①ワンハンド・セットシュート ②ボースハンドショット ③ジャンプシュート ④各ポジションからのジャンプシュート 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第６回 ／	ファーストブレイク（1） ①２人でのファーストブレイク ②３人でのファーストブレレク ③２対１の詰め（ハーフコート） ④３対２の詰め（ハーフコート） 知識、技能、応用力、チームワーク力・関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第７回 ／	ファーストブレイク（2） ①２対１の詰め（オールコート） ②３対２の詰め（オールコート） ③４対３の詰め（オールコート） 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第８回 ／	１対１の攻坊・２対２の攻防 ①各種カッティグにおけるボールのもらい方 ②パス・アンド・ラン ③ドリブルスクリーン 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第９回 ／	２対２の攻防・３対３の攻防 ①インサイドスクリーン ②アウトサイドスクリーン ③トライアングルプレー 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第10回 ／	マンツーマンディフェンス ①各ポジションのディフェンス ②ヘリプ・アンド・リカバリー ③ヘルプ・アンド・ローテーション ④スクリーンに対するディフェンス 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第11回 ／	ゾーンディフェンス ①ゾーンディフェンスの基本的な動き方・基本的な守り方 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第12回 ／	リーグ戦形式によるゲーム（1） ①チーム編成を行いリーグ戦にてゲームを行う。 （１試合２ピリオド制で実施） 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 13 回 ／	リーグ戦形式によるゲーム (2) ①チーム編成を行いリーグ戦にてゲームを行う。 （１試合２ピリオド制で実施） 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	30
第 14 回 ／	個人技能評価 ①ドリブルシュートによる評価 ②ジャンプシュートにより評価 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	これまで、修得した技術について復習する。 社会人基礎力事後自己評価シートを記入する。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SST22F072S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野	スポーツ実践実習Ｅ（サッカー） Sports Practice Training E (Soccer)	１単位	選択必修	実　技	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	教育職員免許法施行規則で定められた「教科に関する科目」の「体育実技」に対応する教職課程の選択科目である。 生涯スポーツの基本となる基礎体力や運動能力の向上とともに、サッカーの技術、戦術の基本の習得・理解し、競技者としての能力を向上させるだけでなく、将来的に指導者としてデモンストレーションができる力を身につけることを目的とする。
キーワード	サッカー
学修教育目標	サッカーの基本技術、基本戦術を習得・理解し、ゲームの中で発揮することができる。また、ゲームの中で失敗した場合にも、その原因を理解し、改善することができる。 積極的に参加し、相互に協力する良好な人間関係のもとで活動することによってゲームの楽しさを味わえることを認識することができる。 サッカーのルールやマナーについても理解し、実践することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

清滝キャンパスを使用して、実技授業を中心に実施します（雨天時は、美原キャンパスにて実施）。
本実習は、受講生がただ運動を楽しむためだけのものではなく、指導者の視点に立ち、指導者としてのスキルを向上させる科目です。その違いを意識して受講して下さい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツコーチング法（ゴール型スポーツ）

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：理論と実践で学ぶサッカーコーチング 著者名：中山　雅雄 編著 出版社：大修館書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	サッカーの競技ルール、基本技術、基本戦術について理解している。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	サッカーの基本的な技能を身につけている。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	仲間と協力する場面において、自己の役割や責任を理解して行動することができる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	フェアプレイを意識し、健康・安全に留意して行動することができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	自分の課題解決のために積極的に取り組むことができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、目標達成に向けた働きかけをすることができる。	○
	③　実行力	自分に必要な目的を理解して設定し、チャレンジ精神で行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、適切な課題を発見することができる。	○
	②　計画力	課題解決に向けて、計画を立てて準備することができる。	○
	③　創造力	課題解決に向けて、新たな方法や解決策を考え出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	他者との話し合いの場面において、自分の意見を的確に伝えることができる。	○
	②　傾聴力	他者との話し合いの場面において、相手が話しやすい環境を作り相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③　柔軟性	自分のやり方に固執せず、相手の意見や立場の違いを理解して、対応することができる。	○
	④　情況把握力	チームとして活動する中で、自分の役割や全体に及ぼす影響を意識して行動することができる。	◎
	⑤　規律性	スポーツマンシップやフェアプレイを意識して、行動することができる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスに対し、自己成長を促す機会と捉え、適切な対処方法を理解して行動することができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	スポーツマンシップやフェアプレイを意識して、周囲の人々に対し道徳的に行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合				30	50			20	100
評価の指標	知識に関する評価			15				5	20
	技能に関する評価				40				40
	応用力に関する評価			5	10				15
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価			5				10	15
	関心・意欲に関する評価			5				5	10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
サッカーの基本技術、戦術について理解するとともに、試合の中で効果的に発揮することができる。また指導の際にデモンストレーションができる。	サッカーの基本技術、戦術について理解するとともに、試合の中で発揮することができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション コメントシート	講義 面接授業	復習：講義の内容について復習し、理解しておく。 予習：スキルテストの内容について理解しておく。	30
第２回 ／	診断的評価の実施 ①ボールリフティング　　②スキルテスト ④　スモールサイドゲーム スキルテスト、実技	実技 面接授業	復習：授業中に実施した診断的評価においてみられた、自身の課題について整理しておく。	30
第３回 ／	シュート（ゴールを奪う） 実技（技能、関心・意欲）	実技 面接授業	復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。	30
第４回 ／	ドリブル（ボールを運ぶ） 実技（技能、関心・意欲）	実技 面接授業	復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。	30
第５回 ／	フェイント（突破する、相手をかわす） 実技（技能、関心・意欲）	実技 面接授業	復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。	30
第６回 ／	パス（ボールをつなぐ）＆コントロール（ボールを止める）(1) ・基礎実技 実技（技能、関心・意欲）	実技 面接授業	復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。	30
第７回 ／	パス（ボールをつなぐ）＆コントロール（ボールを止める）(2) ・応用実技 実技（技能、応用力、関心・意欲）	実技 面接授業	復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。	30
第８回 ／	タックル と チャージング（相手のボールを奪う） 実技（技能、関心・意欲）	実技 面接授業	復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する	30
第９回 ／	数的優位な中での攻撃 ①壁パス ②オーバーラップ ③クロスオーバー　　など 実技（技能、応用力、関心・意欲、チームワーク力）	実技 面接授業	復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。	30
第10回 ／	ボールポゼッション ・サポートの位置　（距離と角度） 実技（技能、応用力、関心・意欲、チームワーク力）	実技 面接授業	復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。	30
第11回 ／	守備の戦術 ①ボールを持たないときのポジショニング ②チャレンジ＆カバー 実技（技能、応用力、関心・意欲、チームワーク力）	実技 面接授業	復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。	30
第12回 ／	固定グループでのリーグ戦（ハーフコート）（１）（基礎） 実技（技能、応用力、関心・意欲、チームワーク力）	実技 面接授業	復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。	30
第13回 ／	固定グループでのリーグ戦（ハーフコート）（２）（実践） 実技（技能、応用力、関心・意欲、チームワーク力）	実技 面接授業	復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。	30
第14回 ／	総括的評価の実施 ①ボールリフティング　　②スキルテスト 実技（技能、関心・意欲）	実技 面接授業	復習：自身の技能について成長した点や課題を整理する。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SST22S073S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野	スポーツ実践実習Ｆ（バレーボール） Sports Practice Training F (Volleyball)	１単位	選択必修	実　技	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	バレーボールは場合によっては、競技参加者を２名～９名と状況に応じて選択することもできる競技である。基本技能とチームづくりに必要な技能を体験することにより、指導場面で必要な技術構成、段階的な技能習得法、審判技術を習得について理解し、ネット型スポーツの特性について判断できるようになる。
キーワード	バレーボール
学修教育目標	バレーボール指導場面において実際に技術の手本をみせることができる。 バレーボールを集団で楽しめる場づくりができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

【授業科目の概要】授業の形式は実技となります。本実習は、バレーボールに関する知識と基礎技術及び、基本戦術について学習するとともに、グループ別対抗戦形式でのゲーム体験を通じて指導方法を学びます。

【学修上の助言】
集団活動が多いため、良い実習ができるよう協力が必要となります。

【その他連絡事項】
・授業にふさわしい服装で受講すること。
・屋内専用シューズを持参のこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

【他の科目との関連】
・「スポーツ指導法Ｆ（バレーボール）」

【履修に必要な予備知識や技能】
・中学校保健体育実技で学習するレベルのバレーボールスキルが必要（オーバーハンドパス、アンダーハンドパスができることが望ましい）。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：最新バレーボールコーチ教本 著者名：日本バレーボール協会編 出版社：大修館書店 書　名：バレーボール競技規則（ルールブック） 著者名：日本バレーボール協会 出版社：

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	バレーボールの競技規則、基本技術、基本戦術について理解している。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	バレーボールの基本的な技能を身につけている。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	仲間と協力する場面において、自己の役割や責任を理解して行動することができる。	△
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	フェアプレイを意識し、健康・安全に留意して行動することができる。	△
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	自分の課題解決のために積極的に取り組むことができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップ、フォロワーシップを発揮し、目標達成に向けた働きかけをすることができる。	○
	③　実行力	目的意識をもって、チャレンジ精神で行動することができる。	△
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	できること、できないことを明確にして課題に取り組むことができる。	○
	②　計画力	課題解決に向けて、計画を立てて準備することができる。	△
	③　創造力	課題解決に向けて、新たな方法や解決策を考えだすことができる。	△
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	他者との話し合いの場面において、自分の意見を的確に伝えることができる。	○
	②　傾聴力	他者との話し合いの場面において、相手が話しやすい環境を作り相手の意見を引き出すことができる。	△
	③　柔軟性	自分のやり方に固執せず、相手の意見や立場の違いを理解して、対応することができる。	△
	④　情況把握力	チームとして活動する中で、自分の役割や全体に及ぼす影響を意識して行動することができる。	○
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合			20		55			25	100
評価の指標	知識に関する評価		20						20
	技能に関する評価				40				40
	応用力に関する評価				15				15
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価							15	15
	関心・意欲に関する評価							10	10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
バレーボールの基本技術、戦術について理解するとともに、試合の中で効果的に発揮することができる。また指導の際にデモンストレーションができる	バレーボールの基本技術、戦術について理解するとともに、試合の中で発揮することができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ①授業の進め方・内容・受講に際しての留意点について説明	講義と質疑(面接授業)	バレーボールにおける種目の特性、授業運営方法、修得する技能について理解する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第 2 回 ／	ルールの理解・審判法の理解と実践 ①簡易ゲーム	実技(面接授業)	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第 3 回 ／	ボールコントロール技術（1） ①パス	実技(面接授業)	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第 4 回 ／	ボールコントロール技術（2） ①サーブ	実技(面接授業)	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第 5 回 ／	ボールコントロール技術（3） ①アタック	実技(面接授業)	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第 6 回 ／	ブロックの方法	実技(面接授業)	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第 7 回 ／	オフェンス・ディフェンスフォーメーション	実技(面接授業)	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第 8 回 ／	コンポーネントドリル（1） ①ディフェンスの連携技術	実技(面接授業)	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第 9 回 ／	コンポーネントドリル（2） ①オフェンスの連携技術	実技(面接授業)	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第 10 回 ／	リーグ戦形式のゲームとその運営（1） ①チーム編成を行いリーグ戦にてゲームを行う。 （チームビルディング）	実技(面接授業)	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第 11 回 ／	リーグ戦形式のゲームとその運営（2） ①チーム編成を行いリーグ戦にてゲームを行う。 （チームビルディング）	実技(面接授業)	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第 12 回 ／	リーグ戦形式のゲームとその運営（3） ①チーム編成を行いリーグ戦にてゲームを行う。 （チームビルディング）	実技(面接授業)	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第 13 回	ボールコントロール技術の評価	実技(面接授業)	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	30
第 14 回	連携技術の評価	実技(面接授業)	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SST22F074S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野	スポーツ実践実習Ｇ（野球・ソフトボール） Sport Practice Training G (Baseball･Softball)	１単位	選択必修	実　技	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	教育職員免許法施行規則で定められた「教科に関する科目」の「体育実技」に対応する教職課程の選択科目である。 本授業においては，ベースボール型球技の特性やルールを正しく理解する中で、自らが毎時間、内容に合った目標を設定・実践し、自らの力でレベルに応じたスキルやメンタルの向上を目指すと共に、まわりの人にも的確なアドバイスを送りながら協力的にスキルやメンタルの向上を目指す事を目的とする。
キーワード	ルールと技能 自己評価 他者評価
学修教育目標	個人やチームの技能に応じて戦術，作戦を重視した攻防を習得することができる。 集団スポーツを通して協調性を養うことができる。 「投げる」「捕る」「打つ」「走る」といった基本の運動を組み合わせて行う競技なので，運動能力を総合的に高めることができる。 自らが毎時間、内容に合った目標を設定・実践し、自らの力でレベルに応じたスキルやメンタルの向上を目指すと共に、まわりの人にも的確なアドバイスを送りながら協力的にスキルやメンタルの向上を目指す能力や態度を養うことができる。 合わせて、目標達成のために、常に準備を怠らず創意工夫し、スポーツで培った特性を日常生活で実践していくことができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

実践を通して、その種目に特有の技能の必要性を理解し実践する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツ指導法Ｇ（野球・ソフトボール）、ベースボール型スポーツの用語

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	専門用語を理解できる。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	効率の良い身体動作から特有の技能を身に着けることができる。	△
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	グループワークからチームプレーを身に着けることができる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	ルールや約束を守り、授業に参加することができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	ルールを把握し技能を実践で活かすことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	リーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。	◎
	③　実行力	自分に必要な目的を理解し具体的に設定し、チャレンジ精神で行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。	◎
	②　計画力	課題解決のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てることができる。	◎
	③　創造力	課題の解決において様々な知識や考え方、技術等を組み合わせて新たな方法を考え出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	◎
	②　傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③　柔軟性	他人の意見、アドバイスを受け入れ、自己向上にいかせる。	○
	④　情況把握力	全体に及ぼす影響を意識して、考えながら行動することができる。	◎
	⑤　規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	自分の持てる能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合				30	50			20	100
評価の指標	知識に関する評価			5					5
	技能に関する評価			10	50				60
	応用力に関する評価			5					5
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価			10					10
	関心・意欲に関する評価							20	20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
身に着けた技能を実践で活かすことができる。	ベースボール型スポーツに必要な技能を身に着ける。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ①授業を受ける姿勢について ②単位を修得するとは ③授業の進め方，評価について， ④受講時の諸注意事項，整列・体操，野球の特性 コメントシートへの記載	・面接授業 ・講義形式 ・授業の進め方、評価について説明する ・野球の特性について説明する ・コメントシート	・ベースボール型スポーツの特性を学修しておく	15
第２回 ／	基本技能（1） ①ボールを投げる　捕る レポート提出	・面接授業 ・ペアワーク ・投げる、捕るの基本技能の説明 ・課題発見	・投げる、捕る技能を学修し練習しておく ・ペアワークにおける自己評価他者評価レポート作成	30 30
第３回 ／	基本技能（2） ①ボールを投げる　捕る レポート提出	・面接授業 ・ペアワーク ・投げる、捕るの基本技能の復習 ・１回目の課題解決 ・技能テスト	・投げる、捕る技能の学修と練習 ・ペアワークにおける自己評価他者評価レポート作成	30 30
第４回 ／	基本技能（3） ①投手・捕手の技能 レポート提出	・面接授業 ・ペアワーク ・投手の投球動作の説明 ・捕手の動作の説明 ・課題発見解決 ・技能テスト	・投手、捕手の動作の学修と練習 ・ペアワークにおける自己評価他者評価レポート作成	30 30
第５回 ／	基本技能（4） ①内野手の技能 レポート提出	・面接授業 ・ペアワーク ・内野手の動作の説明 ・課題発見解決 ・技能テスト	・内野手の動作の学修と練習 ・ペアワークにおける自己評価他者評価レポート作成	30 30
第６回 ／	基本技能（5） ①外野手の技能 レポート提出	・面接授業 ・ペアワーク ・外野手の動作の説明 ・課題発見解決 ・技能テスト	・外野手の動作の学修と練習 ・ペアワークにおける自己評価他者評価レポート作成	30 30
第７回 ／	基本技能（6） ①打者の技能 レポート提出	・面接授業 ・ペアワーク ・打者の技能の説明 ・課題発見解決 ・技能テスト	・打者の技能の学修と練習 ・ペアワークにおける自己評価他者評価レポート作成	30 30
第８回 ／	基本技能（7） ①フリーバッティング ②シートノック レポート提出	・面接授業 ・グループワーク ・個人技能からチーム技術への移行 ・打撃守備の課題発見	・個人技能をチーム技術へ活かす為の学修と練習 ・グループワークにおける自己評価他者評価レポート作成	30 30
第９回 ／	基本技能（8） ①シートバッティング ②シートノック レポート提出	・面接授業 ・グループワーク ・個人技能からチーム技術への移行 ・打撃守備の課題解決	・個人技能をチーム技術へ活かす為の学修と練習 ・グループワークにおける自己評価他者評価レポート作成	30 30
第10回 ／	ゲームの進め方とルール説明 簡易ゲーム	・面接授業 ・グループワーク ・簡易ゲームから課題発見	・学校体育ソフトボールを学修し把握しておく	60
第11回 ／	ゲーム（1） レポート提出	・面接授業 ・グループワーク ・ゲームから個人技能の課題発見解決 ・チーム技術の課題発見解決	・チームプレーの学修と練習 ・チーム技術の課題発見解決のレポート作成	30 30
第12回 ／	ゲーム（2） レポート提出	・面接授業 ・グループワーク ・ゲームから個人技能の課題発見解決 ・チーム技術の課題発見解決	・チームプレーの学修と練習 ・チーム技術の課題発見解決のレポート作成	30 30
第13回 ／	ゲーム（3） レポート提出	・面接授業 ・グループワーク ・ゲームから個人技能の課題発見解決 ・チームの課題発見解決	・チームプレーの学修と練習 ・チーム技術の課題発見解決のレポート作成	30 30
第14回 ／	ゲーム（4） レポート提出	・面接授業 ・グループワーク ・ゲームから個人技能の課題発見解決 ・チーム技術の課題発見解決	・チームプレーの学修と練習 ・チーム技術の課題発見解決のレポート作成	30 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SST22S075S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野	スポーツ実践実習Ｈ（テニス･バドミントン） Sport Practice Training H (Tennis･Badminton)	１単位	選択必修	実　技	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	テニス・バドミントン共にネットを挟んだ格闘技ともいわれる程、激しく運動量もあるラケット球技であるが、一方で生涯にわたって家族・仲間と手がるに楽しむことのできるものでもある。基礎技術をしっかりマスターし、攻撃と守りのバランス、ダブルスのコンビネーション、状況に合ったショットの選択等々技術向上を目指す。
キーワード	ネット型スポーツ・ラケットスポーツ・基礎技術向上
学修教育目標	ルール・マナー・パートナーシップを理解した上で基礎技術・技能を習得し、楽しくゲームを進めていく。 また、審判法も同時に理解する。

授業科目の概要及び学修上の助言

本実技科目では、自身の体力と基礎技術・技能を高めることに焦点を絞り、反復練習と自己及び他者との意見交換にて実践的に学びを深める。
授業にはふさわしい服装で参加すること。担当する教員が危険である、あるいは運動に相応しくないと判断した場合は、活動に参加できない場合がある。
屋内・屋外シューズの 2 種類を予め準備しておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

大まかなルールについては事前に調べて理解しておくこと。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	ルールの概要や技術的要点を説明できるようにする。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	基礎技術のデモンストレーションができる。	○
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	他者との意見交換を毎回の授業で積極的に行う。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	スポーツマンシップについて再考し、自ら実践できるようにする。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	実技指導において段階的で戦略的な指導を意識する。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	準備や片付けから他人任せではなく積極的に！	○
	②　働きかけ力	仲間を巻き込んでグループワークを行う。	◎
	③　実行力	実技科目のため反復練習による経験値を増やす。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	なぜ上手く運動ができない理由を考える。	○
	②　計画力	どのような段階的指導がより上達するかを考える。	○
	③　創造力	面白味のある練習を創造する。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	特にダブルスにおいて意見交換を行う。	△
	②　傾聴力	仲間の意見をまずは受け入れること。	◎
	③　柔軟性	一つの戦術が上手くいかなくとも、別の策を考える。	△
	④　情況把握力	試合の前半、後半、得点パターンなど現状を把握し、戦術を再考する。	○
	⑤　規律性	仲間や相手のためにルールやマナーに気を配る。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	劣勢においても自己や他者と会話しコントロールしようとすること。	△
4. 倫理観	①　倫理性	スポーツマンシップについて再考し、まずは意識的に演じる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50			50				100
評価の指標	知識に関する評価	40							40
	技能に関する評価				30				30
	応用力に関する評価	10			10				20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				10				10
	関心･意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
ルール・マナー・パートナーシップを理解した上で基礎技術・技能を充分に習得している。 また、審判法も充分に理解している。 （授業内容に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。）	ルール・マナー・パートナーシップを理解した上で基礎技術・技能を習得している。 また、審判法も理解している。 （授業内容に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断できる。）

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	テニス（1） ①基本動作の概要（グリップ・フォーム・待球姿勢） ②ボレーの基本（フォアハンド・バックハンド） ③ストロークの基本（フォアハンド・バックハンド）	講義・実技 面接授業	授業で提示する、ボレーやグランドストローク時の基本技能の名称、動作実行時の注意点を復習し、理解を深める。	10
第２回 ／	テニス（2） ①ボレー&ストローク（フォアハンド・バックハンド） ②ストロークラリー（フォアハンド・バックハンド） ③ミニゲーム	実技 面接授業	ラリー練習とミニゲームにおける自身のプレーの変化から、課題を明らかにする。	20
第３回 ／	テニス（3） ①スマッシュの基本、ネットプレーの基本 ②ダブルスの基本陣形（雁行陣、並行陣） ③ミニゲーム	実技 面接授業	予習として、各自インターネットなどを用いダブルスの試合を観戦する。	20
第４回 ／	テニス（4） ①サービスの基本 ②サービスからのラリー ③ダブルスゲーム	実技 面接授業	サーブ&ボレーに関する基礎技能とそれを活用した戦術に対する理解を深める。	20
第５回 ／	テニス（5） ①ダブルスゲーム実践Ⅰ	実技 面接授業	自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。	20
第６回 ／	テニス（6） ①ダブルスゲームⅡ	実技 面接授業	自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。	20
第７回 ／	テニス（7） ①ダブルスゲームⅢ	実技 面接授業	自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。	30
第８回 ／	バドミントン（1） ①基本動作の概要（グリップ・フォーム・待球姿勢） ②ストローク（オーバー・アンダー・サイド） ③ショット（スマッシュ・ドロップ・カット・プッシュ・ヘアピン・ドライブ・ロブ・ハイクリア）	実技 面接授業	授業で提示する、基本技能の名称、動作実行時の注意点を復習し、理解を深める。	10
第９回 ／	バドミントン（2） ①基本技術の習得 ②ミニゲーム（シングルス）	実技 面接授業	ラリー練習とミニゲームにおける自身のプレーの変化から、課題を明らかにする。	10
第10回 ／	バドミントン（3） ①ゲームの進め方 ②シングルスゲームⅠ	実技 面接授業	自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。	20
第11回 ／	バドミントン（4） ①シングルスゲームⅡ	実技 面接授業	自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。	20
第12回 ／	バドミントン（5） ①ダブルスゲームの進め方 ②ダブルスゲームⅠ	実技 面接授業	予習として、各自インターネットなどを用い、シングルスの試合を観戦する。	20
第13回 ／	バドミントン（6） ①ダブルスゲームⅡ	実技 面接授業	自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。	20
第14回 ／	バドミントン（7） ②ダブルスゲームⅢ	実技 面接授業	自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。	20

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SST22F076S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野	スポーツ実践実習I（エアロビクス） Sport Practice Training I (Aerobics)	１単位	選択必修	実　技	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	健康・体力づくりを目的としたエアロビクス運動（エアロビクスダンス）について、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解する。また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を習得した上で、目的に応じたプログラムの作成と実践について理解し、指導方法を的確に判断できるようになる。
キーワード	エアロビクスダンス
学修教育目標	エアロビクスダンスにおける基礎的な知識を理解した上で、正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力について説明できる。また対象者や目的に応じたプログラムの構成や指導法をグループワークにより身につけることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

日常生活からは必要な運動の強度も量も得られなくなっている。年齢に応じた身体的訓練プログラムを処方する方法論を習得することを通して、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資する指導法を体得する。
受講の態度として、将来における指導者としての意識を高め受講すること。実技において発汗作用が激しい為、着替えの準備とタオルの準備を行うこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

安定、安全をはかり、スポーツ障害防止のため、十分なウォーミングアップとして、ストレッチ等を取り入れる。
発汗作用が激しいため、水分補給などにも注意を払い、必要に応じて補う。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	エアロビクスダンスにおける基礎的意識を理解する。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	エアロビクスダンスにおける基礎的な意識を理解する。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力について説明できる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	対象者や目的に応じたプログラムの作成や構成ができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	プログラムの構成や指導法をグループワークにより身につけることができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養	◎
	②　働きかけ力		
	③　実行力	運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養	△
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	基礎論としてエアロビック（有酸素性）運動とアネロビック（無酸素性）運動を理解させる。	◎
	②　計画力	基礎論としてエアロビック（有酸素性）運動とアネロビック（無酸素性）運動を理解させる。	○
	③　創造力	基礎論としてエアロビック（有酸素性）運動とアネロビック（無酸素性）運動を理解させる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	年齢に応じたプログラムの作成	◎
	②　傾聴力	年齢に応じたプログラムの作成	△
	③　柔軟性	体の水準を確保する為に必要な運動量と評価	○
	④　情況把握力	体の水準を確保する為に必要な運動量と評価	◎
	⑤　規律性	尺度に従ったプログラムについても作成できるよう指導法を行う。	△
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		45	15	10	30				100
評価の指標	知識に関する評価	9	3	2	6				20
	技能に関する評価	9	3	2	6				20
	応用力に関する評価	9	3	2	6				20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価	9	3	2	6				20
	関心・意欲に関する評価	9	3	2	6				20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
個人発表、グループ発表において課題曲を 80%完成する。	個人発表、グループ発表において課題曲を 60%完成する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	エアロビクスエクササイズについて ①授業の進め方・内容について説明 ②受講に際しての留意点 （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 受講の際、遅刻のないように留意する。 面接授業		
第２回 ／	エアロビクスワーク　エアロビクスプログラムについて ①構成のポイント ②安全性の配慮 ③正しい動き方(正しい姿勢と明確な動作) （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第３回 ／	ウォーミングアップ　ストレッチ ①プログラムの構成 ②強度の考え方 （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第４回 ／	筋コンディショニング ①プログラムの構成 ②強度の考え方 （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第５回 ／	クールダウン ①プログラムの構成 ②ストレッチング （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第６回 ／	エアロビクスパートの組み立て（1） ①肩と背中のエクササイズ （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第７回 ／	エアロビクスパートの組み立て（2） ①腕、肩の上下運動　・肩の回施運動　・腕立て、懸垂 （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第８回 ／	エアロビクスパートの組み立て（3） ①腹部と背部のエクササイズ　・おなかを背骨の方に引く （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第９回 ／	エアロビクスパートの組み立て（4） ①下肢のエクササイズ （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第10回 ／	ステップコンビネーション　コレオグラフィー （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第11回 ／	エアロビクスダンス　サーキット(1) ①老若男女における各世代のプログラムの実際 （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第12回 ／	エアロビクスダンス　サーキット(2) ①各世代における目的別プログラムの実際 （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第13回 ／	グループ作品の取り組み（1） ①作成 （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第14回 ／	映像ツールによる作品及び指導の評価実技の総括 （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SST22F076S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野	スポーツ実践実習Ｊ（剣道） Sports Practice Training J (Kendo)	１単位	選択必修	実　技	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	剣道の実践を通して、心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資する指導法を体得する。また、人間関係の基本である、ラポールとコミュニケーションなどを意図として、基礎技能の習得と共に実践能力を身につける。
キーワード	剣道 生涯スポーツ
学修教育目標	剣道に関する基礎知識および基本動作を修得することができる。 また、技術だけではなく、所作や、礼儀作法、他者に対する配慮等を体得することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

生涯スポーツの一つとして、剣道は息の長い種目であることを理解する。近代スポーツと大きく異なる各種所作を通して、武道の良さを体得し、理解を深める。中学校保健体育授業の必修科目であることから、初心者が興味関心を持って剣道に親しむ方法を学修する。
授業では、垂れネームを使用するので、必ず持参すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツ指導法Ｊ（剣道）」に関連する科目となる。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	専門用語を理解することができる。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	基本的な動作・所作を身につけることができる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	剣道は相手があってはじめて成り立つ競技である。相手を尊重し、互いに活かされていることを理解する。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	礼儀を重んじ、剣道理念を理解し適切に行動することができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	所作から基本動作修得まで必要な知識・技能を修得することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	リーダーシップを発揮して、目標達成の働きかけを行うことができる。	○
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	客観的に自分を観察し、課題や問題を解決することができる。	○
	②　計画力		
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見をわかりやすく伝えることができる。	○
	②　傾聴力	他人のアドバイスを素直に聞くことができる。	◎
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性	節度ある行動を取ることができる。ルールを遵守することができる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスの原因となる事象が発生した時に適切な対処をすることができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	自分の能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		20			65			15	100
評価の指標	知識に関する評価	20			5			5	30
	技能に関する評価				20				20
	応用力に関する評価				10			5	15
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				10				10
	関心・意欲に関する評価				20			5	25

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
積極的に取り組み、所作・専門知識・技術の修得が充分に見られる。 各項目の理解度が 80%以上である。	基本的な所作・専門知識・技術の修得が見られる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ① ガイダンス ② 剣道の歴史 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第 2 回 ／	礼法・竹刀と防具の扱い方 ① 礼法 ② 竹刀と防具の扱い方 コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第 3 回 ／	基本動作（1） ① いろいろな足さばき ② 竹刀の振り方 コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第 4 回 ／	基本動作（2） ① いろいろな素振り コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第 5 回 ／	基本動作（3） ① リズム剣道 コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第 6 回 ／	基本動作（4） ① 打ち返し（面、胴） ② 打ち返しの元立ち コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第 7 回 ／	基本動作（5） ① 基本打突（小手、面、胴） ② 基本打突の元立ち コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第 8 回 ／	基本動作（6） ① 基本打突（二段・三段技） ② 打ち込み稽古 コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第 9 回 ／	基本動作（7） ① 基本打突（引き技） コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第 10 回 ／	基本動作（8） ① 切り返し コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第 11 回 ／	基本動作（9） ① 打ち込み コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第 12 回 ／	実技テスト ① リズム剣道 コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第 13 回 ／	基本試合（1） ① 個人戦 コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第 14 回 ／	基本試合（2） ① 団体戦 コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SST22S077S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野	スポーツ実践実習Ｋ（ダンス） Sports Practice Training K (Dance)	１単位	選択必修	実　技	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	教育職員免許法施行規則で定められた「教科に関する科目」の「体育実技」に対応する教職課程の選択科目である。 ダンスは人間の心と身体を使って自由に表現することである。イメージやリズムをとらえて一人一人の個性を生かした表現や作品を発表したり、仲間やパートナーと踊ったりすることを通して、ダンスの専門的な理解と高度な技能の習得を目指し、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることが的確に判断できるようになる。
キーワード	ダンス 表現
学修教育目標	ダンスの特性や名称や用語、表現の仕方、動きや構成の組み立て方について説明できる。 ダンスの楽しさや喜びを味わうとともに、個人やグループの能力を最大限に発揮し専門的な表現の仕方や踊り方を習得することができる。 専門的な知識及び目的に応じた技能、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力及び主体性を身につけることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

ダンスの特性や名称や用語、表現の仕方、動きや構成の組み立て方を身につける事ができる。ダンスの楽しさや喜びを味わうとともに、個人やグループの能力を最大に発揮し専門的な表現の仕方や踊り方を習得する事ができる。専門的な知識及び目的に応じた機能、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力及び主体性をはぐくむことができる。
安全対策として履修者はスポーツウエアに更衣し、運動シューズを着用して参加すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

毎授業開始時に呼称し、客観的に健康情報を把握。毎時のねらいと目標を説明する。全体の学習を通してダンスウォーミングアップの中でボディートレーニングを行う。個人で練習できる部分、2 人やグループで練習する部分など工夫して行い、各時間（創る）（踊る）（観る）という行為が行えるようにする。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	ダンスにおける基本的意識を理解する。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	ダンスにおける基本的意識を理解する。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力について説明できる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	効果的な動作の技術能力について説明ができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	プログラムの構成や指導法をグループにより身につけることができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養	△
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	ダンスの基本的な動き	◎
	② 計画力	ダンスの基本的な動き	○
	③ 創造力	ダンスの基本的な動き	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	年齢に応じたプログラムの作成	◎
	② 傾聴力	年齢に応じたプログラムの作成	△
	③ 柔軟性	体の水準を確保する為に必要な運動	○
	④ 情況把握力		
	⑤ 規律性	尺度に従ったプログラムについても作成できるよう指導法を行う。	△
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		45	15	10	30				100
評価の指標	知識に関する評価	9	3	2	6				20
	技能に関する評価	9	3	2	6				20
	応用力に関する評価	9	3	2	6				20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価	9	3	2	6				20
	関心・意欲に関する評価	9	3	2	6				20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
個人発表、グループ発表において課題曲を 80%完成する。	個人発表、グループ発表において課題曲を 60%完成する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ①授業の進め方・内容について説明 ②受講に際しての留意点 （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 受講の際、遅刻のないように留意する。 面接授業		
第２回 ／	リズムダンス（1） ①基本的な動き （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第３回 ／	リズムダンス（2） ①曲に合わせた動き作り （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第４回 ／	ファークダンス ①基礎知識　・ファーメーション　・ポジション ・ステップの種類 ②民族舞踏 （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第５回 ／	日本民謡 ①日本民謡の動き （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第６回 ／	創作ダンス（1） ①ダンスを理解する ②歩く、回る、止まる （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第７回 ／	創作ダンス（2） ①歩く、走る、跳ぶ ②歩く、倒れる、ころがる （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第８回 ／	創作ダンス（3） ①ひねる、回る、止まる ②伸縮、ころがる、止まる ③イメージを引き出す （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第９回 ／	創作ダンス（4） ①小作品づくりのオリエンテーション （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第10回 ／	創作ダンス（5） ①小作品づくり　・見せ合い （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第11回 ／	創作ダンス（6） ①課題による作品づくり　・サブテーマ設定　・グルーピング （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第12回 ／	創作ダンス（7） ①課題による作品づくり　・サブテーマの動きづくり （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第13回 ／	創作ダンス（8） ①課題による作品づくり　・踊り込み （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30
第14回 ／	創作ダンス（9） ①課題による作品づくり　・発表準備 （実技）（意欲点）等で総合的に評価する。	実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 面接授業	自主トレーニング・予習・復習	20～30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SST22S078S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野	スポーツ実践実習Ｌ（水泳） Sports practice training L (Swimming)	１単位	選択必修	実　技	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	健康維持を対象として、水泳・水中運動を有酸素運動として行うとともに、水泳の授業を実施するにあたり、プールマナーや救急処置の重要性を学び、水中運動の特性である浮力・水圧・抵抗・水温を理解し、水泳の基本泳法を身につけるとともに、運動を通して安全対策にも留意し、指導者としての役割や資質を身につけ、的確に判断できるようになる。
キーワード	水の特性 各種泳法 プールマナー 救急処置
学修教育目標	水中運動の特性である浮力・水圧・抵抗・水温を理解し、水泳の基本泳法を身につけると共に、運動を通して安全対策にも留意し、プールマナーや救急処置の重要性を学び説明することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

水中運動の特性である浮力・水圧・抵抗・水温について体験し、学修する。
水泳の基本泳法について理解し、実践する。
プールマナー、救急処置について学修する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツ指導法Ｌ（水泳）」の理解につながる。
スポーツを行うときの心構えや、安全に対する注意が理解されていること。
高等学校の体育実技で学習するレベルの泳力が必要。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	水泳の知識について理解できる。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	水泳の基本泳法を習得し、活用することができる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	自ら積極的に仲間とコミュニケーションをとりながら学修ができる。	△
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	時間や指示を厳守し、積極的に各自の各種泳法技術の向上に取り組むことができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	水泳に関する基本的事項をについて理解し、説明できるとともに学習活動で実践できる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	成功のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力		
	② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。	△
	③ 柔軟性		
	④ 情況把握力		
	⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束事・マナーを理解している。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの原因を見つけて、自分で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	△

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合				20	70			10	100
評価の指標	知識に関する評価			10				10	20
	技能に関する評価				40				40
	応用力に関する評価				15				15
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				15				15
	関心･意欲に関する評価			10					10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
水中運動の特性である浮力・水圧・抵抗・水温を充分理解している。 水泳の基本泳法の基礎技術を習得し、活用できる。 プールマナーや救急処置の重要性について充分理解している。	水中運動の特性である浮力・水圧・抵抗・水温を理解している。 水泳の基本泳法の基礎技術を習得している。 プールマナーや救急処置の重要性について理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	水泳について ①メディカルチェックの必要性、 ②水温の確認、 ③救急処置の重要性 ④水泳のエチケット（プールマナー） ⑤ウォーミングアップとクーリングダウン 知識、関心・意欲	講義と質疑　面接授業	水泳における種目の特性、授業運営方法、修得する技能について理解する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 社会人基礎力事前自己評価シートを記入する。	40
第２回 ／	水泳（1） ・　水中運動の特性（浮力・水圧・抵抗・水温）を理解する。 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第３回 ／	水泳（2） ①呼吸法 ②浮身（伏し浮き～立つ、背浮き～立つ） ③け伸び（ストリームラインの保持） 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第４回 ／	水泳（3）　ークロールー ①キック（プールサイドでの練習・ビート板での練習）に腕の動き（プールサイドでの練習・ビート板での練習） 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第５回 ／	水泳（4）　ークロールー ①呼吸法とターン練習 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	30
第６回 ／	水泳（5）　ークロールー ①長い距離を泳ぐ 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	30
第７回 ／	水泳（6）　ークロールー 50mタイム計測 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	30
第８回 ／	水泳（7）　ー平泳ぎー ①キック（陸上で動きの確認・プールサイドを持っての練習・ビート板を使っての練習） ②腕の動き（プールサイド・ビート板を使っての練習） 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第９回 ／	水泳（8）　ー平泳ぎー ①呼吸法とターン練習 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	30
第10回 ／	水泳（9）　ー平泳ぎー ①長い距離を泳ぐ 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	30
第11回 ／	水泳４（平泳ぎ④） ①50mタイム計測 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	30
第12回 ／	水泳（11）　ー背泳ぎ・バタフライ・横泳ぎー ①キック（プールサイド・ビート板を使っての練習） ②腕の動き（プールサイド・ビート板を使っての練習） ③呼吸法とターン練習 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第13回 ／	水中における運動 ①水の抵抗を利用したトレーニングの留意点と実施 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	30
第14回 ／	評価　ー泳力ー ・　４泳法の評価 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	実技　面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 これまで、修得した技術について復習する。 社会人基礎力事後自己評価シートを記入する。	40

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SST33F079S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野	スポーツ実践実習M（e スポーツ） Sports Practice Training M (e Sports)	１単位	選　択	実　技	３年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	マインドスポーツの一つともいわれる、e スポーツの技術、戦術を理解し競技者として能力を向上させる。 プレイヤーの行動をデジタル化してコンピューター上で競技するスポーツとして、真剣な姿勢で対戦を行なう能力を身につけることを目的とする。
キーワード	e スポーツ
学修教育目標	e スポーツに必要な技術、戦術を理解し、ゲームの際に発揮することができる。また、ゲームの際に失敗した場合に、その原因を理解し、改善することができる。 e スポーツのルールやマナーについても理解し、実践することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

e スポーツの歴史、種目の種類を知り、e スポーツへの参加、e スポーツの観戦方法について学修する。
e スポーツの基本動作について理解し、実践する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

なし

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	e スポーツの知識について理解できる。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	e スポーツの基本的な技能を身につける。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	自ら積極的に仲間とコミュニケーションをとりながら学修ができる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	時間や指示を厳守し、積極的に各自で e スポーツの技術向上に取り組むことができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	自分の課題解決のために積極的に取り組むことができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自分がやるべきことは何かを判断して、主体性を持って取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	目標達成に向けた働きかけをすることができる。	○
	③　実行力	目標達成に向かって粘り強く取り組むことができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　問題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。	○
	②　計画力	課題解決に向けて、新たな方法で解決策を考え出すことができる。	○
	③　創造力	複数のもの（もの、考え方、技術等）を組み合わせて、新しいものを作り出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	他者との話し合いの場面において、自分の意見を的確に伝えることができる。	○
	②　傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。	○
	③　柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。	○
	④　情況把握力	自分の役割や全体に及ぼす影響を意識して行動できる。	○
	⑤　規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束事・マナーを理解している。	○
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスの原因を見つけて、自分で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	フェアプレイを意識して、周囲の人に対し道徳的に行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭･実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合				30	50			20	100
評価の指標	知識に関する評価			15				5	20
	技能に関する評価				30			10	40
	応用力に関する評価			5	10				15
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価			5				5	10
	関心･意欲に関する評価			5	10				15

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
eスポーツの基礎技術、戦術について理解するとともにゲームの中で効果的に発揮することができる。 デモンストレーションができる技術を身につける。	eスポーツの基礎技術、戦術について理解するとともにゲームの中で発揮することができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ①授業の進め方・説明、受講に際しての留意点 コメントシート	講義・コメントシート 面接授業	e スポーツにおける種目の特性、修得する技能について理解する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。	40
第 2 回 ／	e スポーツとは ①e スポーツの歴史　②種目の種類 ③日本における e スポーツ・世界における e スポーツ 知識、技能、応用力、関心・意欲	講義 面接授業	配布されたワークシートを復習する.	40
第 3 回 ／	パズルシリーズ ①テトリス 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技 面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、技術の修得方法につい復習する。	40
第 4 回 ／	パズルシリーズ ①ぷよぷよ 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技 面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、技術の修得方法につい復習する。	40
第 5 回 ／	格闘シリーズ ①鉄拳 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技 面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、技術の修得方法につい復習する。	40
第 6 回 ／	格闘シリーズ ①ストリートファイター 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技 面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、技術の修得方法につい復習する。	40
第 7 回 ／	格闘シリーズ ①大乱闘スマッシュブラザーズ 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技 面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、技術の修得方法につい復習する。	40
第 8 回 ／	スポーツゲーム ①フォーミュラ・ワン 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技 面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、技術の修得方法につい復習する。	40
第 9 回 ／	スポーツゲーム ①グランツリスモ 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技 面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、技術の修得方法につい復習する。	40
第 10 回 ／	スポーツゲーム ①実況パワフルプロ野球 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技 面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、技術の修得方法につい復習する。	40
第 11 回 ／	スポーツゲーム ①NBA シリーズ 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技 面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、技術の修得方法につい復習する。	40
第 12 回 ／	スポーツゲーム ①FIFA シリーズ 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技 面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、技術の修得方法につい復習する。	40
第 13 回 ／	スポーツゲーム ①ウイニングイレブンシリーズ 知識、技能、応用力、関心・意欲	実技 面接授業	授業中に実施した技能について、名称の確認、技術の修得方法につい復習する。	40
第 14 回 ／	総合的評価の実施 ①スキルテスト 技能、関心・意欲	実技 面接授業	自分の技能について成長した点、課題を整理する。	40

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSC11F080S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング分野	スポーツコーチング概論 Sport Coaching Theory	２単位	必　修	講　義	１年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	コーチ指導（コーチング）のあり方について、競技力向上のための組織作りや指導方法、トレーニング方法など選手と指導者の関わり方など、それぞれの役割について理解できる。 さまざまなコーチングスタイルやコーチングシステムにも触れながら指導者として、また組織やチームを運営する立場から、自ら思考し実践する能力を身につけ、指導方法を的確に判断できるようになる。
キーワード	コーチング 競技力向上 トレーニング チーム
学修教育目標	自分の競技経験を指導現場につなげる。 指導者の心構え、指導者の役割について説明できる。 組織やチーム作りに関する基礎的理論について説明できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

スポーツ活動や競技スポーツにおけるコーチングのあり方について、コーチングスタイルやコーチングシステム、チームマネージメントのあり方について解説する。授業の各回に学修内容を振り返る小レポートを実施し、授業の後半に授業内容の理解度を確認するための小テストを実施する。また、授業の最終段階でチームマネージメントに関する課題として、レポートをまとめる。このため、復習では、適時、図書館を活用して参考図書を参照するとともに授業毎のノートを整理し授業内容の振り返りを行い、理解が難しいことは授業やオフィスアワーを活用して積極的に質問する解決に努めることが望ましい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツトレーニング概論」や「ジュニアトレーニング論」、と関連し、スポーツ実践実習分野やスポーツ指導法分野を構成する科目の学修内容を理解するための基礎となる。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：『スポーツコーチング学』 著者名：レイナー・マートン 翻訳者：大森　俊夫、山田　茂 出版社：西村書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	コーチングに関する専門知識を深め、それを他者に説明できるようにする。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	自分の競技やスポーツ活動の経験を学びに繋げ、指導者の心構えや役割、指導方法を理解する。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	授業内容を分析し、指導現場に関連した学修課題を抽出し課題の解決に取り組むことができる	◎
	②　計画力		
	③　創造力	他の科目との関連性を見出し、コーチングに関する知識や考え方を深めることができる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	ペアワークやグループワーク課題において、自分の意見を他者にわかりやすく伝えることができる。	○
	②　傾聴力	ペアワークやグループワーク課題において、他者に意見を傾聴し、意見の受容や尊重することできる。	○
	③　柔軟性	ペアワークやグループワーク課題において、他者に意見を参考に自身の考えを深めることができる。	○
	④　情況把握力		
	⑤　規律性	ペアワークやグループワークを実施する際、ルールや約束を守り適切な態度で取り組むことができる。	△
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	スポーツ指導におけるコーチの役割を理解し、対象者に応じた指導のあり方を考えることができる。	△

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		55	10	20				15	100
評価の指標	知識に関する評価	35	5	10					50
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	20	5	10					35
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価							15	15

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
スポーツ活動や競技スポーツにおけるコーチングのあり方を十分に理解している。 コーチングスタイルやコーチングシステム、チームマネージメントのあり方を十分に理解している。 （授業内容に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。）	スポーツ活動や競技スポーツにおけるコーチングのあり方を理解している。 コーチングスタイルやコーチングシステム、チームマネージメントのあり方を理解している。 （授業内容に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断できる。）

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ①授業の進め方　・受講に際しての留意点 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	予習：自身の競技経験を振り返り、理想の指導者像や指導者に必要な資質について予習する。	60
第２回 ／	コーチングとは ①指導者としての心構え・コーチの視点 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：自身の競技経験と授業内容を繋げ、指導者の心構え、コーチの視点について復習する。 予習：コーチや指導者に必要な哲学について予習する。	90 60
第３回 ／	指導方法（1） ①コーチング・フィロソフィー 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：コーチや指導者に必要なコーチング・フィロソフィーの概略について復習する。 予習：コーチング・フィロソフィーの構成要素について予習する。	90 60
第４回 ／	指導方法（2） ①コーチング・フィロソフィーの構築 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：コーチング・フィロソフィーの階層構造を整理し、その構築過程について復習する。 予習：競技者育成プログラムの事例について予習する。	90 60
第５回 ／	競技者育成プログラムの理念 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：各種競技団体における競技者育成プログラムの特徴を整理し、指導現場に必要な要素を復習する。 予習：選手に必要なコンディショニングの概略について予習する。	90 60
第６回 ／	コンディショニングという概念 ①競技力向上のためのコンディショニング 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：競技力向上を目的としたコンディショニング法と指導上の留意点について復習する。 予習：チームビルディングの事例について予習する。	90 60
第７回 ／	目標に向かっての進め方 ①チームの方向性、スタイル 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：チームの方向性やスタイルの構築として、指導コンセプトやチームマネージメントの方法を復習する。 予習：年間トレーニングの計画方法を予習する。	90 60
第８回 ／	年間、シーズンに対する練習計画 ①年間の期分け 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：年間トレーニングを計画する方法として、マクロサイクルとミクロサイクルとの違いと特徴を整理し、練習計画の事例を復習する。 予習：練習メニューの計画法や指導法について予習する。	90 60
第９回 ／	効率よく効果的な練習 ①練習メニューの作り方、指導方法 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：効率かつ効果的な練習メニューの作成方法と、指導上の留意点について復習する。 予習：練習内容の組み立て方について予習する。	90 60
第10回 ／	練習を組み立てる９つの要素 ①目的、目標に向かっての練習の組み立て 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：各種競技の特性に応じた練習内容の組み立て方や目的、目標の決定プロセスについて復習する。 予習：競技スポーツにおける情報戦略の現状について予習する。	90 60
第11回 ／	テクニカル活動の必要性と方法 ①情報戦略　・情報の蓄積とデーターの種類 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：チーム強化の一環として、情報戦略や情報の取り扱いと活用方法について復習する。 予習：チーム強化の方法として、技術と戦略・戦術の重要性について予習する。	90 60
第12回 ／	技術と戦術・戦略 ①技術とは　・戦術・戦略を有効に使うためには 授業の出席、受講態度、小テストを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：競技力向上のための技術と戦術との関係、戦略的教科活動の方法について復習する。 予習：選手や指導者におけるリーダーシップの重要性について予習する。	90 60
第13回 ／	リーダーシップの養成 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：チームのリーダーに必要な要素や資質、リーダーシップが養成されるプロセスについて復習する。 予習：チームビルディングの方法や構成要素について予習する。	90 60
第14回 ／	チームビルディングについて チームマネージメントについて 授業の出席、受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。	講義と質疑応答 面接授業	復習：チームビルディングの構成要素と組織構築のプロセス、指導者に必要な強化策に関する知見およびチームの競技力と組織力の向上を目的としたチームマネージメントの方法について復習する。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSC32S081S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング分野	スポーツコーチング法（器械運動） Coaching Method for Gymnastics	２単位	選　択	講　義	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	自己の身体を機能的･合理的に発達させるための一助として器械体操がある。器械体操の特性を知り、マット･鉄棒･跳び箱･平均台等の器械･器具を使用して、支持力･回転力･懸垂力･跳躍力･バランス能力等の基礎能力の向上とその練習方法を体得し、指導者に必要な器械体操の技能を理解し指導法を修得する。
キーワード	器械運動　指導法
学修教育目標	学校体育で取り扱われる器械運動領域について理解することができる。 学習指導要領で各種目取り上げられている技を理解することができる。 技能の習熟度の評価と共に、段階をおった指導方法を身につけることができる。 各種目の器械、器具の特性と安全の必要性を理解することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

自己や仲間の挑戦する課題を設定し、その課題達成に向けて立案した計画を実行・修正する力が求められる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツ医学、スポーツトレーニング等、生理学的な基礎知識に加え、生徒指導、保健体育についての知識を習得していることが望ましい。

また、準備学習として、参考書を中心とした事前学習を１ｈ、授業後の振り返りと、授業内容で未習得の箇所を各自で個別に練習する事後学習を１ｈ程度行うことが望ましい。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
講義中に適宜必要に応じて配布資料を作成する。	書　名：器械運動指導ハンドブック 著者名：中島　光広・吉田　茂・太田　昌秀 出版社：大修館書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	中学・高校の発達段階を考慮し、器械運動領域で求められる指導内容を理解する。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	中学・高校の発達段階を考慮し、器械運動領域で求められる指導方法を理解する。	○
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	個々の生徒の現状を理解した上で、課題解決に努める。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	現場指導者として模範となる態度を身に付ける。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	コミュニケーションをとりながら、個人差を考慮しながら実践できる力を養う。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	指導者としての自覚、意思を明確に持つ。	◎
	②　働きかけ力	自分の役割を認識し、チーム全体で課題達成を目指す。	◎
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	現代における学校体育の現状を認識し、課題を明らかにする。	◎
	②　計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する。	◎
	③　創造力	既存の思考に囚われず、柔軟な発想で課題を解決する。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く。	◎
	③　柔軟性		
	④　情況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する。	◎
	⑤　規律性	大学生として、マナー、ルールを守り、法令順守を心がける。	◎
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	建設的な社会観をもって、良心に恥じない行いをする。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合		50			50				100
評価の指標	知識に関する評価	20							20
	技能に関する評価	10			30				40
	応用力に関する評価	10							10
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価	10			20				30

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
実技能力の向上に加えて、指導する側、される側、各々の立場を理解し、状況に応じて適切な指導が行える力がある。	器械運動の特性を理解し、適切な幇助法について習熟するとともに、自らの示範力を向上させる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ①器械運動の概要 ②準備運動、整理運動、 ③補強・幇助の必要性	講義形式 オンラインでの課題研究	器械運動についてまとめる	60
第２回 ／	マット運動(1) ①基礎動作とトレーニング 「回転」系	面接授業	基礎技術と体操の特性についてまとめる	60
第３回 ／	マット運動(2) ①「腕立て回転」系(倒立前転)・復習と組み合わせ	面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第４回 ／	マット運動(3) ①「腕立て回転」系(側方倒立回転)・復習と組み合わせ	面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第５回 ／	マット運動(4) ①「回転技」系と「功技」(バランス・開脚など)系を組み合わせた演技の構成と実践	面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える 自己・他者観察から体操のポイントを整理し、実技テストに備える	60
第６回 ／	鉄棒運動(1)　基礎動作とトレーニング ①鉄棒の握りの種類の説明と実践「支持技(前方支持技)」系	面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第７回 ／	鉄棒運動(2) ①「支持技(後方支持技)」系（片足踏み切り逆上がり・ 屈膝支持後転・後方支持回転）ー足裏かけ回転下り	面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第８回 ／	鉄棒運動(3) ①「支持技」系と「懸垂技」系を組み合わせた演技の構成と実践	面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える 自己・他者観察から体操のポイントを整理し、実技テストに備える	60
第９回 ／	とび箱運動(1)　基礎動作とトレーニング ①「切り返し」系(開脚とび、閉脚とび)	面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第10回 ／	とび箱運動(2) ①「回転技」系(台上前転とび・ヘッドスプリングとび)	面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第11回 ／	平均台運動(1)　基礎動作とトレーニング ①「動的運動」系(歩く・走る・とぶ(上がり・下り)・回転運動(ターン・転向・前転)	面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える	60
第12回 ／	平均台運動(2) ①「開始技」・「跳躍技」・「終末技」・「静的運動」系（ポーズ・倒立）と「動的運動」系を組み合わせた演技の構成と実践	面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える 自己・他者観察から体操のポイントを整理し、実技テストに備える	60
第13回 ／	模擬授業	面接授業	技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える 自己・他者観察から得た評価、内容を参考に、体操の目的理解を深める	60
第14回 ／	器械運動のまとめ	面接授業	器械運動の必要性をグループワークを通してまとめる	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSC32S082S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング分野	スポーツコーチング法（陸上競技） Coaching Method for Track and Field	２単位	選　択	講　義	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	陸上競技の基本的なルールと競技特性を知ることで、基本的運動能力である走・跳・投のコーチング方法について理解することができ、幅広い対象者に対して陸上競技のコーチングを行うことができるようになる。 さらに、測定系種目であることから、各種目の記録の測定や分析を通して、自らが課題を発見し解決できるようなコーチング方法および、安全管理を含めたマネジメントの方法についても身に付けることを目的とする。
キーワード	スポーツ実践 陸上競技の特性 安全・管理
学修教育目標	陸上競技の基本的なルールを理解し、それぞれの種目特性や技術について説明することができる。 安全管理（事故防止・危険回避）を含めた指導法について説明できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

陸上競技の歴史・特性についてワークシートを作成し学修する。
陸上競技の指導方法（短距離、中距離、長距離、ハードル、跳躍、投擲）についてワークシートを作成し学修する。
陸上競技の指導計画について立案する。
陸上競技の競技規則についてのワークシートを作成し学修する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツ実践実習Ｃ（陸上競技）の理解につながる。
陸上競技における基礎的な知識を取得している。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
書　名：陸上競技のコーチング学 著者名：日本陸上競技学会 出版社：大修館書店	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	陸上競技の歴史・特性を理解できる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	陸上競技について理解し指導ができる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	グループワークを実施することでコミュニケーションスキルを身につけることができる。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	常識・節度ある言動をすることができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	陸上競技の指導法について理解できる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自分がやるべきことは何かを見極め自発的に取り組むことができる。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	課題を明らかにするために他者の意見を積極的に求めている。	○
	②　計画力	進捗状況や不測の事態に合わせて柔軟に計画を修正できる。	○
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。	△
	③　柔軟性	自分の意見を持ちながら他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。	○
	④　情況把握力		
	⑤　規律性	常識・節度ある言動をすることができる。	○
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭･実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合		50		30	10			10	100
評価の指標	知識に関する評価	30		20					50
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	20		10					30
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				5				5
	関心･意欲に関する評価				5			10	15

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
陸上競技の歴史・特性について理解し説明できる。 陸上競技の知識について充分に理解している。 陸上競技の種目特性についての理解し指導法を習得する。	陸上競技の歴史・特性について理解している。 陸上競技の知識について理解している。 陸上競技の種目特性についての理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ①　授業構成及び展開 ②　コーチングに関する一般的な講義	面接授業		60
第２回 ／	競技者及び教育現場における陸上競技 陸上競技の歴史と種目特性 日本陸上競技界の取り組み	面接授業	オリンピックで行われている陸上競技の種目は何か確認しておくこと	60
第３回 ／	短距離のルールとパフォーマンス構造 短距離走の特性とルールとパフォーマンス構造 短距離走のコーチング（指導）法と練習法	面接授業	該当する種目の競技映像を見ておくこと	60
第４回 ／	中長距離競歩のルールとパフォーマンス構造 中長距離競歩の特性とルールとパフォーマンス構造 中長距離競歩のコーチング（指導）法と練習法	面接授業	該当する種目の競技映像を見ておくこと	60
第５回 ／	ハードル種目・リレー種目のルールとパフォーマンス構造 ハードル種目・リレー種目の特性とルールとパフォーマンス構造 ハードル種目・リレー種目のコーチング（指導）法と練習法	面接授業	該当する種目の競技映像を見ておくこと	60
第６回 ／	跳躍のルールとパフォーマンス構造 跳躍の特性とルールとパフォーマンス構造 跳躍のコーチング（指導）法と練習法	面接授業	該当する種目の競技映像を見ておくこと	60
第７回 ／	投擲のルールとパフォーマンス構造 投擲の特性とルールとパフォーマンス構造 投擲のコーチング（指導）法と練習法	面接授業	該当する種目の競技映像を見ておくこと	60
第８回 ／	混成競技種目のルールとパフォーマンス構造 混成競技種目の特性とルールとパフォーマンス構造 混成競技種目のコーチング（指導）法と練習法	面接授業	該当する種目の競技映像を見ておくこと	60
第９回 ／	競技力の分析　トラック篇 トラック種目のパフォ-マンス分析 分析	面接授業	該当する種目の競技映像を見ておくこと	60
第10回 ／	競技力の分析　フィールド篇 フィールド種目のパフォ-マンス分析 分析	面接授業	該当する種目の競技映像を見ておくこと	60
第11回 ／	日本陸上界の実際とコーチングの実際	面接授業	該当する種目の競技映像を見ておくこと	60
第12回 ／	トラック種目の指導案作成 指導略案作成	面接授業	該当する種目の競技映像を見ておくこと	60
第13回 ／	フィールド種目の指導案作成 指導略案作成	面接授業	該当する種目の競技映像を見ておくこと	60
第14回 ／	陸上競技コーチの学び	面接授業	陸上競技のコーチを調べる	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSC33S083S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング分野	スポーツコーチング法（武道） Coaching Method for Budo	２単位	選　択	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	各武道の特性を理解することができ、異なった他の競技種目との違いを理解することができる。 また、中学校・高等学校での武道必修化に伴い、教育現場における武道の役割について理解し、知識を修得する。 指導案の作成、模擬授業の実施を通して「剣道」の特性を理解する。
キーワード	武道　剣道　武道必修化
学修教育目標	日本古来の伝統文化としての武道の考え方を理解することができる。 指導法として、正しい知識を身につけることができる。 西洋のスポーツと日本のスポーツ（武道）の違いなどの知識を深めることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

中学校の武道必修化に伴い、剣道授業を展開するために必要な指導案の作成・発表を行う。グループ活動や、個人による発表、製作を実施する。
講義内にて iPad を使用することがあります。持参するようにしてください。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツ実戦実習Ｊ（剣道）」をより深く理解するために関連する科目です。特に、教職を希望する者や剣道経験者に役立つ知識を学ぶことができます。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	剣道の専門的な知識を身につけ、指導案を作成することができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	相手に伝える技術を身につけるよう積極的に取り組み他者の意見を素直に聞くことができる。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	授業を展開するために必要な知識・技能を修得することができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	主体性を持って積極的に取り組む。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力		
	②　計画力		
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスの原因となる事象が生じた時に、適切な対応を取ることができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	共に受講している学生のことを考えて行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		45		30	25				100
評価の指標	知識に関する評価	25		10					35
	技能に関する評価			10	5				15
	応用力に関する評価	20		5	10				35
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				5				5
	関心・意欲に関する評価			5	5				10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
武道の特性を充分に理解し、専門知識を基に指導案を作成することができる。 剣道の模擬授業をすることができる。 達成度が 80%以上である。	武道の特性を理解している。指導案の作成、模擬授業の実施ができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	「道」とは何か ① 武道の理念と歴史 ② 武士道の精神性 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第２回 ／	「生きる力」とは何か ① 「生きる力」とはどんな力？ ② 理想の生き方 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第３回 ／	中学校の武道必修化 ①「武道必修化」の目的 ② 武道授業で何を教えるか コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第４回 ／	競技としての武道 ① 剣道と JUDO ② 全日本選手権、世界選手権を見て学ぶ コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第５回 ／	人間形成の道としての武道 ① 人間形成としての剣道 ② 昇段審査への挑戦 コメントシート	講義・演習 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第６回 ／	初心者への指導１ ① 剣道授業実施の留意事項 ② 礼法・着装・竹刀と防具の扱い方 コメントシート	講義・演習 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第７回 ／	初心者への指導２ ③ 構え・手の振り・足さばき ④ 素振り・リズム剣道 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第８回 ／	初心者への指導３ ⑤ 基本打ち ⑥ 仕掛け技・応じ技・引き技 コメントシート	講義形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第９回 ／	剣道の稽古法 ① 切り返し・打ち込み・かかり稽古 ② 互角稽古・試合稽古 ③ 見取り稽古・一人稽古・座禅 コメントシート	講義・演習 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第10回 ／	木刀を用いた稽古 ① 木刀による剣道基本技稽古法 ② 日本剣道形 コメントシート	講義・演習 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第11回 ／	世界から見た武道とその実践の現状 武道と事故 コメントシート	講義・演習 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第12回 ／	指導案の作成 コメントシート	講義・演習 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第13回 ／	指導案の実践 コメントシート	演習形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30
第14回 ／	まとめ コメントシート	実技形式 面接授業	授業時に指示された課題に取り組む。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSC33S084S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング分野	スポーツコーチング法（ダンス） Coaching Method for Dance	２単位	選　択	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	ダンスの歴史と特性について学べる。 創作ダンス、フォークダンス、日本の民謡、リズムのダンスの指導方法について的確に判断できるようになる。
キーワード	ダンスの歴史と特性 ダンスの指導方法
学修教育目標	ダンスの歴史と特性について説明できる。 創作ダンス、フォークダンス、日本の民謡、現代的なリズムのダンスの指導方法について説明できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

ダンスの特性や名称や用語、表現の仕方、動きや構成の組み立て方を身につける事ができる。ダンスの楽しさや喜びを味わうとともに、個人やグループの能力を最大に発揮し専門的な表現の仕方や踊り方を習得する事ができる。専門的な知識及び目的に応じた機能、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力及び主体性をはぐくむことができる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

毎授業開始時に呼称し、客観的に健康状態を把握。毎時のねらいと目標を説明する。
座学と実践で行う安全対策として動きやすい服装、運動シューズを使用して参加する。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	ダンスにおける基本的意識を理解する。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	ダンスにおける基本的意識を理解する。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力について説明できる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	対象者や目的に応じたプログラムの作成や構成ができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	プログラムの構成や指導法をグループワークにより身につけることができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	ダンスに親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力	ダンスに親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養	△
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	ダンスの基本的な動き	○
	②　計画力	ダンスの基本的な動き	△
	③　創造力	ダンスの基本的な動き	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力	年齢に応じたプログラムの作成	△
	③　柔軟性	体の水準を確保する為に必要な運動	○
	④　情況把握力		
	⑤　規律性	尺度に従ったプログラムについても作成できるよう指導法を行う。	△
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合		45	15	10	30				100
評価の指標	知識に関する評価	9	3	2	6				20
	技能に関する評価	9	3	2	6				20
	応用力に関する評価	9	3	2	6				20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価	9	3	2	6				20
	関心・意欲に関する評価	9	3	2	6				20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
グループワーク発表において課題曲を 80%完成する。	グループワーク発表において課題曲を 60%完成する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ①授業の進め方、内容について説明 ②受講に際しての留意点 （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること 面接授業		
第２回 ／	ダンスの歴史 ①誕生と特性 （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること 面接授業	自主学習トレーニング	20～30
第３回 ／	ダンス・ウォーミングアップ ①心とからだのほぐし ②リズムに乗って、2人でリラクゼーション ③ダンス風ストレッチ （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク 面接授業	自主学習トレーニング	20～30
第４回 ／	創作ダンス（1） ①身近な生活や日常動作 ②対極の動きの連続 （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク 面接授業	自主学習トレーニング	20～30
第５回 ／	創作ダンス（2） ①多様な感じ ②群（集団）の動き （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク 面接授業	自主学習トレーニング	20～30
第６回 ／	創作ダンス（3） ①もの（小道具）を使う （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク 面接授業	自主学習トレーニング	20～30
第７回 ／	フォークダンス（1） ①主なステップについて ②隊形づくり （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク 面接授業	自主学習トレーニング	20～30
第８回 ／	フォークダンス（2） ①オクラホマ・ミキサー ②バージニアリール （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク 面接授業	自主学習トレーニング	20～30
第９回 ／	フォークダンス（3） ①マイム・マイム （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク 面接授業	自主学習トレーニング	20～30
第10回 ／	日本の民謡（1） ①民謡の特性と基本動作 （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク 面接授業	自主学習トレーニング	20～30
第11回 ／	日本の民謡（2） ①阿波踊り ②花笠音頭 （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク 面接授業	自主学習トレーニング	20～30
第12回 ／	日本の民謡（3） ①ソーラン節 ②よさこいソーラン （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク 面接授業	自主学習トレーニング	20～30
第13回 ／	現代的なリズムのダンス（1） ①アイソレーション ②リズム ③ステップ （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク 面接授業	自主学習トレーニング	20～30
第14回 ／	現代的なリズムのダンス（2） ①ロック　・リズムの特徴をとらえる ・変化のある動きを組み合わせて ・リズムに合わせて全身で踊る （課題提出）（小テスト）総合的に評価する。	時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク 面接授業	自主学習トレーニング	20～30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSC33S086S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング分野	スポーツコーチング法（ゴール型スポーツ） Coaching Method for Goal Type Ball Game	２単位	選　択	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	ゴール型スポーツとは、コート内で攻守が入り交じり，手や足などを使って攻防を組み立て，一定時間内に得点を競い合うことを課題としたゲームである。 ゴール型スポーツの特性を理解するとともに、ゴール型スポーツとして代表的なバスケットボール、サッカーを中心に、基本的な技術や戦術、必要な体力要素、また競技規則や審判法についても理解し、将来的に指導者として競技を正しく安全に行わせ、指導できる知識と技能を身につける。
キーワード	ゴール型スポーツの歴史・特性 バスケットボール サッカー ファンダメンタル オフェンス ディフェンス コーチング 競技規則 審判法
学修教育目標	ゴール型スポーツにおける技術、戦術、体力特性を理解し、個人技術・技能の指導法を理解し、説明することができる。 オフェンス、ディフェンスにおける集団の組織プレーの構造と戦術に関する基礎知識を理解し、指導法を説明することができる。 競技規則および審判法を理解し、説明することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

ゴール型スポーツとして、バスケットボールにおいてはバスケットボールの歴史・特性、指導法、指導計画、競技規則、サッカーにおいては競技規則や個人・集団の指導法、競技力向上のコーチングを学修課題とし、それぞれの主な学修課題に加えて体育実技における指導実践法についてワークシートやグループワークを応用した学修を実施する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツ実践実習Ｄ（バスケットボール）、スポーツ実践実習Ｅ（サッカー）、スポーツコーチング概論、スポーツトレーニング概論、ジュニアトレーニング論に関連し、ゴール型スポーツの基礎的知識および競技力向上から体育実技の指導に至る指導理論と指導実践法の修得につながる。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：バスケットボール指導教本 著者名：日本バスケットボール協会編 出版社：大修館書店 書　名：新訂版　サッカー　コーチングとマネジメント 著者名：マルコム・クック 出版社：晃洋書房 書　名：中学校学習指導要領解説　保健体育編 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 書　名：高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編 著者名：文部科学省 出版社：東山書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	ゴール型スポーツの歴史・特性を理解する。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	ゴール型スポーツのファンダメンタルについて理解し、指導ができる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	グループワークを実践することによりコミュニケーションスキルを修得する。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	ゴール型スポーツの競技規則と指導法を理解する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　問題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めることができる。	○
	②　計画力	学修課題の進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる。	△
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見を他者にわかりやすく伝えることができる。	○
	②　傾聴力	他者の意見を素直に傾聴することができる。	△
	③　柔軟性	自分の意見を持ちながら、他者の意見に対する尊重や共感を持って受け入れることができる。	○
	④　情況把握力		
	⑤　規律性	グループワークの際、ルールや約束を守り適切な態度で取り組むことができる。	○
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	競技規則やフェアプレーの精神を理解し、対象者や指導場面に応じた指導のあり方を考えることができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポートフォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総合評価割合		50		20	15			15	100
評価の指標	知識に関する評価	50							50
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価			20					20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				15				15
	関心･意欲に関する評価							15	15

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
ゴール型スポーツの歴史・特性について理解し、説明することができる。 ゴール型スポーツの技術指導の実践法とコーチングの基礎知識について充分理解している。 ゴール型スポーツの競技規則と審判法を理解し、審判を実践することができる。	ゴール型スポーツの歴史・特性について理解している。 ゴール型スポーツの技術指導の実践法とコーチングの基礎知識を理解している。 ゴール型スポーツの競技規則を理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	バスケットボール：オフェンス・ディフェンスのファンダメンタル ①　ボールハンドリング、キャッチ ②　パス、シュート ③　フットワーク ④　リバウンド 知識、応用力、関心・意欲	講義と質疑 面接授業	配布されたワークシートを作成し、復習する。 １対１のオフェンス、コンビネーション・オフェンスについて予習する。	60
第２回 ／	バスケットボール：１対１のオフェンス、コンビネーション・オフェンス ①　オフェンスの基本原則 ②　パス・アンド・ラン ③　各種スクリーンプレイ 知識、応用力、関心・意欲	講義と質疑 面接授業	配布されたワークシートを作成し、復習する。 １対１のディフェンス、コンビネーション・ディフェンスについて予習する。	60
第３回 ／	バスケットボール：１対１のディフェンス、コンビネーション・ディフェンス ①　ディフェンスの基本原則 ②　スクリーンプレイに対するディフェンス ③　ダブルチーム～ローテーションとエクスチェンジ 知識、応用力、関心・意欲	講義と質疑 面接授業	配布されたワークシートを作成し、復習する。 ファーストブレイク、チームオフェンスについて予習する。	60
第４回 ／	バスケットボール：ファーストブレイク、チームオフェンス ①　ファーストブレイクの基本 ②　アウトナンバー・プレイ（2 対 1、3 対 2、4 対 3、5 対 4）の詰め ③　フリーラン・オフェンス ④　パターン・オフェンス 知識、応用力、関心・意欲	講義と質疑 面接授業	配布されたワークシートを作成し、復習する。 チームディフェンスについて予習する。	60
第５回 ／	バスケットボール：チームディフェンス ①　マンツーマンディフェンス ②　ゾーンディフェンス 知識、応用力、関心・意欲	講義と質疑 面接授業	配布されたワークシートを作成し、復習する。 指導計画（年間・月別・1 日）の立案について予習する。	60
第６回 ／	バスケットボール：指導計画の立案 ①　年間指導計画 ②　月別指導計画 ③　1 日の指導計画 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	講義と質疑 グループワーク 面接授業	配布されたワークシートを作成し、復習する。 バスケットボールの競技規則（プレイの規定、バイオレーション、ファウル、審判の合図）について予習する。	60
第７回 ／	バスケットボール：競技規則 ①　プレイの規定 ②　バイオレーション ③　ファウル ④　審判の合図 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	講義と質疑 グループワーク 面接授業	バスケットボールに関する学修内容の復習する。 サッカーの成り立ち、歴史について予習する。	60
第８回 ／	サッカー：成り立ちと歴史、競技規則と審判法 ①　競技のフィールド ②　アウトオブプレーの再開方法 知識、技能、応用力、関心・意欲	講義と質疑 面接授業	配布されたワークシートを作成し、復習する。 サッカーの競技規則と審判法（ファウルと不正行為、スローイン、オフサイド、審判のシグナル）について予習する。	60
第９回 ／	サッカー：競技規則と審判法 ①　ファウルと不正行為 ②　スローイン ③　オフサイド ④　審判のシグナル 知識、技能、応用力、関心・意欲	講義と質疑 面接授業	配布されたワークシートを作成し、復習する。 サッカーの個人技術・戦術と指導法について予習する。	60
第 10 回 ／	サッカー：個人技術・戦術と指導法 ①　ドリブル ②　キック ③　アプローチ ④　タックル 知識、技能、応用力、関心・意欲	講義と質疑 面接授業	配布されたワークシートを作成し、復習する。 サッカーの個人技術・戦術とグループ戦術の指導法について予習する。	60
第 11 回 ／	サッカー：個人技術・戦術とグループ戦術の指導法 ①　ドリル形式のトレーニング ②　サポート ③　グループ戦術・仕掛け 知識、技能、応用力、関心・意欲	講義と質疑 面接授業	配布されたワークシートを作成し、復習する。 サッカーのグループ戦術の指導法について予習する。	60
第 12 回 ／	サッカー：グループ戦術の指導法 ①　チャレンジとカバーリング ②　プレスバック 知識、技能、応用力、関心・意欲	講義と質疑 面接授業	配布されたワークシートを作成し、復習する。 サッカーの体力特性と指導法（競技力向上のためのコーチング法）について予習する。	60

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 13 回 ／	サッカー：体力特性と指導法 ①競技力向上のためのコーチング法 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	講義と質疑 グループワーク 面接授業	配布されたワークシートを作成し、復習する。 サッカーのゲーム分析の視点について予習する。	60
第 14 回 ／	サッカー：ゲーム分析、ゴール型スポーツのまとめ ①　ゲーム分析の視点 ②　ゲーム分析の実践・発表 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲	講義と質疑 グループワーク 面接授業	サッカーに関する学修内容を復習する。 ゴール型スポーツの学修内容を整理し、試験範囲について復習する。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSC32F087S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング分野	スポーツコーチング法（ネット型スポーツ） Coaching Method for Net Type Ball Game	２単位	選　択	講　義	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	ネット型スポーツとは、ネットで区切られたコートの中で攻防を組み立て、一定の得点に早く達することを競い合うことを課題としたゲームである。本科目では、ネット型スポーツの特性を理解するとともに、ネット型スポーツの中でもラケットを使用する中で代表的なテニス、バドミントン、用具を使用しない中で代表的なバレーボールを中心に、基本的な技術や戦術、必要な体力要素、また競技規則や審判法についても理解し、将来的に指導者として競技を正しく安全に行わせ、指導できる知識と技能を身につける。
キーワード	ネット型スポーツ ラケットスポーツ 指導法 指導計画
学修教育目標	ネット型スポーツに存する各種競技に必要な体力や実践で高まる体力を理解する。 ネット型スポーツに存する各種競技のゲームに必要なルールを理解する。 ネット型スポーツに存する各種競技の指導法を理解するとともに、指導計画を立案する。

授業科目の概要及び学修上の助言

講義形式の授業において、ネット型スポーツに存する各種競技の起源を辿り、ルール・競技の分化など歴史的変遷や、スキルの理解を目指す。また、技術習得のための指導法を学び、効果的な指導計画の作成について学修する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

いずれの種目においても、ルールを事前に把握しておくことが望まれる。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	書　名：みんなが主役になれるバレーボールの授業づくり 著者名：福原祐三・鈴木　理 出版社：大修館書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	各種競技におけるルールの概要や技術的要点を説明できる。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	他者との意見交換を積極的に行う。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	望ましい指導者の在り方について再考し、実践する。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	実技指導において段階的で戦略的な指導を理解する。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自らの役割・責任を理解し、主体的に活動できる。	◎
	②　働きかけ力	目標達成するためにリーダーシップ、フォロワーシップを発揮する。	○
	③　実行力	自らあるいはチームの課題を理解し、それを解決できるよう活動する。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　問題発見力	自らあるいはチームを客観的に評価し、課題を明らかにする。	○
	②　計画力	課題解決に対する合理的な計画を立案する。	◎
	③　創造力	これまでに得た知識を複合し、新たな方法や解決策を活用した課題解決を行う。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	適切なコミュニケーションで、自らの意見を他者に伝える。	◎
	②　傾聴力	他者の意見を理解しようと心掛けるとともに、発言しやすい環境を作る。	○
	③　柔軟性	他者の意見を基礎に、自らあるいはチームの意見をより理想的なものにする。	○
	④　情況把握力	得られた知識や技能・技術を基礎に、効果的な練習方法や助言を考える。	◎
	⑤　規律性	スポーツマンシップやフェアプレイを意識して、行動する。	○
	⑥　ストレスコントロール力	活動の最中に生じるストレスに対し、適切に対処し行動する。	○
4. 倫理観	①　倫理性	指導者・競技者として望ましい姿を理解し、行動をする。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		43		27	30				100
評価の指標	知識に関する評価	33		9	15				57
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	10			15				25
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価			18					18

具体的な達成の目安

理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
ルールや試合の進行方法を理解している。 各種競技の実践に必要な体力や、実施することで高まる体力を理解している。 各種競技における基礎技術・指導法を理解している。 合理的な指導計画を立案できる。 上記項目を基礎に総合的な達成度が 80%以上であると判断できる。	ルールや試合の進行方法を理解している。 各種競技の実践に必要な体力や、実施することで高まる体力を理解している。 各種競技における基礎技術・指導法を理解している。 合理的な指導計画を立案できる。 上記項目を基礎に総合的な達成度が 60～79%以上であると判断できる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	球技の型分類における、ネット型スポーツ	講義 面接授業	復習：運動の特性とはどのようなものか復習する。 予習：テニス、バドミントン、バレーボールは何が違うのか比較しておく。	60
第 2 回 ／	ネット型スポーツの特徴。テニス、バドミントン、バレーボールの違い	講義 面接授業	復習：ネット型ゲームの面白さとは何か、共通して言えることを復習する。 予習：テニスの歴史やルール、実施することで高まる体力について調査する。	60
第 3 回 ／	テニスの歴史 テニスのルールと基礎知識	講義 オンデマンドによる遠隔授業	復習： テニスの発祥、日本にどのように普及し発展したか復習する。 予習：複数存在するラケットの握り方とそれに応じた打ち方について情報を収集する。	60
第 4 回 ／	技能習得のための練習方法	講義 オンデマンドによる遠隔授業	復習：サービスやボレーの打ち方および、それらのメリットについて復習する。 予習：（主としてダブルスの）試合を展開するのに必要なルールについて情報を収集する	60
第 5 回 ／	試合を実施するために必要な知識（ルールおよび戦術）	講義 オンデマンドによる遠隔授業	復習：（主としてダブルスの）試合を展開するのに必要なルール、状況に応じた戦術について復習する。 予習：効果的な指導計画の概要を立案する。	60
第 6 回 ／	指導計画の作成（テニス）	講義 課題研究による授業	復習：作成した指導計画とその修正案を比較し、より効果的な指導法についての理解を深める。 予習：バドミントンの歴史やルール、実施することで高まる体力について調査する。	60
第 7 回 ／	バドミントンの歴史 バドミントンのルールと基礎知識	講義 オンデマンドによる遠隔授業	復習：バドミントンの歴史やルール、実施することで高まる体力について復習する。 予習：複数存在するラケットの握り方とそれに応じた打ち方について情報を収集する。	60
第 8 回 ／	技能習得のための練習方法	講義 オンデマンドによる遠隔授業	復習：シャトルの軌道や意図した軌道を実現するための合理的な打ち方ついて復習する。 予習：（主としてダブルスの）試合を展開するのに必要なルールについて情報を収集する	60
第 9 回 ／	試合を実施するために必要な知識（ルールおよび戦術）	講義 オンデマンドによる遠隔授業	復習：（主としてダブルスの）試合を展開するのに必要なルール、状況に応じた戦術について復習する。 予習：効果的な指導計画の概要を立案する。	60
第 10 回 ／	指導計画の作成（バドミントン）	講義 課題研究による授業	復習：作成した指導計画とその修正案を比較し、より効果的な指導法についての理解を深める。 予習：バレーボールの歴史やルール、実施することで高まる体力について調査する。	60
第 11 回 ／	バレーボールの歴史 バレーボールのルールと基礎知識	講義 オンデマンドによる遠隔授業	復習：バレーボールの歴史やルール、実施することで高まる体力について復習する。 予習：アタックのポジションと攻撃の種類、必要な技術、練習方法について情報を収集する。	60
第 12 回 ／	技能習得のための練習方法	講義 オンデマンドによる遠隔授業	復習： アタックのポジションと攻撃の種類、必要な技術、練習方法について復習する。 予習：試合を展開するのに必要なルール、状況に応じた戦術について情報を収集する。	60
第 13 回 ／	試合を実施するために必要な知識（ルールおよび戦術）	講義 オンデマンドによる遠隔授業	復習：試合を展開するのに必要なルール、状況に応じた戦術について復習する。 予習：効果的な指導計画の概要を立案する。	60
第 14 回 ／	指導計画の作成（バレーボール）	講義 課題研究による授業	復習：作成した指導計画とその修正案を比較し、より効果的な指導法についての理解を深める。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSC32F088S	専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング分野	スポーツコーチング法（ベースボール型スポーツ） Coaching Method for Baseball Type Ball Game	２単位	選　択	講　義	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	本授業においては、ベースボール型球技の特性やルールを知ることにより、技能がルールに則って発展することを理解し，技能修得に必要な指導技術を学ぶことを目的とする。また、自らが毎時間、内容に合った目標を設定し、自らの力で指導技術の向上を目指すと共に、まわりの人からの的確なアドバイスを受け入れながら協力的に指導技術の向上を目指すことを目的とする。
キーワード	ルール 投球動作 打撃動作
学修教育目標	特性やルールを知り、ルールに則って技能が発展することを理解することができる。 基本技能である「投げる」「捕る」「打つ」「走る」といった運動の指導方法を身につけることができる。 自らが毎時間、内容に合った目標を設定し、指導技術の向上を目指すと共に、まわりの人からの的確なアドバイスを受け入れながら協力的に指導技術の向上を目指すことができる。 合わせて、目標達成のために、常に準備を怠らず創意工夫し、技能の指導技術だけでなく、スポーツの精神や態度など、スポーツ場面に必要な知識や思考を身につけ、スポーツで培った特性を日常生活でも実践していけるような指導法を身につけることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

ベースボール型スポーツに必要な技能を科学的に捉え、科学に基づいた指導を学ぶ。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツ実践実習Ｇ（野球・ソフトボール）、スポーツコーチング、ベースボール型スポーツ用語

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	ベースボール型スポーツの技能を科学的に捉えることができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	科学に基づいた技能指導を理解することができる。	○
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	ペアワークから的確に情報を発信することができる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	ルールや約束を守り、授業に参加することができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	効率的な動作改善を段階的に行い、選手のレベルを上げることができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	リーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。	◎
	③　実行力	自分に必要な目的を理解し具体的に設定し、チャレンジ精神で行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　問題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。	◎
	②　計画力	課題解決のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てることができる。	
	③　創造力	課題の解決において様々な知識や考え方、技術等を組み合わせて新たな方法を考え出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	○
	②　傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③　柔軟性		
	④　情況把握力	全体に及ぼす影響を意識して、考えながら行動することができる。	◎
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	自分の持てる能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50		30				20	100
評価の指標	知識に関する評価	50		10					60
	技能に関する評価			10					10
	応用力に関する評価			5					5
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価			5					5
	関心・意欲に関する評価							20	20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
技能を科学的に捉え、選手の動作改善に役立てることができる。	技能を科学的に捉えることができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ①授業を受ける姿勢について，単位を修得するとは，授業の進め方，評価について，受講時の諸注意事項 ②体育的側面からの視点 ③野球・ソフトボール（ベースボール型）の特性 レポート	・面接授業 ・講義形式 ・授業の進め方、評価について説明 ・体育的側面からの視点説明 ・ベースボール型スポーツの特性説明	・ベースボール型スポーツの特性を学修	30
第２回 ／	スポーツコーチングの視点から ①スポーツコーチングの原則，コーチングスタイル レポート	・面接授業 ・講義形式 ・スポーツコーチングからの視点説明	・スポーツコーチングの基本的な考え方を学修	30
第３回 ／	技能向上の基本的な考え方 ①体力要素 ②技能と技術の違い、スポーツ科学で指すスキルとは レポート	・面接授業 ・講義形式 ・技能、技術、スポーツ科学で指すスキルの説明	・体力要素とスキルについて学修	30
第４回 ／	基本指導技術（1） ①ベースボール型スポーツの特性 レポート	・面接授業 ・講義形式 ・ペアワーク ・ベースボール型スポーツの特性から指導法の課題発見解決	・ベースボール型スポーツの特性から、どのような指導法が最適か、自分の考えをまとめておく	60
第５回 ／	基本指導技術（2） ①技能と評価 レポート	・面接授業 ・講義形式 ・技能と評価の一体化説明	・技能と評価の一体化に対する自分の考えをまとめておく	60
第６回 ／	基本指導技術（3） ①ボール操作（キャッチング，スローイング） レポート	・面接授業 ・ペアワーク ・ボール操作指導法の課題発見解決	・ボール操作について学修し指導法を考察	60
第７回 ／	基本指導技術（4） ①投球動作 レポート	・面接授業 ・ペアワーク ・投球動作指導法の課題発見解決	・投球動作について学修し指導法を考察	60
第８回 ／	基本指導技術（5） ①バット操作 レポート	・面接授業 ・ペアワーク ・バット操作指導法の課題発見解決	・バット操作について学修し指導法を考察	60
第９回 ／	基本指導技術（6） ①捕球動作 レポート	・面接授業 ・ペアワーク ・捕球動作指導法の課題発見解決	・捕球動作を学修し指導法を考察	60
第10回 ／	基本指導技術（7） ①走る動作 レポート	・面接授業 ・講義形式 ・走る動作の説明	・走る動作の重要性を学修	60
第11回 ／	基本指導技術（8） ①野球障害について レポート	・面接授業 ・講義形式 ・野球障害の説明	・野球障害に多い部位を学修しケガのない指導法を考察	60
第12回 ／	基本指導技術（9） ①作戦・戦術１ レポート	・面接授業 ・講義形式 ・ペアワーク ・グループワーク ・作戦戦術の課題発見解決	・ルールを把握しておく	30
第13回 ／	基本指導技術（10） ①作戦・戦術２ レポート	・面接授業 ・講義形式 ・ペアワーク ・グループワーク ・作戦戦術の課題発見解決	・ルールから考えられる作戦戦術を考察	30
第14回 ／	基本指導技術（11） ①ゲームプラン レポート	・面接授業 ・講義形式 ・ペアワーク ・グループワーク ・作戦戦術の課題発見解決	・ゲームの流れを考察	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSE31F089S	専門教育科目 スポーツ教育領域	教育心理学 Educational Psychology	２単位	選　択	講　義	１年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	教育心理学は，学校や家庭，さらに社会における人格の発達に及ぼす諸要因を心理学的に解明し，幼児・児童・生徒の心身の望ましい発達や人格形成を目指すものである。教育に関連する諸事象，教授・学習過程，評価，発達，人格・適応領域，並びに集団における人間関係や障がいのある子ども達への理解，発達心理学領域もその対象となる。また，人間そのものの本質を理解することは教育心理学の重要な課題の一つでもある。「人間とは？」「生きるとは？」これらの視点も含めて，広く教育心理学を学んでいくことを目的とする。
キーワード	教授・学習過程 評価 発達 人格 障がい 人間関係
学修教育目標	・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴が理解できる。 ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方が理解できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

教師になるために必要な心理学の理論を中心に学ぶ。本講義は教職関連課目であるため、15 回の授業を通して、授業態度や物事に取り組む姿勢についても身に着けていく必要がある。「教師になる」という高い目的意識が求められる科目であることを自覚して履修すること。
主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことが必須である。
事前に授業資料を公開するので、各自確認し印刷して授業に臨むこと。
さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「教育相談の基礎Ⅰ」と関係づけて学んでいくことで学びが深くなっていきます。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
プリント配布	書　名：『教育心理学』 著者名：米澤富士雄・足立正常・倉盛一郎（編著） 出版社：北大路書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	生徒の心の健康（望ましい発達や人格形成）に関する知識を身につけることができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	②　働きかけ力	集団や組織（チーム）の中でリーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）や組織を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。	△
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。	○
	②　計画力		
	③　創造力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探すことができる。	△
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力		
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		50						50	100
評価の指標	知識に関する評価	35							35
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	15						20	35
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価							5	5
	関心･意欲に関する評価							25	25

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
生徒の望ましい発達や人格形成に関する知識を十分に理解している。 生徒・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を十分に理解している。 各項目の理解度が 80%以上である。	生徒の望ましい発達や人格形成に関する知識を理解している。 生徒・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を理解している。 各項目の理解度が 60%～80%である。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション　- 教育心理学とは コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第２回 ／	発達と教育および発達の諸理論 - ハヴィガーストとエリクソンの発達課題 - コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第３回 ／	発達の諸理論 - ピアジェ・フロイト・ヴィゴツキーの理論 - コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第４回 ／	心身の発達（１） 幼児期から青年期における心身の発達の概要 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第５回 ／	心身の発達（２） 幼児期から青年期の運動発達、言語発達、認知発達及び社会性	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第６回 ／	心身の発達（３） 自己概念の発達と学校教育。社会性や道徳性の発達と学校教育 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第７回 ／	心身の発達（４） 障がいのある幼児･児童･生徒の心身の発達及び学習の過程 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第８回 ／	人格・個性・適応 生徒の人格形成や個性 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第９回 ／	学習のメカニズムと動機づけ（１） 主体的学習を促す効果的な学習法及び教授法 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第10回 ／	学習のメカニズムと動機づけ（２） 集団における人間関係、動機づけとやる気の持続 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第11回 ／	学習のメカニズムと動機づけ（３） 教育評価の種類と方法 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第12回 ／	学校文化 家庭での学習と学校での学習の違いと指導法 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第13回 ／	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（１） カウンセリングの知識と技法 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第14回 ／	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（２） 実践事例からみる指導法 コメントシート	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSE33F090S	専門教育科目 スポーツ教育領域	学校体育指導法 Instruction Method for School Physical Education	２単位	選　択	講　義	３年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	実習生として教育実習における授業を、多角的に考えることができる力と基礎的な授業実践力を身につける。 授業実践を参観するとともに、この経験をとおして授業、 あるいは学校や教師の仕事について理解する。

キーワード	教育実習 授業実践力	学修教育目標	教育実習生の服務や授業実践に必要な力を理解する。 授業実践に必要となる基礎的な知識・技能を身につける。

授業科目の概要及び学修上の助言

・適宜、レポートを課す。
・保健体育科の教員免許を真剣に取得したい学生が受講すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特に保健体育教科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、Ⅳ、学校体育指導法ほか教員免許状取得に関わる授業すべて

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：中学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名：文部科学省 出版社：株式会社 東山書房 書　名：高等学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名： 文部科学省 出版社：株式会社 東山書房	書　名：最新 学校体育経営ハンドブック 著者名：宇土正彦 他 出版社：大修館書店 書　名：体育科教育学入門 著者名： 高橋建夫・岡出美則 他 出版社：大修館書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	教育実習生として、指導の知識について理解できる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	教育実習生として、実習中における授業の実践力を身につける。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	仲間と協力する場面において、自ら積極的にコミュニケーションをとりながら学修ができる。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	時間や指示を厳守し、積極的に知識の習得に取り組むことができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	自分の課題解決のために積極的に取り組むことができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自分の役割と責任を判断し、主体的に学修に取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	目標達成に向けた働きかけをすることができる。	○
	③　実行力	自分に必要な目的を理解して設定し、チャレンジ精神で行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　問題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、適切な課題を発見することができる。	○
	②　計画力	課題解決に向けて、計画を立てて準備することができる。	○
	③　創造力	課題解決に向けて、新たな方法や解決策を考え出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	他者との話し合いの場面において、自分の意見を的確に伝えることができる。	○
	②　傾聴力	他者との話し合いの場面において、相手が話しやすい環境を作り相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③　柔軟性	自分の意見を持ちながら、相手の意見や立場の違いを理解して対応することができる。	○
	④　情況把握力	自分のできること・他人ができることを的確に判断して、行動することができる。	○
	⑤　規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束事・マナーを理解している。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスに対し、自己成長を促す機会と捉え、適切な対処方法を理解して行動することができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	△

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		45		35				20	100
評価の指標	知識に関する評価	25		5				10	40
	技能に関する評価	10		10					20
	応用力に関する評価	10		10					20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価			10				10	20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
授業実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。 教育実習生としてのものの見方、考え方に関心を持つとともに、学校教師になるための各自の課題を主体的に考えることができる。 学校教師の授業実践に必要な力について理解できる。また、授業実践に必要な基礎的な知識を理解し、実践できる。	授業実践に必要な技能の基礎を身につけることができる。 実習生としてのものの見方、考え方に関心をもつとともに、学校教師になるための各自の課題を見つけることができる。 学校教師の授業実践に必要な力について理解する。また、授業実践に必要な基礎的な知識を理解する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ① 授業の進め方 ・内容について説明、受講に際しての留意点 コメントシート	講義と質疑 面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	30
第 2 回 ／	保健体育教師には何が期待されているか コメントシート	講義 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
第 3 回 ／	保健体育教員の資質・能力 コメントシート	講義・グループワーク 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
第 4 回 ／	実技授業の準備について コメントシート	講義・グループワーク 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
第 5 回 ／	体育授業管理-1 コメントシート	講義 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
第 6 回 ／	体育授業管理-2 コメントシート	講義 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
第 7 回 ／	体育用具の管理 コメントシート	講義 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
第 8 回 ／	体育実技における指導者の注意事項 コメントシート	講義とグループワーク 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
第 9 回 ／	授業に対する知識（トラック作成等） コメントシート	講義・演習 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
第 10 回 ／	部活動顧問として コメントシート	講義とグループワーク 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
第 11 回 ／	スクール・ハラスメント コメントシート	講義とグループワーク 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
第 12 回 ／	保護者対応 コメントシート	講義とグループワーク 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
第 13 回 ／	教育実習の取り組み方 コメントシート	講義とグループワーク 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
第 14 回 ／	期待される保健体育教師像とふりかえり コメントシート	講義とグループワーク 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSE32S091S	専門教育科目 スポーツ教育領域	保健体育科教育法Ⅰ Teaching Method for Health and Physical Education Ⅰ	２単位	選　択	講　義	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	わが国における体育授業の変遷に触れ、体育科の目的、内容、方法について理解するとともに、学習指導要領の理解を深め、生徒に応じた適切な指導をするために必要な基礎的知識について体得することを目的とする。
キーワード	保健体育科の目標、内容、方法 学習指導理論
学修教育目標	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質･能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業科目の概要及び学修上の助言

1．保健体育科の理念の変遷と学習指導要領の目標、内容、方法及び生徒の発達課題について理解する。
2．各領域における内容と指導上の留意点を理解する。
3．指導案の作成の留意点と作成の手順を理解する。
4．保健体育科教諭を目指す学生としての心構え・姿勢など望ましい態度を養う。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

運動生理学、教育学、スポーツ科学との関連
運動種目の特性と指導方法との関連、生徒の成長発達の基礎知識

教　科　書	参考書･リザーブドブック
書　名：『中学校学習指導要領解説　保健体育編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 書　名：『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 書　名：『教職を目指す学生必携　保健体育科教育法』 著者名：杉山重利、高橋健夫、園山和夫 出版社：大修館書店 【テキストは、保健体育科教育法Ⅱと共通】	書　名：『新版　体育科教育学入門』 著者名：高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖 出版社：大修館書店 書　名：『めざそう！保健体育教師』 著者名：杉山重利、佐藤豊、園山和夫 出版社：朝日出版社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	保健体育科教育法の基盤となる健康・スポーツに関する基礎知識を理解する。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	健康・スポーツに関する実技実践力の基盤となる指導方法を理解する。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	対人的コミュニケーションスキルの基礎を理解する	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	保健体育科教諭としての使命感、安全確保などの責任感、並びに個人情報や特別な支援を有する子への合理的配慮などの倫理観を身に付ける。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	保健体育科教育法の知識や技能を実習などの教育現場において計画的に活用することができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	◎
	②　働きかけ力		
	③　実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　問題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。	○
	②　計画力	課題の解決に向けた具体的･実践的な方法を明らかにすることができる。	◎
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	○
	②　傾聴力		
	③　柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	◎
	④　情況把握力	自分と周囲の人々や物事との情況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	○
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（コメントシート等）	合　計
総合評価割合		50		40				10	100
評価の指標	知識に関する評価	50		20					70
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価			20					20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価							10	10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
１．講義内容を配布のレジメにまとめる。さらに自分のコメントを書き込める。 ２．調べ学習では積極的に行動する。さらに調べたことを発表することができる。	１．講義内容を配布のレジメにまとめる。 ２．調べ学習では積極的に行動する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション ー体育教師の資質と役割 ノートの点検と観察	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
第２回 ／	保健体育科の領域と役割 ー保健体育科教育学とは何か ー保健体育科授業を取り巻く制度的条件 ノートの点検と観察	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
第３回 ／	保健体育科の歴史 ー保健体育科の成立と変遷 （身体の教育、身体活動を通しての教育、運動の中の教育） ノートの点検と観察	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
第４回 ／	体育の目標 ー学校教育の目標と保健体育科の目標との関連 ー学習指導要領における目標について ノートの点検と観察	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
第５回 ／	体育の内容 ー戦後の内容領域編成の変遷 ー学習指導要領における内容について ノートの点検と観察	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
第６回 ／	体育科の教材・教具論と教材研究と情報機器の活用法 ー「よい教材」とは何か？ ー教材づくりの過程と内容的・方法的視点と情報機器の活用 ノートの点検と観察	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
第７回 ／	体育科の学習指導論 ー直接的指導と間接的指導 ー指導スタイルの連続体モデル ノートの点検と観察	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
第８回 ／	体育科の学習形態論 ー一斉学習、班別学習、グループ学習、個別学習 ノートの点検と協働学習の観察	面接授業（講義法と調べ学習）	資料の収集と整理	30
第９回 ／	体育科の学習過程論 ー系統学習、プログラム学習 ースパイラル型、ステージ型の学習過程 ー学習段階での指導 ノートの点検と協働学習の観察	面接授業（講義法と調べ学習）	資料の収集と整理	30
第 10 回 ／	体育科の指導技術論 ー教授方略、教授方術 ー教授技術（マネジメント技術、相互作用技術）	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
第 11 回 ／	体育科の学習評価 ー評価の目的と内容について ー評価の観点について ノートの点検と協働学習の観察	面接授業（講義法と調べ学習）	資料の収集と整理	30
第 12 回 ／	指導計画案の作成① ー年間指導計画案の考え方 ノートの点検と観察	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
第 13 回 ／	指導計画案の作成② ー単元計画の考え方 ノートの点検と観察	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
第 14 回 ／	指導計画案の作成③ ー単位時間計画（指導案）の考え方 ノートの点検と観察	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSE32F092S	専門教育科目 スポーツ教育領域	保健体育科教育法Ⅱ Teaching Method for Health and Physical Education Ⅱ	２単位	選　択	講　義	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	わが国における体育授業の変遷に触れ、体育科の目的、内容、方法について理解するとともに、学習指導要領の理解を深め、生徒に応じた適切な指導をするために必要な基礎的知識について体得することを目的とする。
キーワード	各領域の内容、指導計画 学習指導要領
学修教育目標	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質･能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業科目の概要及び学修上の助言

１．学習指導要領に示す各領域の目標、内容、方法及び生徒の発達課題について理解する。
２．各領域における内容と指導上の留意点を理解する。
３．指導案の作成の留意点と作成の手順を理解する。
４．保健体育科教諭を目指す学生としての心構え・姿勢など望ましい態度を養う。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

保健体育科教育法１との関連を踏まえ各運動種目の特性と指導方法及び生徒の成長発達の基礎知識

教　科　書	参考書･リザーブドブック
書　名：『中学校学習指導要領解説　保健体育編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 書　名：『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 書　名：『教職を目指す学生必携　保健体育科教育法』 著者名：杉山重利、高橋健夫、園山和夫 出版社：大修館書店 【テキストは、保健体育科教育法Ⅰと共通】	書　名：『新版　体育科教育学入門』 著者名：高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖 出版社：大修館書店 書　名：『めざそう！保健体育教師』 著者名：杉山重利、佐藤豊、園山和夫 出版社：朝日出版社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	保健体育科教育法Ⅱの基盤となる健康・スポーツに関する指導における専門知識を理解する。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	健康・スポーツに関する各種目における実技実践力の基盤となる指導方法を理解する。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	対人的コミュニケーションスキルにおける合理的配慮についての基礎を理解する	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	保健体育科教諭としての使命感、安全確保などの責任感、並びに個人情報や特別な支援を有する子への合理的配慮などの倫理観を身に付ける。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	保健体育科教育法の知識や技能を実習などの教育現場において計画的に活用することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	◎
	②　働きかけ力		
	③　実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　問題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。	○
	②　計画力	課題の解決に向けた具体的･実践的な方法を明らかにすることができる。	◎
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	○
	②　傾聴力		
	③　柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	○
	④　情況把握力	自分と周囲の人々や物事との情況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	◎
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（コメントシート等）	合　計
総合評価割合		50		40				10	100
評価の指標	知識に関する評価	50		20					70
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価			20					20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価							10	10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
１．講義内容を配布のレジメにまとめる。さらに自分のコメントを書き込める。 ２．調べ学習では積極的に行動する。さらに調べたことを発表することができる。	１．講義内容を配布のレジメにまとめる。 ２．調べ学習では積極的に行動する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション 　- 学習指導要領（保健体育科）の「生きる力」の視点からの目標と内容について ノート点検と観察	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
第２回 ／	体育分野の教材研究、情報機器の活用法と指導案の作成（１） 　－各運動領域の運動の特性、考え方について 　－学習指導のポイントについて　体つくり運動 ノート点検と観察	面接授業（講義と協働学習）	資料の収集と整理	30
第３回 ／	体育分野の教材研究、情報機器の活用法と指導案の作成（２） 　－学習指導のポイントについて　器械運動 ノート点検と観察	面接授業（講義と協働学習）	資料の収集と整理	30
第４回 ／	体育分野の教材研究、情報機器の活用法と指導案の作成（３） 　－学習指導のポイントについて　陸上競技 ノート点検と観察	面接授業（講義と協働学習）	資料の収集と整理	30
第５回 ／	体育分野の教材研究、情報機器の活用法と指導案の作成（４） 　－学習指導のポイントについて　水泳 ノート点検と観察	面接授業（講義と協働学習）	資料の収集と整理	30
第６回 ／	体育分野の教材研究、情報機器の活用法と指導案の作成（５） 　－学習指導のポイントについて　球技 ノート点検と観察	面接授業（講義と協働学習）	資料の収集と整理	30
第７回 ／	体育分野の教材研究、情報機器の活用法と指導案の作成（６） 　－学習指導のポイントについて　武道１（基本動作） ノート点検と観察	面接授業（講義と協働学習）	資料の収集と整理	30
第８回 ／	体育分野の教材研究、情報機器の活用法と指導案の作成（７） 　－学習指導のポイントについて　武道２（基本となる技） ノート点検と観察	面接授業（講義と協働学習）	資料の収集と整理	30
第９回 ／	体育分野の教材研究、情報機器の活用法と指導案の作成（８） 　－学習指導のポイントについて　ダンス ノート点検と観察	面接授業（講義と協働学習）	資料の収集と整理	30
第10回 ／	体育分野の教材研究、情報機器の活用法と指導案の作成（９） 　－学習指導のポイントについて　体育理論 ノート点検と観察	面接授業（講義と協働学習）	資料の収集と整理	30
第11回 ／	保健分野の教材研究、情報機器の活用法と指導案の作成（１） 　－学習指導のポイントについて（健康な生活と疾病の予防と心身の機能の発達と心の健康） ノート点検と観察	面接授業（講義と協働学習）	資料の収集と整理	30
第12回 ／	保健分野の教材研究、情報機器の活用法と指導案の作成（２） 　－学習指導のポイントについて（傷害の防止と健康と環境） ノート点検と観察	面接授業（講義と協働学習）	資料の収集と整理	30
第13回 ／	模擬授業（と事後の研究協議）（１） 　－体育分野の中から選択 ノート点検と観察	面接授業（講義と協働学習）	資料の収集と整理	30
第14回 ／	模擬授業（と事後の研究協議）（２） 　－保健分野の中から選択 ノート点検と観察	面接授業（講義と協働学習）	資料の収集と整理	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSE33S101S	専門教育科目 スポーツ教育領域	保健体育科教育法Ⅲ Teaching Method for Health and Physical Education Ⅲ	２単位	選　択	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	・教育実習ならび授業での実践を見据えて、保健体育科教育の理論をもとに「保健における学習指導案」の作成と模擬授業を行なうことを目的とする。
キーワード	保健体育科学習指導案 学修目標に対する指導と評価 教材研究
学修教育目標	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業科目の概要及び学修上の助言

・受講者の「学習指導案」作成とそれに基づいた模擬授業、および受講者全員参加の質疑応答で進める。
・保健体育科の教員免許を真剣に取得したい学生が受講すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特に保健体育教科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、学校体育指導法
ほか教員免許状取得に関わる授業すべて

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：中学校学習指導要領解説 保健体育編	書　名：最新体育科教育法
著者名：文部科学省	著者名：杉山重利・園山和夫
出版社：東山書房	出版社：大修館書店
書　名：高等学校学習指導要領解説 保健体育編	書　名：体育科教育学入門
著者名：文部科学省	著者名：高橋建夫・岡出美則他
出版社：東山書房	出版社：大修館書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	学習指導要領に基づいた単元目標を設定できる。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	単元目標に基づき、単元計画や本時のねらいを設定し、学習指導案を作成できる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	教師にふさわしい言動で対応することができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1.一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	不明確な点や授業内に生じた課題を、主体的に解決することができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	学修内容を理解・定着すべく、予習・復習を行うことができる。	○
2.あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 問題発見力	自らあるいは他者が実施する模擬授業の問題点を考察し、改善点を提案できる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	これまでに得た知識を複合し、効果的な指導内容を発案することができる。	◎
3.チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自らの意見・考えを合理的に説明することができる。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 情況把握力	他者とともに、より効果的な指導内容を検討する。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4.倫理観	① 倫理性	TPOに応じた言動で適切なコミュニケーションを図ることができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50		20	20			10	100
評価の指標	知識に関する評価	40		20	10				70
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	10							10
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価				10				10
	関心･意欲に関する評価							10	10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
・保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解している。 ・学習指導要領に示された学習内容について理解している。 ・様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行うことができる。 上記項目に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。	・保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解している。 ・学習指導要領に示された学習内容について理解している。 ・様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行うことができる。 上記項目に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断できる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション 保健体育の意義	講義 面接授業	復習：保健体育科の授業の意義を復習する。 予習：心身の機能の発達と心の健康・健康と環境について予習する。	60
第２回 ／	保健分野［Ⅰ］ 心身の機能の発達と心の健康・健康と環境	講義 面接授業	復習：心身の機能の発達と心の健康・健康と環境について復習する。 予習：傷害の防止・健康な生活と疾病の予防について予習する。	60
第３回 ／	保健分野［Ⅱ］ 傷害の防止・健康な生活と疾病の予防	講義 面接授業	復習：傷害の防止・健康な生活と疾病の予防について復習する。 予習：現代社会と健康について予習する。	60
第４回 ／	保健分野［Ⅲ］ 現代社会と健康	講義 面接授業	復習：現代社会と健康について復習する。 予習：生涯を通じる健康・社会生活と健康について予習する。	60
第５回 ／	保健分野［Ⅳ］ 生涯を通じる健康・社会生活と健康	講義 面接授業	復習：生涯を通じる健康・社会生活と健康について復習する。 予習：学習指導案の執筆方法について予習する。	60
第６回 ／	学習指導案の説明 目的・作成法	講義 面接授業	復習：学習指導案の目的および作成方法について復習する。 予習：模擬授業実施に向けた教材研究を行う。	60
第７回 ／	学習指導案の作成法 指定された内容に即した模擬授業の指導案作成手順	講義 面接授業	復習：学習指導案の作成方法について復習する。 予習：模擬授業実施に向けた教材研究を行う。	60
第８回 ／	学習指導案の作成 指定された内容に即した模擬授業用の指導案の作成	講義 面接授業	復習：学習指導案の作成方法について復習する。 予習：模擬授業実施に向けた教材研究を行う。	60
第９回 ／	模擬授業１（心身の機能と発達） 作成した指導案に基づき、授業の実施	講義 グループワーク（模擬授業） 面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第10回 ／	模擬授業２（心の健康・健康と環境） 指導案に基づき、授業の実施	講義 グループワーク（模擬授業） 面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第11回 ／	模擬授業３（障害の防止・健康な生活） 作成した指導案に基づき、授業の実施	講義 グループワーク（模擬授業） 面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第12回 ／	模擬授業４（疾病の予防） 作成した指導案に基づき、授業の実施	講義 グループワーク（模擬授業） 面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第13回 ／	模擬授業５（現代社会と健康） 作成した指導案に基づき、授業の実施	講義 グループワーク（模擬授業） 面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第14回 ／	模擬授業６（生涯を通じる健康・社会生活と健康） 作成した指導案に基づき、授業の実施 指導案提出・講評とまとめ	講義 グループワーク（模擬授業） 面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSE33F102S	専門教育科目 スポーツ教育領域	保健体育科教育法Ⅳ Teaching Method for Health and Physical Education Ⅳ	２単位	選　択	講　義	３年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	・教育職員免許法施行規定に定められた「教職に関する科目」の「教科及び教科の指導法に関する科目」に対応する教職課程の選択科目である。 ・教育実習ならびに授業での実践を見据えて、保健体育科教育の理論を理解させ、「体育実技における学習指導案」の作成と模擬授業を行なうことを目的とする。
キーワード	保健体育科学習指導案 学修目標に対する指導と評価 教材研究
学修教育目標	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業科目の概要及び学修上の助言

・受講者の保健体育の実技における「学習指導案」作成とそれに基づいた模擬授業、および受講者全員参加の質疑応答で進める。
・適宜、レポートを課す。
・保健体育科の教員免許を真剣に取得したい学生が受講すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特に保健体育教科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、学校体育指導法
ほか教員免許状取得に関わる授業すべて

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：中学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名：　文部科学省 出版社：株式会社 東山書房 書　名：高等学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名：　文部科学省 出版社：株式会社 東山書房	書　名：最新体育科教育法 著者名：　杉山重利・園山和夫 出版社：大修館書店 書　名：体育科教育学入門 著者名：　高橋建夫・岡出美則他 出版社：大修館書店 書　名：最新 学校体育経営ハンドブック 著者名：　宇土正彦他 出版社：大修館書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	学習指導要領に基づいた単元目標を設定できる。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	単元目標に基づき、単元計画や本時のねらいを設定し、学習指導案を作成できる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	時間や指示を厳守し、積極的に知識の習得に取り組むことができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	自分の課題解決のために積極的に取り組むことができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	不明確な点や授業内に生じた課題を、主体的に解決することができる。	○
	②　働きかけ力	目標達成に向けた働きかけをすることができる。	○
	③　実行力	自分に必要な知識を定着させることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　問題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、適切な課題を発見し、改善することができる。	◎
	②　計画力	課題解決に向けて、計画を立てて準備することができる	○
	③　創造力	これまでに得た知識を複合し、効果的な指導内容を発案することができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見・考え方を的確に伝えることができる。	○
	②　傾聴力	他者との話し合いの場面において、相手が話しやすい環境を作り相手の意見を引き出すことができる。	○
	③　柔軟性	自分の意見を持ちながら、相手の意見や立場の違いを理解して対応することができる。	○
	④　情況把握力	他者とともに、より効果的な指導内容を検討する。	○
	⑤　規律性	最低限守らなければならないルールや約束事・マナーを理解している。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスに対し、自己成長を促す機会と捉え、適切な対処方法を理解して行動することができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合		45		25	20			10	100
評価の指標	知識に関する評価	35		25	10				70
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	10			10				20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心･意欲に関する評価							10	10

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
・保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解している。 ・学習指導要領に示された学習内容について理解している。 ・様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行うことができる。 上記項目に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。	・保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解している。 ・学習指導要領に示された学習内容について理解している。 ・様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行うことができる。 上記項目に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断できる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 保健体育の意義	講義　面接授業	復習：授業内容に関する小レポート	30
第 2 回 ／	よりよい体育授業を目指して 教材研究のポイント・指導案の作成	講義　面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	60
第 3 回 ／	体育実技における指導者の役割 服装、姿勢、立ち位置、発声、示範	講義・グループワーク　面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	60
第 4 回 ／	模擬授業（体育分野） 4 回～14 回までは、受講者各自が作成した指導案に基づき、模擬授業を実施する。（グラウンドまたは体育館で実施する。）	講義・演習　面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第 5 回 ／	模擬授業 1（体育分野：体つくり運動） 作成した指導案に基づき、授業の実施	講義・演習　面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第 6 回 ／	模擬授業 2（体育分野：器械運動） 作成した指導案に基づき、授業の実施	講義・演習　面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第 7 回 ／	模擬授業 3（体育分野：陸上競技・短距離走、跳躍） 作成した指導案に基づき、授業の実施	講義・演習　面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第 8 回 ／	模擬授業 4（体育分野：陸上競技・投てき） 作成した指導案に基づき、授業の実施	講義・演習　面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第 9 回 ／	模擬授業 5（体育分野：水泳） 作成した指導案に基づき、授業の実施	講義・演習　面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第 10 回 ／	模擬授業 6（体育分野：球技・ゴール型） 作成した指導案に基づき、授業の実施	講義・演習　面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第 11 回 ／	模擬授業 7（体育分野：球技・ネット型） 作成した指導案に基づき、授業の実施	講義・演習　面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第 12 回 ／	模擬授業 8（体育分野：球技・ベースボール型） 作成した指導案に基づき、授業の実施	講義・演習　面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第 13 回 ／	模擬授業 9（体育分野：武道） 作成した指導案に基づき、授業の実施	講義・演習　面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。	60
第 14 回 ／	模擬授業 10（体育分野：ダンス） 作成した指導案に基づき、授業の実施 指導案提出・講評とまとめ	講義・演習　面接授業	復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 復習：保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を整理するとともに、学習指導に必要な計画の立案方法を復習する。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF31S110S	専門教育科目 キャリア形成領域	表現入門 Introduction to Japanese Expression	２単位	選　択	講　義	１年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	国際化、情報化時代における国語学習である。学生が日本文化全体を含めた日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。高等学校において既に学習しているはずの文字や文章にかかわる項目以外に、口語（音声）表現における敬語等待遇表現などの基本的な知識をも整理復習して、さらにその活用方法を学ぶ。その他、就職活動に不可欠な履歴書・エントリーシートなども扱い、自己を正確に分析する能力をも身につける。
キーワード	国語常識
学修教育目標	学生が日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につけることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

教科書に沿って逐次問題演習をしていくので、必ず教科書を持参して授業に臨むこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：キャリアアップ国語表現法 21 訂版 著者名：丸山顕徳、その他 出版社：嵯峨野書院	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	発信力をつけたり、問題解決能力など社会で必要な基本的な力を養う。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	○
	③　実行力	実際に解答を板書して他者の同意を求める。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。	◎
	②　計画力	課題の解決に向けた具体的･実践的な方法を明らかにすることができる。	△
	③　創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	△
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	○
	②　傾聴力	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。	◎
	③　柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	○
	④　情況把握力	自分と周囲の人々や物事との情況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	◎
	⑤　規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	相手の意思決定や権利を守りながら行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総合評価割合		59			35			6	100
評価の指標	知識に関する評価	40			30				70
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	9							9
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価							6	6
	関心・意欲に関する評価	10			5				15

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
国語常識として必要な殆どすべての知識を身につけることができた。	国語常識としてよく使われる知識については修得できた。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	面接授業・　授業ガイダンス　就職試験（国語常識）との関係。 問題演習	面接授業・講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第２回 ／	教科書の第３課「同訓異義語」の問題 問題演習	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第３回 ／	教科書の第４課「音訓と熟語」の問題 問題演習	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第４回 ／	教科書の第５課「熟語の構造」の問題 問題演習	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第５回 ／	面接授業・第３課、４課、第５課の解答合わせと教科書の 第６課「四字熟語」の問題 問題演習	面接授業・教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第６回 ／	教科書の第７課「仮名遣いと送り仮名」の問題 問題演習	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第７回 ／	教科書の第 13 課「レトリック」の問題 問題演習	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第８回 ／	教科書の第 14 課「慣用表現の誤用」の問題 問題演習	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第９回 ／	面接授業・第７課、第 13 課、第 14 課の解答合わせと教科書の 第 26 課「待遇表現①」の問題	面接授業・教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第 10 回 ／	教科書の第 27 課「待遇表現②」の問題 問題演習	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第 11 回 ／	教科書の第 28 課「接客・電話の対応」の問題 問題演習	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第 12 回 ／	教科書の第８課「文のしくみ」の問題 問題演習	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第 13 回 ／	面接授業・第 27 課、第 28 課、第８課の解答合わせと第９課「文章構成」の「基本問題」のみ 問題演習	面接授業・教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第 14 回 ／	面接授業・提出物を確認し、質問を受けプリントの問題をする	面接授業・プリントの問題をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF31F111S	専門教育科目 キャリア形成領域	文章作成法 Japanese Composition	２単位	選　択	講　義	１年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	国語の表現力を鍛えることは、知性や感性を磨き豊かな日常生活を送るために不可欠である。日本語表現に関する特質を学び、社会人として必要な文章表現能力を涵養する。現代社会における複雑な人間関係の中で積極的であるために、的確な表現力を身に付け、正確に自己の考えを相手に伝達できるコミュニケーション能力を養う。 目標として、社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身に付けることを目指す。

キーワード	適確な表現力・コミュニケーション能力	学修教育目標	社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身につけることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

（概要）書くことに慣れ、短文を重ねることで長文が書けるようにする。
（助言）毎時間の学修の復習と、課題作文等に対し継続して取り組むこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

（関連）他教科でのレポート等の課題に取り組む時に、本科目で学習した文章表現力を生かし、短文を重ねて表現することができる。
（予備知識）要約する力。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：実戦・日本語の技術 著者名：本多勝一 出版社：朝日新聞出版	書　名：大学生のための日本語表現トレーニング 著者名：安部　朋世　他 出版社：三省堂

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	社会人として必要な文章表現能力を涵養する。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身に付ける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	表現したい事柄に自ら気づくことができるようにする。	○
	②　働きかけ力		
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力		
	②　計画力		
	③　創造力	書きたい内容を取材し、どのように構成すればよいのか考えることができるようにする。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力	他人が書いた文章の、よさを見つけたり、私ならこう書くという批評的な観点から文章を読んだり、聞いたりすることができる。	◎
	③　柔軟性		
	④　情況把握力		
	⑤　規律性	正確に自己の考えを相手に伝達できるコミュニケーション能力を養うために、助言や指摘をきちんと受け止め、校正することができる。	○
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（コメントシート等）	合　計
総　合　評　価　割　合		50	20			30			100
評価の指標	知識に関する評価	10	4			6			20
	技能に関する評価	10	4			6			20
	応用力に関する評価	10	4			6			20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価	10	4			6			20
	関心・意欲に関する評価	10	4			6			20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身につけることができた。	受講前と比して、表現力やコミュニケーション能力を高めることができた。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	授業ガイダンス。(事前・社会人基礎力含む) 実際に書いてみる。(実践演習①) 授業のすすめ方と科目の必要性について。現地点での自分自身の文章力を知る。 学修の進め方を理解し、本時の作文課題「私の 100 長所」について、長所 50 カ所以上を記述できている。	対面授業 講義と演習(作文)	「自分の長所」をできるだけ多く書き出してくる。 (A4 用紙を縦長使用。「私の長所」と題を付けて、学籍番号・名前・授業日を記入 し、授業日に持参の上授業終了時に提出。)	30
第２回 ／	原稿用紙の使い方。「どう校正するか」という課題を通して基本的な原稿用紙の使用方法について復習する。 演習(作文)を通して正しく原稿用紙が使えている。	対面授業 講義と演習(作文)	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 7・欠陥文をどう直すか 復習	30
第３回 ／	文章力自己点検（１）短文の誤りを訂正する 仮名遣い・送り仮名・句読点・文のねじれに着目して訂正できる。	対面授業 講義と演習(作文)	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 2・「わかりやすい」ということ 復習	40
第４回 ／	文章力自己点検（２）文章力自己点検 漢字の使い分け・見やすい表記・あいまいな文に着目して訂正できる。	対面授業 講義と演習(作文)	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 4・「就職の順序」 復習	40
第５回 ／	コミュニケーション能力を磨く 放送局関係者（アナウンサー）の講義に関心を持って参加できる。	対面授業 外部講師による講義	入社試験を想定した自己アピール作文を４００字で記述してくる。 （授業日に持参の上授業開始前に提出。）	40
第６回 ／	公募作品に挑戦（１） 新聞、雑誌等の公募作品の与えられた課題に取り組もうとする。	対面授業 講義と演習(作文)	TGU e-Learning システムに提示した課題（作文）のプロットを記述してくる。	30
第７回 ／	演習Ⅰ(1)　文章一般 文章を書く時「結論を先に述べる」ことに留意する必要があることが理解できる。	対面授業 講義と演習(作文)	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 3・かかる言葉と受ける言葉 復習	30
第８回 ／	演習Ⅰ学生が教える（１） 予習に基づいて内容を他の学生に伝える（教える）ことができる。	対面授業 演習（教える）と講義	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 2・「わかりやすい」ということ を元に演習できるよう予習しておく	60
第９回 ／	課題別演習Ⅱ(1)　レポート レポートの書き方の要点が理解できる。	対面授業 講義と演習(作文)	参考書「大学生のための日本語表現トレーニング」 ドリル編第 21 章「レポートの構成」ｐ65～66 予習 （授業日に持参の上授業開始前に提出。）	30
第 10 回 ／	課題別演習Ⅱ(2)　論文・評論文・エッセイ 論文の書き方の要点が理解できる。	対面授業 講義と演習(作文)	公募作文として 600 字の「評論文」または「エッセイ」に取り組む。(具体課題は第 8 回授業日に指示)	40
第 11 回 ／	課題別演習Ⅱ(3)　説明文・報道文 説明文の書き方の要点が理解できる。	対面授業 講義と演習(作文)	1 週間の間の新聞記事の中から 1 編を選んで、報道文の書き方 600 字レポート （授業日に持参の上授業終了後に提出。）	40
第 12 回 ／	演習Ⅲ　敬意を表す表現 敬語の使い方を理解できる。(就職試験にチャレンジ)	対面授業 講義と演習	TGU e-Learning システムに添付した就職試験問題に取り組む。	30
第 13 回 ／	各自作文・小論文の実践演習（実践演習②） 書き直しすることによって分かりやすい文章が書ける。	対面授業 講義と演習(作文)	第 1 回授業で書いた「私の長所」のどこを直したいのか直したい部分に下線を引いて持ってくる。 （授業日に持参の上授業終了後に提出。）	20
第 14 回 ／	（実践演習③ー創作ー）（事後・社会人基礎力含む） 他人が書いた作品(文章)のよさを見つけることができる。	対面授業 講義と演習(作文)	公募作品の朗読練習をしておく。	10

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S103S	専門教育科目 キャリア形成領域	プレゼンテーション演習 Presentation Exercise	１単位	選　択	演　習	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	情報化の時代になり日常生活においてもビジネス社会においても積極的な自己表現を行う機会が増えてきている。プレゼンテーションとは人（自分自身）を通して聞き手に情報を正確に伝えようとすることである。その方法を具体的に修得するのがこの授業の目的である。

キーワード	説明のプレゼンテーション 自己表現 情報伝達	学修教育目標	この授業ではわかりやすいプレゼンテーションを行うための基本的な態度や能力を身につけることを目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

プレゼンテーションの意義、目的を明確にした上で、構成作り、話し方の技術、見やすい資料の作り方を学ぶ。また発表内容を相手に効果的に伝えるために口頭表現、身体表現の演習を行う。演習は個人またはグループで発表を行うことが中心となる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

プレゼンテーションを行う全ての授業の基礎となります。コンピュータの基本スキルは必要です。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	説明のプレゼンテーションの技法を身につけることができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	問題意識を持ち、授業に積極的に参加できる。	◎
	②　働きかけ力	グループワークなど他の学生と協力することができる。	○
	③　実行力	率先してグループワークに参加できる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力		
	②　計画力		
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の考えやグループワークの結果を他の学生に説明できる。	◎
	②　傾聴力	他の学生の考えを聞き、理解することができる。	◎
	③　柔軟性		
	④　情況把握力	グループワークにおいて周囲の状況を把握して自分の行動をコントロールできる。	○
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評価方法 / 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作　品（成果物）	ポートフォリオ	その他（コメントシート等）	合　計
総合評価割合		45		30	20			5	100
評価の指標	知識に関する評価	5		5					10
	技能に関する評価	20		5	10				35
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価	10		10	5				25
	関心・意欲に関する評価	10		10	5			5	30

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
説明のプレゼンテーションができるだけでなく、グループワークにおいては周囲の状況に配慮して他の学生と協力することができる。	説明のプレゼンテーションを行い、伝えるべき情報を的確に伝えることができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	オリエンテーション（プレゼンテーションの意義と目的、授業の流れ、グループ分け） 　プレゼンテーションとは何か。その意義と必要性を明確にし、授業の流れを説明する。 課題	講義と実習（面接授業）※ ※すべての回において面接授業を基本としますが、受講人数や感染状況で課題提出となる場合があります。	課題の完成と Word の基本操作の復習	60
第２回 ／	自己紹介のプレゼンテーション 　実際にプレゼンテーションを行ってみる。まずは自己紹介から。 発表と課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成と前回の課題のやり直し	60
第３回 ／	テーマの選び方 　効果的なストーリー作りを演習を通して行い、テーマに関して自分の考えをまとめる。 発表と課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成と前回の課題のやり直し	60
第４回 ／	構成づくり　ーマインドマップの作り方ー 　プレゼンテーションの骨格となる構成づくりについて、与えられた課題と情報から実際に組み立てる過程を実習する。 課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第５回 ／	構成づくり　ーマインドマップを使ってみるー 　プレゼンテーションの骨格となる構成づくりについて、与えられた課題と情報から実際に組み立てる過程を実習する。 グループワークと課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第６回 ／	言語表現（言葉の使い方と言いまわし）と非言語表現（発表に必要な言語以外の要素）　ー構成の完成度と言葉の関係ー 　プレゼンテーションでは内容と同時に伝え方、すなわち表現技術も重要である。言語表現、非言語表現を中心に話し方の技術を演習する。 課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第７回 ／	言語表現（言葉の使い方と言いまわし）と非言語表現（発表に必要な言語以外の要素）　ー敬語についてー 　プレゼンテーションでは内容と同時に伝え方、すなわち表現技術も重要である。言語表現、非言語表現を中心に話し方の技術を演習する。 課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第８回 ／	言語表現（言葉の使い方と言いまわし）と非言語表現（発表に必要な言語以外の要素）　ーうまく伝えるにはー 　プレゼンテーションでは内容と同時に伝え方、すなわち表現技術も重要である。言語表現、非言語表現を中心に話し方の技術を演習する。 発表と課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第９回 ／	発表のための環境（効果的な発表を行うための環境） 　態度、身振り以外の要素である服装や環境について効果的な方法を探る。 課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第10回 ／	資料の作り方（コンピュータを用いた資料作成）　ー初級編ー Power　Point を用いて発表資料作成を行う。 発表と課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第11回 ／	資料の作り方（コンピュータを用いた資料作成）　ー中級編ー Power　Point を用いて発表資料作成を行う。 発表と課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第12回 ／	資料の作り方（コンピュータを用いた資料作成）　ー応用編ー Power　Point を用いて発表資料作成を行う。 発表と課題	講義と実習（面接授業）※	課題の完成	60
第13回 ／	総合演習（説明のプレゼンテーション実習）　ー発表準備ー 　与えられた課題を他のグループにわかりやすく説明するプレゼンテーションを行う。 課題	実習（面接授業）※	課題の完成	60
第14回 ／	総合演習（説得のプレゼンテーション実習）　ー発表と振り返りー 　バーチャル・フリーマーケットを行い、説得型のプレゼンテーションを行う。 発表と課題	実習（面接授業）※	課題の完成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S112S	専門教育科目 キャリア形成領域	介護概論 Introduction to Care	２単位	選　択	講　義	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	教員資格を目指すにあたり、事前課題である「介護等体験」を理解し現場での実習をスムーズに実施できることを主目的とする。社会福祉施設や特別支援学校における支援内容・方法について考え、演習を通して、教育者に必要な姿勢や考え方を養う。本講義では、高齢者介護の知識や介護技術を中心に介護体験がより良く行えるよう、また、実習の意義や必要性についての理解を深める。

キーワード	高齢者介護　利用者理解　実習の意義　実習態度	学修教育目標	社会福祉施設および特別支援学校における介護等体験の意義や体験内容を理解し、実習にあたっての自身の心構えや学びたい目標を事前に準備をすることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

介護等体験で関わる高齢者や障害のある人について、置かれた状況や必要とする支援内容、また、日常生活を営む上で、その人の有する能力を活用し、その人らしい生活を営めるよう支援するための原理原則について、講義、ワークを通じて基礎知識の習得と定着をはかる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

新聞および各種メディアの報道に関心を持ち、特に福祉・介護等生活領域での問題やトピックスを理解するよう心がける。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
書　名：改訂　人にやさしい介護技術 著者名：野村　敬子　編著 出版社：中央法規	単元ごとにレジュメと参考資料を配布します。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	介護は生活の場であることから健康の概念を知り、事故が予測できる能力が求められ、介護技術を応用出来る知識を身につける。	○
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	高齢者、障がい者スポーツの知識を応用して生活の維持向上のためのレクリエーションを理論と実践力で活用できる。	○
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	豊かな倫理観と人間力を発揮し、チームワークや信頼関係を身につける能力の必要性を学ぶ。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	介護を必要とする人の生活のしづらさを理解し、相手の立場に立って必要な支援を考えることができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	他の専門知識に介護の専門的知識を重ね、高齢者、障がい者の生活課題を健康行動から考え生きやすさを学ぶ。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。	○
	②　働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	○
	③　実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。	○
	②　計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	○
	③　創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。	○
	②　傾聴力	相手の話をしっかり聴き、思いや願いを理解することができる。	○
	③　柔軟性	その場の状況に合わせた援助方法を選択し、実施できる。	○
	④　情況把握力	冷静かつ客観的に必要な情報を収集することができる。	○
	⑤　規律性	ルールを守り与えられた役割について責任をもって遂行することができる。	○
	⑥　ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。	△
4. 倫理観	①　倫理性	いかなる状況であっても人としての尊厳をまもり、援助者として必要な態度をとることができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合		50	10	20	20				100
評価の指標	知識に関する評価	50	10	20	20				100
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
支援を必要とする人の立場に立ち、その人の思いや希望に沿った支援が実施できる。	支援を必要とする人の思いや希望を理解し、必要とされる支援について考えることができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	介護概論を学ぶ意義１ オリエンテーション 自己紹介、授業の目標、授業の進め方、介護を学ぶ必要性	講義・対面講義	テキストに目を通しておく。	３０
第２回 ／	介護を支える制度	講義およびグループワーク 対面講義	介護保険制度・社会保障の概要について調べておく	60
第３回 ／	介護の場と特性(在宅と施設)	講義・対面講義	高齢者介護において、地域に住みながら利用できるサービスにはどのようなものがあるか調べておく	60
第４回 ／	対人援助におけるコミュニケーションの技法 コミュニケーションの重要性、言語的・非言語的コミュニケーション、傾聴と共感 ミニテスト	講義および演習、グループワーク 対面講義	日常生活において、家族や友人等、人間関係で困ったことや悩んだことの経験を各自でまとめておく。	60
第５回 ／	介護を必要とする人の理解 身体に障害を有する人の理解、認知症の人の理解 ミニテスト	講義・対面講義	認知症の種類とそれぞれの症状について、各自で調べておく。	60
第６回 ／	視覚障害のある人の手引き歩行	講義および演習・対面授業	視覚障害のある人が生活するとはどういう事かどのような環境が求められるかをまとめておく。	60
第７回 ／	基本的介護技法１ 移乗・移動の介護、車いすの基本的操作 ミニテスト	講義および演習、グループワーク 対面授業	**課題レポート** 車いすで学内を移動、その体験を通じて気づいたことや、介助者が配慮すべき点等をまとめる。	60
第８回 ／	関連職種との連携、チームケアの必要性	講義・対面授業	介護領域で関連する職種について、名称と主な業務について調べておく。	30
第９回 ／	アンガーマネジメント、アサーション、セルフケア	講義・対面授業	自身がコミュニケーションを図る際に気を付けていることについて振り返りまとめておく。介護を必要とする人の具体的な支援を総括し、パワーポイントにまとめる準備をしておく。	60
第10回 ／	基本的介護技法２ 衣類の着脱の介護 ミニテスト	講義および演習、グループワーク 対面授業	骨折やけがなどで通常行っている着替えができなくなったとき、自分ならどうするか（どうしてほしいか）まとめておく。	60
第11回 ／	基本的介護技法３ 食事の介護方法 ミニテスト	講義および演習、グループワーク 対面授業	自身の食事に関するこだわりや食事習慣について まとめておく。	60
第12回 ／	基本的介護技法４ 排泄の介護 ミニレポート	講義および演習、グループワーク 対面授業	排泄に対する援助を必要とする人の気持ちや援助の留意点についてまとめる。	60
第13回 ／	介護者への支援・虐待防止、介護を必要とする人の支援・まとめ	講義およびグループワーク 対面授業	「虐待」についての事件や関連のある出来事について、各自で調べてまとめておく。（高齢者分野以外でもよい。）介護を必要とする人の具体的な支援を総括し、パワーポイントにまとめる準備をしておく。	60
第14回 ／	介護現場で働く人の心構えと求められるニーズ ミニレポート	講義および演習、グループワーク 対面授業	介護現場で働く人の心構えを理解し、そこで働く者には、どのようなニーズが求められているかを理解する。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF33S113S	専門教育科目 キャリア形成領域	介護体験 Care Experiences for Person with Handicap	２単位	選　択	実　習	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	教職に就くことを前提とした学生のために，特別支援学校の児童・生徒と教職員及び，社会福祉施設の利用者と職員に，貴重な学習や生活の時間を提供してもらい介護等体験が実施されることを十分に理解し，その責任と積極的・主体的に介護等体験に臨む意識を持つことを，授業のねらいとする。
キーワード	教職・特別支援学校・社会福祉施設・介護等体験
学修教育目標	◎社会福祉施設等の内容，介護等体験への姿勢，基本的マナー，言葉使い，個人情報の秘匿，私語，身だしなみ等について理解する。 ◎次に挙げる目的を自分なりに意識して臨む。 ・弱者への人権意識をどれだけ高められるか。 ・ノーマライゼーションの思想をどれくらい受容できるか。 ・相手との共感的･受容的人間関係という観点で成長できるか。

授業科目の概要及び学修上の助言

（概要）教職に就くことを前提とした学生が，特別支援学校及び社会福祉施設での体験実習を通して，教職の責任と介護等体験に積極的・主体的に臨む意識を持つことができるようにするための科目。
（助言）単なる知識で分かったとするのではなく，体験実習を通して自ら考え，実感することができるようにしたい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

（関連）介護等体験と，小学校・中学校での教育実習とを受講生自らが，意識して関連づけながら履修すること。
（予備知識）これまでの保・幼・小・中・高等で，身体や心に障害を持った仲間との出会い。身内にいる高齢者との関わり等。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
自作プリント資料	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	実習校や施設で，在籍する児童・生徒，成人や高齢者等の皆さんに話しかけ，聞き取ることができる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち，適切に振舞うことができる。	規律を守り，礼儀をわきまえ，適切な態度・行動をとることができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し，計画的に課題解決のために取り組むことができる。	与えられた計画による実習の履修だけではなく，実習現場の状況を把握し，課題について計画的に取り組むことができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性		
	②　働きかけ力	入所者や在籍の児童・生徒への積極的な挨拶や話しかけができる。	○
	③　実行力		
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	施設や支援学校で働く人たちの行動や言葉から，その意図を理解し何をなすべきかを考えることができる。	○
	②　計画力		
	③　創造力		
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力		
	②　傾聴力	入所者や在籍の児童・生徒に話しかけたとき，そのことに対する態度や様子から，相手の気持ちや意図を理解しようとしている。	◎
	③　柔軟性		
	④　情況把握力	瞬時に生起，展開する事態に慌てることなく，落ち着いて状況をつかむことができる。	◎
	⑤　規律性		
	⑥　ストレスコントロール力		
4. 倫理観	①　倫理性		

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い，特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い，高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い，学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等)	合　計
総　合　評　価　割　合				35		35	30		100
評価の指標	知識に関する評価			7		7	6		20
	技能に関する評価			7		7	6		20
	応用力に関する評価			7		7	6		20
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価			7		7	6		20
	関心･意欲に関する評価			7		7	6		20

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
特別支援学校の児童・生徒と教職員及び，社会福祉施設の利用者と職員から学び，介護等体験が実施されることの意義を十分に理解し，責任と積極的・主体的に介護等体験に臨むことができる。	特別支援学校の児童・生徒と教職員及び，社会福祉施設の利用者と職員から学び，介護等体験が実施されることの意義を十分に理解することができる。

※評価の指標で示す数値内訳は，おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第１回 ／	事前学修①　～介護体験の意義について～ (事前・社会人基礎力評価を含む) 介護体験の意義について理解できる。	講義 面接授業	介護体験を受ける心構え(事前作文)	40
第２回 ／	事前学修②　～社会福祉施設とは～ 社会福祉施設の概要について理解できる。	講義 ―社会福祉施設から講師招聘― 面接授業	事前配布資料予習－要点レポート―	40
第３回 ／	事前学修③　～特別支援学校とは～ 特別支援学校の概要について理解できる。	講義 ―特別支援学校から講師招聘― 面接授業	事前配布資料予習－要点レポート―	40
第４回 ／	介護体験から社会人基礎力を身につける ～事前自己評価シートの記入～ 事前自己評価シートの記入を通して傾聴力，情況把握力を身につけようとしている。	講義と事前自己評価シートの記入 面接授業	社会人基礎力資料事前予習－要点レポート―	40
第５回 ／	介護体験①　～社会福祉施設での実習（第１日目）～ 社会福祉施設に慣れ，あいさつができる。	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	40
第６回 ／	介護体験②　～社会福祉施設での実習（第２日目）～ 社会福祉施設での学びの課題を見つけることができる。	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	40
第７回 ／	介護体験③　～社会福祉施設での実習（第３日目）～ 社会福祉施設での学びの課題に自分なりに取り組むことができる。	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	40
第８回 ／	介護体験④　～社会福祉施設での実習（第４日目）～ 社会福祉施設での学びの課題に取り組みの振り返りができる。	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	40
第９回 ／	介護体験⑤　～社会福祉施設での実習（第５日目）～ 社会福祉施設での学びの成果と課題を振り返ることができる。	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	30
第10回 ／	介護体験⑥　～特別支援学校での実習（第１日目）～ 特別支援学校での実習に課題を持って取り組むことができる。	特別支援学校での実習	実習支援学校からの課題の取り組み	40
第11回 ／	介護体験⑦　～特別支援学校での実習（第２日目）～ 自分の実習での取り組み目標の達成に心がけることができる。	特別支援学校での実習	実習支援学校からの課題の取り組み	40
第12回 ／	事後学修①　～社会福祉施設での実習の振り返り～ グループワークを通して情報の共有，まとめを行う グループワークを通して情報の共有，まとめを行うことができる。	講義と演習(実習まとめ) 面接授業	実習事前まとめ	40
第13回 ／	事後学修②　～特別支援学校での実習の振り返り～ グループワークを通して情報の共有，まとめを行う グループワークを通して情報の共有，まとめを行うことができる。	講義と演習(実習まとめ) 面接授業	実習事前まとめ	40
第14回 ／	事後学修③　～グループ発表～ 特別支援学校･社会福祉施設での振り返りのまとめと発表 介護体験から社会人基礎力を身につける ～事後自己評価シートの記入～ 介護体験の振り返りのまとめと発表ができる。 事後自己評価シートの記入を通して傾聴力，情況把握力を身につけることができている。	講義と演習(発表) 面接授業	プレゼン事前準備	40

TGU e-Learningシステム等による学修は，学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて，授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF31S114S	専門教育科目 キャリア形成領域	ボランティア実習 Volunteer Training	２単位	選　択	実　習	１年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	ボランティア実習は、学生自身がボランティア活動を通して社会と関わる中で、積極的に福祉活動に従事し、様々な福祉問題に前向きに取り組もうとするボランティア精神を身につけることを目的とする。
キーワード	ボランティア
学修教育目標	ボランティア活動に参加し、ボランティアについて理解することができる。 社会での活動を通じて、大学で学ぶ専門的な知識や技術をより実践的に修得し、社会人基礎力におけるそれぞれの能力要素を伸ばすことができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

ボランティア活動に参加する。安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持って活動に参加し、責任をもってやり遂げること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	責任を持ってやり遂げることができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	さまざまな問題に対し、解決方法を考えて取り組むことができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	○
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	△
	② 計画力	実行計画をたてることができる。	△
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	△
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 情況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	○
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （コメントシート等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	チームワーク力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
実習先の状況を理解して適切な行動をとることができる。	実習先で適切な行動をとることができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 1 回 ／	事前指導（オリエンテーション）		実習先へボランティア実習の受け入れについて依頼する	60
第 2 回 ／	実習（1）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第 3 回 ／	実習（2）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第 4 回 ／	実習（3）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第 5 回 ／	実習（4）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第 6 回 ／	実習（5）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第 7 回 ／	実習（6）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第 8 回 ／	実習（7）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第 9 回 ／	実習（8）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第 10 回 ／	実習（9）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第 11 回 ／	実習（10）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第 12 回 ／	実習（11）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第 13 回 ／	実習（12）（実習先での活動） 総実習時間：45 時間 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
第 14 回 ／	事後指導		事後レポートの作成、活動日誌のまとめ	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S115S	専門教育科目 キャリア形成領域	インターンシップ（学校） Internship（School）	２単位	選　択	実　習	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	学校現場での就業体験により、卒業後を見据えた将来像をより明確にすることができる。
キーワード	就業体験　学校
学修教育目標	教育現場の実際を経験し、取り組まなくてはならない課題を明確にすることができる。 教育現場で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。

授業科目の概要及び学修上の助言

高等学校・中学校・小学校・幼稚園・保育所等での就業体験を行う。
安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、教育する側に立っているという自覚をもって参加すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

実習先の特性をよく理解しておくこと。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自ら行動することができる。	◎
	②　働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③　実行力	目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	②　計画力	実行計画をたてることができる。	○
	③　創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	②　傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③　柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④　情況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	○
	⑤　規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。	○
	⑥　ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	①　倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
実習先の状況を理解して、積極的に課題解決に取り組むことができる。	実習先の状況を把握して、ふさわしい行動をとることができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。			
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S116S	専門教育科目 キャリア形成領域	インターンシップ（企業） Internship (Business Enterprise)	２単位	選　択	実　習	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	企業等での就業体験を行い、明確な職業意識と倫理観をもった職業人の育成と学外を含めた幅広い人間関係の醸成を図る。
キーワード	就業体験　企業
学修教育目標	企業等の実際を経験し、取り組まなくてはならない課題を明確にすることができる。 社会で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。

授業科目の概要及び学修上の助言

企業での就業体験に参加する。
安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、自覚をもって参加すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

実習先の特性をよく理解しておくこと。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自ら行動することができる。	◎
	②　働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③　実行力	目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	②　計画力	実行計画をたてることができる。	○
	③　創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	②　傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③　柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④　情況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	○
	⑤　規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。	○
	⑥　ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	①　倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
実習先の状況を理解して、積極的に課題解決に取り組むことができる。	実習先の状況を把握して、ふさわしい行動をとることができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。			
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S117S	専門教育科目 キャリア形成領域	インターンシップ（コーオプ） Internship (Part-time Job)	２単位	選　択	実　習	２年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	自己の職業適性を考え卒業後の職業選択の一助とするために、職種・業種を考慮に入れて就業先を選択し、実習を行う。
キーワード	就業体験　コーオプ
学修教育目標	自己の将来を見据えた職業選択ができる。 社会で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。

授業科目の概要及び学修上の助言

自己の職業適性を考え卒業後の職業選択の一助とするために、職種・業種を考慮に入れて就業先を選択し、実習を行う。
安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、就労に対する対価を受け取っているという自覚をもって参加すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

実習先の特性をよく理解しておくこと。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自ら行動することができる。	◎
	②　働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③　実行力	目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　問題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	②　計画力	実行計画をたてることができる。	○
	③　創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	②　傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③　柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④　情況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	○
	⑤　規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。	○
	⑥　ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	①　倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
実習先の状況を理解して、積極的に課題解決に取り組むことができる。	実習先の状況を把握して、ふさわしい行動をとることができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。			
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S093S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修Ａ Global Study A	１単位	選　択	実　習	１～４年次	春学期 ･秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	グローバル化時代の中で特に文化面に特化したプログラムを中心に考える。① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティをもう一段深めること、② 真の日本文化への造詣を深めつつ異文化を理解し、日本文化の特徴などをプレゼンテーションするための諸能力を高めることを目的とする。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などを体験学習し、研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得ることを目的する。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。 他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。

キーワード	異文化理解　プレゼンテーション力	学修教育目標	・現地の人々との交流を通じて、① 国･地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。 ・状況に応じて，的確に判断し行動することができる。 ・事後研修で、成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

研修地の特性をよく理解しておくこと。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
別途、教員から指示する。	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自ら行動することができる。	◎
	②　働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③　実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	②　計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③　創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	②　傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③　柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④　情況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤　規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	①　倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （コメントシート等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。	研修地の言語・文化を理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第１回 ／	第１日　事前研修　―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力　事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30 60
第２回 ／	グローバル研修（1）　―研修先での体験学習（第１日目）― 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第３回 ／	グローバル研修（2）　―研修先での体験学習（第２日目）― 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第４回 ／	グローバル研修（3）　―研修先での体験学習（第３日目）― 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第５回 ／	グローバル研修（4）　―研修先での体験学習（第４日目）― 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第６回 ／	グローバル研修（5）　―研修先での体験学習（第５日目）― 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第７回 ／	第７日　事後学修　―グローバル研修の振り返り― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②報告書の作成 グループワーク	演習	社会人基礎力　事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S094S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修Ｂ Global Study B	２単位	選　択	実　習	１～４年次	春学期 ･秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	グローバル研修Ａよりも長期間のプログラムにより体験学修をより充実し、グローバル化時代の中で特に文化面において、① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティを深める、②日本文化の造詣を深めることで異文化を理解し、自国文化をプレゼンテーションすることで諸能力を高める。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などの学修を通して、研修地の実情や状況について様々な体験をすることで、生きた知識を学びとる機会を得ることを目的する。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。 体験学修については、学生が主体的に企画・運営し、グループワーク行うことにより、コミュニケーション力、協調性、自主性、問題解決力、規律性や倫理観といった将来社会人として備えるべき能力を育成する。
キーワード	異文化理解　プレゼンテーション力
学修教育目標	他国（様々な地域）の文化・社会を理解することで、自国の文化を再認識あるいは新たな視野で認識できる知識を身につける。 体験研修を通して①国・地域色などを反映した文化・歴史等について深く知ることができる。②培った感性や知識を他者に的確に伝えることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

研修地の特性をよく理解しておくこと。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
別途、教員から指示する。	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 情況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （コメントシート等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。	研修地の言語・文化を理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第１回 ／	第１日　事前研修　―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力　事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30 60
第２回 ／	第２日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第１日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第３回 ／	第３日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第２日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第４回 ／	第４日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第３日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第５回 ／	第５日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第４日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第６回 ／	第６日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第５日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第７回 ／	第７日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第６日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第８回 ／	第８日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第７日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第９回 ／	第９日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第８日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第10回 ／	第10日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第９日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第11回 ／	第11日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第10日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第12回 ／	第12日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第11日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第13回 ／	第13日　事後学修（1）―グローバル研修の振り返り（1）― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成 グループワーク	演習	事後レポート作成 発表準備	30 60
第14回 ／	第14日　事後学修（2）―グローバル研修の振り返り（2）― グローバル研修の振り返りとまとめの発表 発表	演習	社会人基礎力　事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S095S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修Ｃ Global Study C	４単位	選　択	実　習	１～４年次	春学期 ･秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	長期の体験学修を通して、グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの醸成、異文化への深い理解･受容、日本と研修先との習慣･風習の違いの理解･受容、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 文化や社会活動･社会規範の違う地域での生活への順応性を身につけることを目的とする。 また事前･事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。
キーワード	異文化理解　日本文化理解　順応性
学修教育目標	現地の人々との交流を通じて、① 国･地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

研修地の特性をよく理解しておくこと。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
別途、教員から指示する。	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 情況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （コメントシート等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。	研修地の言語・文化を理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第１回 ／	第１日　事前研修　―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化･習慣の理解（事前調査） 演習課題	講義・演習	社会人基礎力　事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
第２回 ／	第２日　事前研修（2）　－事前学修のまとめ－ ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認 発表	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
第３回 ／	第３日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第１日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第４回 ／	第４日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第２日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第５回 ／	第５日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第３日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第６回 ／	第６日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第４日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第７回 ／	第７日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第５日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第８回 ／	第８日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第６日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第９回 ／	第９日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第７日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第10回 ／	第10日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第８日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 11 回 ／	第 11 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 9 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 12 回 ／	第 12 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 10 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 13 回 ／	第 13 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 11 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 14 回 ／	第 14 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 12 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 15 回 ／	第 15 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 13 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 16 回 ／	第 16 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 14 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 17 回 ／	第 17 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 15 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 18 回 ／	第 18 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 16 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 19 回 ／	第 19 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 17 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 20 回 ／	第 20 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 18 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 21 回 ／	第 21 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 19 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 22 回 ／	第 22 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 20 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 23 回 ／	第 23 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 21 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 24 回 ／	第 24 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 22 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 25 回 ／	第 25 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 23 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 26 回 ／	第 26 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 24 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 27 回 ／	第 27 日　事後学修（1）―研修内容のまとめ― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成 グループワーク	演習	事後レポート作成 発表準備	30 60
第 28 回 ／	第 28 日　事後学修（2）―グローバル研修の振り返り― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力　事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S096S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修D Global Study D	１単位	選　択	実　習	１～４年次	春学期 ･秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	グローバル化時代の中で特に文化面に特化したプログラムを中心に考える。① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティをもう一段深めること、② 真の日本文化への造詣を深めつつ異文化を理解し、日本文化の特徴などをプレゼンテーションするための諸能力を高めることを目的とする。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などを体験学習し、研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得ることを目的する。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。 他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。

キーワード	異文化理解　アジア	学修教育目標	近隣アジア諸国の人々との交流を通じて、① 国･地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

研修地の特性をよく理解しておくこと。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
別途、教員から指示する。	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自ら行動することができる。	◎
	②　働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③　実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	②　計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③　創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	②　傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③　柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④　情況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤　規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	①　倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （コメントシート等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。	研修地の言語・文化を理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第１回 ／	第１日　事前研修　―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力　事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30 60
第２回 ／	グローバル研修（1）　―研修先での体験学習（第１日目）― 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第３回 ／	グローバル研修（2）　―研修先での体験学習（第２日目）― 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第４回 ／	グローバル研修（3）　―研修先での体験学習（第３日目）― 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第５回 ／	グローバル研修（4）　―研修先での体験学習（第４日目）― 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第６回 ／	グローバル研修（5）　―研修先での体験学習（第５日目）― 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第７回 ／	第７日　事後学修　―グローバル研修の振り返り― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②報告書の作成 グループワーク	演習	社会人基礎力　事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S097S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修Ｅ Global Study E	２単位	選　択	実　習	１～４年次	春学期 ･秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的

グローバル化に対応するなかで、特に文化面に特化したプログラムを実施する。体験学修をより充実し、より長期間の滞在を通してコミュニケーション能力を駆使して、① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティを深める、②日本文化の造詣を深めることで異文化を理解し、自国文化をプレゼンテーションすることで諸能力を高める。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などの学修を通して、研修地の実情や状況について様々な体験をすることで、生きた知識を学びとる機会を得ることを目的する。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。

他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。

キーワード

異文化理解　日本文化理解　実行力

学修教育目標

現地の人々とのコミュニケーションを通して、① 自国文化を発信し、他者の理解を得ることができる能力を身につける。② 他国の文化・歴史の理解を深めつつ、自国文化の再認識を深める。

さらに現地での研修を通じて学び取った知識を事後研修で、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

研修地の特性をよく理解しておくこと。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
別途、教員から指示する。	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 情況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （コメントシート等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。	研修地の言語・文化を理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第１回 ／	第１日　事前研修　―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力　事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30 60
第２回 ／	第２日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第１日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第３回 ／	第３日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第２日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第４回 ／	第４日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第３日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第５回 ／	第５日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第４日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第６回 ／	第６日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第５日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第７回 ／	第７日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第６日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第８回 ／	第８日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第７日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第９回 ／	第９日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第８日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 10 回 ／	第 10 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第９日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 11 回 ／	第 11 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 10 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 12 回 ／	第 12 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 11 日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 13 回 ／	第 13 日　事後学修（1）―グローバル研修の振り返り（1）― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成 グループワーク	演習	事後レポート作成 発表準備	30 60
第 14 回 ／	第 14 日　事後学修（2）―グローバル研修の振り返り（2）― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力　事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S098S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修Ｆ Global Study F	４単位	選　択	実　習	１～４年次	春学期 ･秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	長期の体験学修を通して、グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの醸成、異文化への深い理解･受容、日本と研修先との習慣･風習の違いの理解･受容、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 文化や社会活動･社会規範の違う地域での生活への順応性を身につけることを目的とする。 また事前･事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。
キーワード	異文化理解　異言語コミュニケーション ホームステイ
学修教育目標	ホームステイを取り入れて、ホストファミリーや現地の人々との交流を通じて、① 国･地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

研修地の特性をよく理解しておくこと。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
別途、教員から指示する。	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 情況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （コメントシート等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。	研修地の言語・文化を理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第１回 ／	第１日　事前研修　―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化･習慣の理解（事前調査） 演習課題	講義・演習	社会人基礎力　事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
第２回 ／	第２日　事前研修（2）　－事前学修のまとめ－ ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認 発表	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
第３回 ／	第３日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第１日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第４回 ／	第４日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第２日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第５回 ／	第５日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第３日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第６回 ／	第６日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第４日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第７回 ／	第７日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第５日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第８回 ／	第８日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第６日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第９回 ／	第９日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第７日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第10回 ／	第10日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第８日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 11 回 ／	第 11 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 9 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 12 回 ／	第 12 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 10 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 13 回 ／	第 13 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 11 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 14 回 ／	第 14 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 12 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 15 回 ／	第 15 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 13 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 16 回 ／	第 16 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 14 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 17 回 ／	第 17 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 15 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 18 回 ／	第 18 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 16 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 19 回 ／	第 19 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 17 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 20 回 ／	第 20 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 18 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 21 回 ／	第 21 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 19 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 22 回 ／	第 22 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 20 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 23 回 ／	第 23 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 21 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 24 回 ／	第 24 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 22 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 25 回 ／	第 25 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 23 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 26 回 ／	第 26 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 24 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 27 回 ／	第 27 日　事後学修（1）―研修内容のまとめ― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成 グループワーク	演習	事後レポート作成 発表準備	30 60
第 28 回 ／	第 28 日　事後学修（2）―グローバル研修の振り返り― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力　事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S099S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修G Global Study G	３単位	選　択	実　習	１～４年次	春学期 ･秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの修得、異文化への理解、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 異文化いや社会活動･社会規範の違う地域での生活の順応性を身につけることを目的とする。 また事前･事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。

キーワード	異文化理解　異言語コミュニケーション　アジア	学修教育目標	アジアの国々の人々との交流を通じて、① 国･地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、知識を深める。さらに事前学修にて知識による現地の理解を、事後研修にて現地での研修を通じて学び取った知識を、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に高めることを目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

研修地の特性をよく理解しておくこと。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
別途、教員から指示する。	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 情況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （コメントシート等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。	研修地の言語・文化を理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	第１日　事前研修　―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化･習慣の理解（事前調査） 演習課題	講義・演習	社会人基礎力　事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
第２回 ／	第２日　事前研修（2）　－事前学修のまとめ－ ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認 発表	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
第３回 ／	第３日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第１日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第４回 ／	第４日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第２日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第５回 ／	第５日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第３日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第６回 ／	第６日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第４日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第７回 ／	第７日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第５日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第８回 ／	第８日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第６日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第９回 ／	第９日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第７日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第10回 ／	第10日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第８日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 11 回 ／	第 11 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 9 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 12 回 ／	第 12 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 10 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 13 回 ／	第 13 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 11 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 14 回 ／	第 14 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 12 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 15 回 ／	第 15 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 13 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 16 回 ／	第 16 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 14 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 17 回 ／	第 17 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 15 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 18 回 ／	第 18 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 16 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 19 回 ／	第 19 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 17 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 20 回 ／	第 20 日　事後学修（1）―研修内容のまとめ― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成 グループワーク	演習	事後レポート作成 発表準備	30 60
第 21 回 ／	第 21 日　事後学修（2）―グローバル研修の振り返り― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力　事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SGT31S100S	専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修H Global Study H	３単位	選　択	実　習	１～４年次	春学期 ･秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	グローバル化に向けて、言語コミュニケーションの修得、異文化への理解、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 異文化いや社会活動･社会規範の違う地域での生活の順応性を身につけることを目的とする。 また事前･事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。

キーワード	異文化理解　異言語コミュニケーション　欧米	学修教育目標	欧米の国々の人々との交流を通じて、① 国･地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、知識を深める。 さらに事前学修にて知識による現地の理解を、事後研修にて現地での研修を通じて学び取った知識を、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に高めることを目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

研修地の特性をよく理解しておくこと。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
別途、教員から指示する。	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自ら行動することができる。	◎
	②　働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③　実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	②　計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③　創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	②　傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③　柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④　情況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤　規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥　ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	①　倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （コメントシート等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。	研修地の言語・文化を理解している。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	第１日　事前研修　―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化･習慣の理解（事前調査） 演習課題	講義・演習	社会人基礎力　事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
第２回 ／	第２日　事前研修（2）　－事前学修のまとめ－ ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認 発表	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
第３回 ／	第３日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第１日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第４回 ／	第４日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第２日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第５回 ／	第５日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第３日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第６回 ／	第６日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第４日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第７回 ／	第７日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第５日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第８回 ／	第８日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第６日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第９回 ／	第９日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第７日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第10回 ／	第10日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第８日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 11 回 ／	第 11 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 9 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 12 回 ／	第 12 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 10 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 13 回 ／	第 13 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 11 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 14 回 ／	第 14 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 12 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 15 回 ／	第 15 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 13 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 16 回 ／	第 16 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 14 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 17 回 ／	第 17 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 15 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 18 回 ／	第 18 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 16 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30
第 19 回 ／	第 19 日　グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修　第 17 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 活動状況	実習	活動のまとめ	30

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第 20 回 ／	第 20 日　事後学修（1）―研修内容のまとめ― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成 グループワーク	演習	事後レポート作成 発表準備	30 60
第 21 回 ／	第 21 日　事後学修（2）―グローバル研修の振り返り― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力　事後自己評価シートの記入 報告書作成	30 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSL52F119S	専門教育科目 特別講座	教職教養講座Ａ Basic Course on Teaching Profession A	１単位	自　由	講　義	２年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	・教員となるための基礎的・基本的な知識を確実に習得し、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学修に取り組む態度を養うことを目指す。 ・「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」の要点とその分野における課題を理解する。

キーワード	教員採用試験　教職の意義　教育の基礎理論	学修教育目標	・教員採用試験における教職教養テストに対応できる。 ・「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

教員採用試験における教職教養テスト（「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人またはグループで学修する。事前学修、復習は必ず行うこと。　教員採用試験における教職教養テスト（「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人またはグループで学修する。適宜集中講義（宿泊を伴う場合もある）も実施をするので参加をすること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教職教養講座Ｂ、教職教養講座Ｃも受講することが望ましい。教職・教育支援センターも積極的に活用をすること。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
『TwinBooks 完成シリーズ教職教育の要点理解』時事通信社 『TwinBooks 完成シリーズ教職教養の演習問題』時事通信社	『生徒指導提要』(教育図書)文部科学省のページからのダウンロードでも構わないので用意をする。 自分に合っていると思う教員採用試験対策問題集　参考書など用意して自習をすること。(わからないと きは相談に来ること)

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	自らの弱点を把握し、自主学習にも取り組むこと。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	グループワークや面接練習を通じて、必要の技能を会得し、高めるよう努める。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	テキストをしっかり理解をし、グループワーク等でリーダシップを発揮できるよう努めること。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	教育法規の条文をしっかりと理解をし、イメージをふくらませ、教員としての倫理観を持つこと。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	教員採用試験「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」に対応ができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自主的に学修に取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	周囲と共に学修する雰囲気を作り出すことができる。	◎
	③　実行力	自ら演習課題を見つけ出すことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	自己のウィークポイントを明らかにすることができる。	○
	②　計画力	ウィークポイントを克服するための学修計画を立てることができる。	◎
	③　創造力	ウィークポイントを克服するための学修方法を見つけ出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	説明をすることができる。	○
	②　傾聴力	説明を聴いて理解することができる。	○
	③　柔軟性	取組みに対する様々な姿勢を受け入れることができる。	○
	④　情況把握力	何をすべきか判断できる。	○
	⑤　規律性	ルールを守って適切に行動できる。	○
	⑥　ストレスコントロール力	楽しんで取り組むことができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	他者のことを考えて行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （コメントシート等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
・自ら課題を見つけ、積極的に取り組む。 ・説明をした事項については覚えて、現場の子どもや自分の指導をイメージができること。	課題に対して積極的に取り組むことができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	西洋教育史概説(古代、コメニウス～新教育運動) ミニテスト	面接授業 講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第２回目に確認テストを行う。	240
第２回 ／	西洋教育史概説　前回の復習、20 世紀の教育まで ミニテスト	面接授業 講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第３回目に確認テストを行う。	240
第３回 ／	日本教育史概説　明治期を中心に ミニテスト	面接授業 講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第４回目に確認テストを行う。	240
第４回 ／	日本教育史概説　大正期から戦前 ミニテスト	面接授業 講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第５回目に確認テストを行う。	240
第５回 ／	日本教育史概説　戦後の制度　学習指導要領の変遷 ミニテスト	面接授業 講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第６回目に確認テストを行う。	240
第６回 ／	生徒指導提要 振り返りシート	面接授業 発表	説明をした事項について覚えておくこと、第７回目に確認テストを行う。	240
第７回 ／	教育心理(発達) ミニテスト	面接授業 講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、最終の確認テストを行う。	240
第８回 ／	教育心理(発達)　まとめのテスト	面接授業 講義　テスト	今までの復習をし、既習内容を会得し、自学を続行すること。	240

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSL53S120S	専門教育科目 特別講座	教職教養講座Ｂ Basic Course on Teaching Profession B	１単位	自　由	講　義	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	・教員となるための基礎的・基本的な知識を確実に習得し、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学修に取り組む態度を養うことを目指す。 ・「教育課程及び指導法に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することを目的とする。

キーワード	教員採用試験　教職課程及び指導法	学修教育目標	・教員採用試験における教職教養テストに対応できる。 ・「教育課程及び指導法に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

教員採用試験における教職教養テスト（「教育課程及び指導法に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人またはグループで学修する。事前学修、復習は必ず行うこと。
通常の講義の教職教養科目は、すべて関連をしているので取りこぼしのないようにすること。別途 学修内容の定着を目標として集中講座(宿泊を伴う場合もあり)を実施するので参加をすること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教職教養講座 A、教職教養講座 C も受講することが望ましい。教職・教育支援センターも積極的に利用をすること。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
『2022 年度　TwinBooks　教職教養の要点理解』時事通信社 『2022 年度　TwinBooks　教職教養の演習問題』時事通信社	『生徒指導提要』(教育図書)文部科学省のページからのダウンロードでも構わない。 『2021 年度　教員採用試験対策オープンセサミシリーズ　セサミノート』七賢出版

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	自らの弱点を把握し、自主学習にも取り組むことができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	グループワークや面接練習を通じて、必要の技能を会得し、高めることができる。	○
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	テキストをしっかり理解をするよう努め、グループワーク等で生かすことができる。	○
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	教育法規や教員の倫理観などを主体的に学ぶことができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	教職教養テスト（「教育課程及び指導法に関する科目」）に対応できる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自主的に学修に取り組むことができる。	◎
	②　働きかけ力	周囲と共に学修する雰囲気を作り出すことができる。	◎
	③　実行力	自ら演習課題を見つけ出すことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	自己のウィークポイントを明らかにすることができる。	○
	②　計画力	ウィークポイントを克服するための学修計画を立てることができる。	◎
	③　創造力	ウィークポイントを克服するための学修方法を見つけ出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	説明をすることができる。	○
	②　傾聴力	説明を聴いて理解することができる。	○
	③　柔軟性	取組みに対する様々な姿勢を受け入れることができる。	○
	④　情況把握力	何をすべきか判断できる。	○
	⑤　規律性	ルールを守って適切に行動できる。	○
	⑥　ストレスコントロール力	楽しんで取り組むことができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	他者のことを考えて行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
・自ら課題を見つけ、積極的に取り組む。 ・説明をした事項については覚えて、現場の子どもや自分の指導をイメージができること。	課題に対して積極的に取り組むことができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	西洋教育史・日本教育史確認テスト 解説	面接授業 講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第２回目に確認テストを行う。	240
第２回 ／	西洋教育史・日本教育史・教育心理確認テスト(再 解説	面接授業 講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第３回目に確認テストを行う。	240
第３回 ／	教育法規（教育基本法を中心に） 教員採用試験過去問 小テスト	面接授業 講義・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第４回目に確認テストを行う。	240
第４回 ／	教育法規(教育基本法を中心に) 教員採用試験過去問 小テスト	面接授業 講義・小テスト グループワーク	説明をした事項について覚えておくこと、第５回目に確認テストを行う。	240
第５回 ／	教育法規(発達障害者支援法、日本国憲法を中心に) 教員採用試験過去問 小テスト	面接授業 講義・小テスト グループワーク	説明をした事項について覚えておくこと、第６回目に確認テストを行う。	240
第６回 ／	生徒指導提要３章 教員採用試験過去問 小テスト	面接授業 講義・発表	説明をした事項について覚えておくこと、第７回目に確認テストを行う。	300
第７回 ／	生徒指導提要４章 教員採用試験過去問 小テスト	面接授業 講義・発表	説明をした事項について覚えておくこと、最終の確認テストを行う。	300
第８回 ／	まとめのテスト	面接授業 講義　テスト	今までの復習をし、既習内容を会得し、自学を続行すること。	300

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSL53F121S	専門教育科目 特別講座	教職教養講座Ｃ Basic Course on Teaching Profession C	１単位	自　由	講　義	３年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	・教員となるための基礎的・基本的な知識を確実に習得し、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学修に取り組む態度を養うことを目指す。 ・「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することを目的とする。

キーワード	教員採用試験　生徒指導　教育相談　進路指導	学修教育目標	・教員採用試験における教職教養テストに対応できる。 ・「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

教員採用試験における教職教養テスト（「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人またはグループで学修する。事前学修、復習は必ず行うこと。教員採用試験における教職教養テスト（「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人及びグループで学修する。必要に応じて集中講義や宿泊を伴う講座を実施する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教職教養講座 A、教職教養講座 B も受講することが望ましい。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
『2022 年度版　TwinBooks 教職教養の要点理解』時事通信社 『2022 年度版　TwinBooks 教職教養の演習問題』時事通信社	『2022 年度　教員採用試験対策オープンセサミシリーズ　セサミノート』七賢出版

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	自らの弱点を把握し、自主学習にも取り組むこと。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	グループワークや面接練習を通じて、必要の技能を会得し、高めるよう努める。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	テキストをしっかり理解をし、グループワーク等でリーダーシップを発揮できるよう努めること。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。	教育法規の条文をしっかりと理解をし、イメージをふくらませ、教員としての倫理観を持つこと。	○
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	教職教養テスト（「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」）に対応できる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自主的に学修に取り組むことができる。	○
	②　働きかけ力	周囲と共に学修する雰囲気を作り出すことができる。	○
	③　実行力	自ら演習課題を見つけ出すことができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	自己のウィークポイントを明らかにすることができる。	○
	②　計画力	ウィークポイントを克服するための学修計画を立てることができる。	◎
	③　創造力	ウィークポイントを克服するための学修方法を見つけ出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	説明をすることができる。	○
	②　傾聴力	説明を聴いて理解することができる。	○
	③　柔軟性	取組みに対する様々な姿勢を受け入れることができる。	○
	④　情況把握力	何をすべきか判断できる。	○
	⑤　規律性	ルールを守って適切に行動できる。	○
	⑥　ストレスコントロール力	楽しんで取り組むことができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	他者のことを考えて行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作　品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメントシート等)	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	チームワーク力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
・自ら課題を見つけ、積極的に取り組む。 ・説明をした事項については覚えて、現場の子どもや自分の指導をイメージができること。	課題に対して積極的に取り組むことができる。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	西洋教育史、日本教育史、教育心理復習テスト 解説①	面接授業 講義・演習・テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第２回目に確認テストを行う。	30
第２回 ／	西洋教育史、日本教育史、教育心理復習テスト 解説② 小テスト	面接授業 講義、演習・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第３回目に確認テストを行う。	120
第３回 ／	教育心理(発達) 教員採用試験過去問 小テスト	面接授業 講義・演習・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第４回目に確認テストを行う。	120
第４回 ／	教育心理学(対人援助) 教員採用試験過去問 小テスト	面接授業 講義・演習・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第５回目に確認テストを行う。	120
第５回 ／	教育心理学(行動療法、学習) 教員採用試験過去問 小テスト	面接授業 講義・演習・小テスト	説明をした事項について覚えておくこと、第６回目に確認テストを行う。	120
第６回 ／	生徒指導提要 教員採用試験過去問 小テスト　コメントシート	面接授業 講義・発表	説明をした事項について覚えておくこと、第７回目に確認テストを行う。	120
第７回 ／	生徒指導提要 教員採用試験過去問 小テスト　コメントシート	面接授業 講義・発表	説明をした事項について覚えておくこと、最終の確認テストを行う。	120
第８回 ／	まとめ　まとめてのテスト	面接授業 講義　テスト	今までの復習をし、既習内容を会得し、自学を続行すること。	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSS13S122S	専門教育科目 ゼミ	基礎ゼミⅠ Foundation Seminar Ⅰ	１単位	必　修	演　習	３年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	卒業論文作成に向けた総合演習（卒論ゼミ）形式で進める。これまでの課程で獲得した知識を他へ自己表現する能力（プレゼンテーション能力）を身につける。
キーワード	卒業研究
学修教育目標	・各回のテーマに応じて必要となる知識を獲得することができる。 ・テーマに関したディスカッションに、積極的に関わることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ　テーマ一覧表」で確認すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ　テーマ一覧表」で確認すること。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
別途、教員から指示する。	別途、教員から指示する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ　テーマ一覧表」及び、第１回目の授業で説明する。	
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	②　働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。	○
	③　実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。	○
	②　計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。	○
	③　創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	○
	②　傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。	○
	③　柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。	○
	④　情況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。	○
	⑤　規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	○
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

到達度の評価方法は第１回目の授業で担当教員から説明する。

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安

第１回目の授業で担当教員から説明する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第１回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第１回目の授業の中で説明する。	
第２回 ／				
第３回 ／				
第４回 ／				
第５回 ／				
第６回 ／				
第７回 ／				
第８回 ／				
第９回 ／				
第10回 ／				
第11回 ／				
第12回 ／				
第13回 ／				
第14回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSS13F122A	専門教育科目 ゼミ	基礎ゼミⅡ Foundation Seminar Ⅱ	１単位	必　修	演　習	３年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	総合演習形式で卒業論文作成に向けた演習を行う。受講生の討論から対比的に学ぶことで、様々な知識を身につける。自らが獲得した知識に対する他者からの評価を建設的に受け止めることができる。
キーワード	卒業研究
学修教育目標	・まとめた内容を他者が理解できるよう説明できる。 ・他者の意見を取り入れて自らの知識・理解の枠を広げることができる。 ・他者の発表に対して建設的な意見を述べることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ　テーマ一覧表」で確認すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ　テーマ一覧表」で確認すること。

教　　科　　書	参考書･リザーブドブック
別途、教員から指示する。	別途、教員から指示する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ　テーマ一覧表」及び、第１回目の授業で説明する。	
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。		
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	①　主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	②　働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。	○
	③　実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	①　課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。	○
	②　計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。	○
	③　創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	①　発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	○
	②　傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。	○
	③　柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。	○
	④　情況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。	○
	⑤　規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	○
	⑥　ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。	○
4. 倫理観	①　倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。	○

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

到達度の評価方法は第１回目の授業で担当教員から説明する。

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安

第１回目の授業で担当教員から説明する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第１回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第１回目の授業の中で説明する。	
第２回 ／				
第３回 ／				
第４回 ／				
第５回 ／				
第６回 ／				
第７回 ／				
第８回 ／				
第９回 ／				
第10回 ／				
第11回 ／				
第12回 ／				
第13回 ／				
第14回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSS14S123S	専門教育科目 ゼミ	ゼミⅠ Seminar Ⅰ	１単位	必　修	演　習	４年次	春学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	卒業論文のためのテーマを設定し解決のための仮説の組み立てを行う。
キーワード	卒業研究
学修教育目標	・テーマに関する先行論文を検索・研究し、理解して発表できる。 ・自らの研究内容に対して批判的に考察できる。 ・他者の発表に対して、批判的に意見を述べることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

第１回目の授業で担当教員から説明する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

第１回目の授業で担当教員から説明する。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
別途、教員から指示する。	別途、教員から指示する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	第１回目の授業で担当教員から説明する。	
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。	◎
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。	◎
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。	◎
	④ 情況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

到達度の評価方法は第１回目の授業で担当教員から説明する。

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安

第１回目の授業で担当教員から説明する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第１回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第１回目の授業の中で説明する。	
第２回 ／				
第３回 ／				
第４回 ／				
第５回 ／				
第６回 ／				
第７回 ／				
第８回 ／				
第９回 ／				
第10回 ／				
第11回 ／				
第12回 ／				
第13回 ／				
第14回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング	授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSS14F123A	専門教育科目 ゼミ	ゼミⅡ Seminar Ⅱ	１単位	必　修	演　習	４年次	秋学期

授業科目の学修教育目的･目標

学修教育目的	今まで学んできたことを基礎として、各自が設定したテーマについて考察した内容をまとめ、テーマに対する知識・理解を定着させる。また、相互批判を受け止め、互いに高めあう関係を構築することができる能力を身につける。
キーワード	卒業研究
学修教育目標	・テーマに関する研究をまとめることができる。 ・自らの研究内容に対する他者の批判的意見を受け入れさらに内容を改善できる。 ・相互学修を通して他者と共に成長することができる能力を身につける。

授業科目の概要及び学修上の助言

第１回目の授業で担当教員から説明する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

第１回目の授業で担当教員から説明する。

教　科　書	参考書･リザーブドブック
別途、教員から指示する。	別途、教員から指示する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。		
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。		
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	第１回目の授業で担当教員から説明する。	
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。		
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力（アクション）	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。	◎
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力（シンキング）	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。	◎
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力（チームワーク）	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。	◎
	④ 情況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。	◎

※1　◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される　○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される　△:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2　◎:効果的に発揮できる力が身に付く　○:通常の状況で発揮する力が身に付く　△:身に付くことが期待できる能力

達　成　度　評　価									
評　価　方　法 指標と評価割合		試　験	小テスト	レポート	成果発表 （口頭・実技）	作　品 （成果物）	ポート フォリオ	その他 （ｺﾒﾝﾄｼｰﾄ等）	合　計
総　合　評　価　割　合									
評価の指標	知識に関する評価								
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	ﾁｰﾑﾜｰｸ力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								

到達度の評価方法は第１回目の授業で担当教員から説明する。

具体的な達成の目安	
理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安

第１回目の授業で担当教員から説明する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）･授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習･復習）	時間(分)
第１回 ／	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第１回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第１回目の授業の中で説明する。	
第２回 ／				
第３回 ／				
第４回 ／				
第５回 ／				
第６回 ／				
第７回 ／				
第８回 ／				
第９回 ／				
第10回 ／				
第11回 ／				
第12回 ／				
第13回 ／				
第14回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習･復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学･自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。